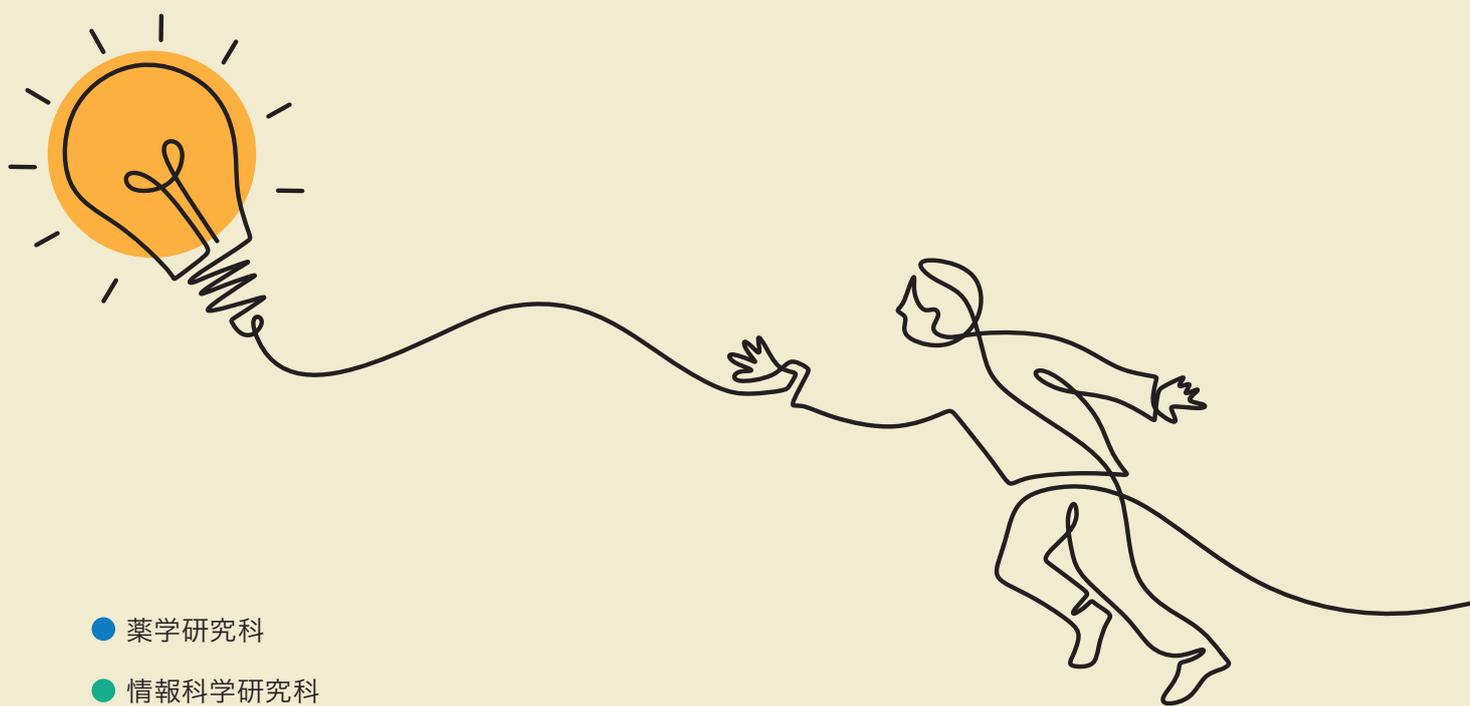


帝京平成大学大学院

GUIDE BOOK 2026



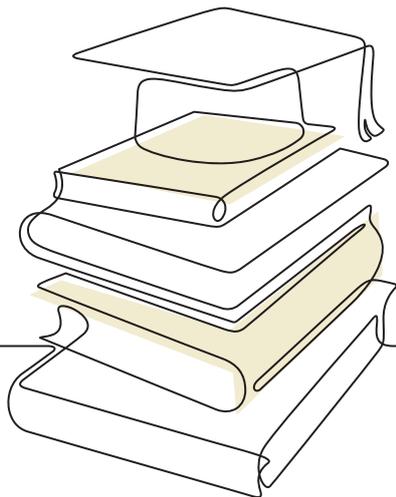
- 薬学研究科
- 情報科学研究科
- 経営学研究科*
- 健康科学研究科
- 臨床心理学研究科
- 看護学研究科
- 通信制大学院
情報科学研究科

※2026年度新設予定。



社会のニーズに応える スペシャリストを養成します。

日々めざましい進歩をとげる現代では、多様な社会的ニーズを生み出す一方で、グローバル化が進む社会に新たな課題を投げかけています。帝京平成大学大学院は、建学の理念でもある“実学の精神”を基に、学際的な幅広い知見と深い知識を持ち、高度な実践能力を身につけた人材を養成します。最新の研究設備を備え、ともにアクセスに恵まれた、池袋・中野の2つのキャンパスにおいて、各研究機関と連携し、様々な実績を誇る指導教員、専門分野の探究にとどまらない学際的なカリキュラムが、本大学院生の研究をサポートしています。充実した環境と教育体制を背景に、薬学・情報科学・経営学・健康科学・臨床心理学・看護学の6つの研究領域を修め、国際社会に通用する幅広い知見と、専門分野で求められる実践能力を持ち、真に社会に役立つことのできるスペシャリストを養成する、これが帝京平成大学大学院の使命と考えます。



CONTENTS

帝京平成大学大学院 2026

お知らせ

経営学研究科 新設について

※2026年度新設予定。

- 03 学長メッセージ
- 04 修了生・在学生からのメッセージ
- 10 大学院組織・授業時間
- 11 課程修了の認定及び学位
- 12 社会人学生を対象とした修学支援制度
- 13 キャンパス紹介 ～中野キャンパス～
- 14 キャンパス紹介 ～池袋キャンパス～

- 15 ●薬学研究科 中野キャンパス
 - 15 薬学専攻(博士課程)

- 25 ●情報科学研究科 中野キャンパス
 - 25 情報科学専攻(修士課程)
社会情報学分野・健康情報学分野
 - 25 情報科学専攻(博士課程)

- 37 ●経営学研究科※ 中野キャンパス
 - 37 経営学専攻*(修士課程)

- 39 ●健康科学研究科 池袋キャンパス
 - 41 鍼灸学専攻(修士課程)
 - 46 柔道整復学専攻(修士課程)
 - 50 健康栄養学専攻(修士課程)
 - 56 言語聴覚学専攻(修士課程)
 - 61 作業療法学専攻(修士課程)
 - 66 理学療法学専攻(修士課程)
 - 72 病院前救急医療学専攻(修士課程)
 - 77 臨床心理学専攻(博士課程)
 - 81 健康科学専攻(博士課程)
鍼灸学分野／柔道整復学分野／
健康栄養学分野／言語聴覚学分野／
作業療学分野／理学療学分野／
病院前救急医療学分野

- 85 ●臨床心理学研究科 池袋キャンパス
 - 85 臨床心理学専攻(専門職学位課程)

- 91 ●看護学研究科 中野キャンパス
 - 91 看護学専攻(修士課程)
 - 91 看護学専攻(博士課程)

- 101 ●通信制大学院 情報科学研究科
 - 101 情報科学専攻(修士課程)
社会情報学分野・健康情報学分野

- 110 学費
- 112 2026年度 帝京平成大学大学院 入学者選抜日程
- 113 建学の精神／基本理念／使命・目的／沿革

Message from President

学長メッセージ

多様化する社会のニーズに応え 幅広い分野でプロフェッショナルな 人材を養成します

帝京平成大学 学長

冲永 寛子 Okinaga Hiroko

東京大学医学部医学科卒業。
博士（医学）、医師。

東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科を経て2006年6月学校法人
帝京平成大学副理事長に就任。2007年8月から帝京平成大学学長に就任。
日本内分泌病理学会奨励賞、アクロメガリーフォーラム奨励賞を受賞。

わが国は急速な勢いで高齢化が進んでいます。また世界に目を向けるとグローバル化の波がやはり急速に広がっています。このように変化の激しい社会を背景に、心と体の健康や環境・情報の重要性はますます高まっています。

近年、医療はめざましい進歩を遂げていますが、一方で社会のニーズは多岐にわたり、様々な課題も出てきました。このため薬学・情報科学・健康科学・臨床心理学・看護学の分野では高度な専門性と包括的・複眼的な視野と知識を持った人材が求められています。

その要望に応えるのが、まさに帝京平成大学大学院です。

本大学院は、薬学研究科（博士課程）、情報科学研究科（修士課程／博士課程／通信制大学院修士課程）、経営学研究科*、健康科学研究科（修士課程／博士課程）、臨床心理学研究科（専門職学位課程）、看護学研究科（修士課程／博士課程）の6研究科が設置されています。これらの研究科は、それぞれの専門分野で高度な教育・研究を展開しており、臨床心理学研究科は東日本で最初に開設された臨床心理専門職大学院として、現代社会における多様な心の課題に向き合う“心のスペシャリスト”

を養成しています。

より高度なスキルや知識を備えた専門家や研究者を養成するため、建学の精神でもある“実学の精神”を基とした学びと研究を实践、基礎的研究から実践的な臨床研究まで、領域を超えた幅広い研究活動を活発に行っています。

本大学院では、それぞれの専門分野を掘り下げることはもちろんですが、隣接する諸科学についても多角的・学際的に追究し、国際的に通用する幅広く深い知見と、専門分野で求められる実践能力を身につけ、今後の社会の要請や課題に応え得る優れた人材の輩出を目指しています。

ここには、皆さんがこれまでにご得られた知識と経験を十二分に活かすことができる充実した研究・教育体制を完備しています。未来の薬学・情報科学・経営学・健康科学・臨床心理学・看護学研究に対し高い探究心を持ち合わせるとともに、建学の精神で高らかに謳っている“創造力豊かな逞しい人間愛にあふれた人材”として、国際社会に通用する真のプロフェッショナルなリーダーになってくれることを願っています。

※2026年度新設予定。

Message

from Enrolled Students & Graduates

修了生・在学生からのメッセージ

想像してみる。自分の進むべき道を、

あるいは、現在の道をより確かな歩みで進む自分の姿を。

帝京平成大学大学院では、

想像の未来に高度な専門性が不可欠だと感じた人たちが、

それぞれの未来を創造すべく日々学び、研究をしています。

想像から創造へ。そんな道のを経る在学生、

専門分野で活躍している修了生をご紹介します。



Message from Enrolled Students

01



患者さまに頼られる 医療従事者として、薬局薬剤師の 力量を高める研究がしたい

在学生

蓮見 康太 薬学研究科 薬学専攻

研究テーマ 慢性頭痛の病態解明と
薬剤師の頭痛患者対応に関する研究

学部時代は薬剤師国家試験の勉強や研究に励んでおり、特に卒業研究では、食品中のプリン体の定量に取り組みました。プリン体は痛風や高尿酸血症と関連しているため、様々な食品の1日の摂取量がガイドラインで定められています。中にはガイドラインに載っていない食品もあります。こうしたガイドライン未記載の食品のうち、患者さまから要望のあった食品を中心に測定を行ううち、私が測定した数値が、実際に痛風や高尿酸血症患者さまの食事療法に役立つことを実感するようになりました。この経験から、「研究を通じて患者さまのQOLの向上や生活習慣の改善に寄与したい」という考えが生まれ、大学院進学を決めるに至りました。

学部卒業とともに薬局薬剤師として就職したため、今は働きながら大学院に通っています。大学院での研究テーマは「慢性頭痛の病態解明と薬剤師の頭痛患者対応に関する研究」です。慢性頭痛の患者さまは約4000万人いると言われていて、特に20～40歳の割合が高く、医療機関を受診せず薬局で市販薬を購入し、自己管理を行っているケースが多いのも特徴です。つまり、慢性頭痛の患者さまが初めて接する医療従事者が薬剤師となる場合があるということで、そうした立場



にある薬剤師が、患者さまにとって最適な対応をできるようにすることが、私の研究の目的です。

指導して下さる先生方はとても丁寧で、学位取得に向けて全力でサポートしていただけていると感じます。薬学研究科は中野キャンパスにありますが、駅からも近く、働きながら学びやすいのもポイントです。何より、創薬系だけではなく臨床系の講義も充実しているため、学部時代の学びを深められるのはもちろん、臨床医療についても学ぶことができます。そのため、薬局薬剤師として勤務する中でも、とくに臨床現場での実践や医療への貢献につながっている実感を持つことができ、それがやりがいにもつながっています。

薬局薬剤師として働きながら大学院で学ぶことは決して楽な道ではありません。しかし、現在の研究を通じて得られた知見を日々の臨床現場に活かし、患者さまのQOL向上に努めるためにも、今後も研鑽に励みたいと思っています。学部生時代から研究テーマは変わりましたが、「研究を通じて医療に貢献したい」という気持ちは変わりません。皆さんも私と一緒に帝京平成大学大学院で学び、ともに医療に貢献していきましょう。



Message from Enrolled Students

02

質の高い学びの場があれば、 何歳になっても成長できる

在学生

小野寺 妙子 情報科学研究科 情報科学専攻

研究テーマ 医療分野と情報科学の情報活用の可能性

リカレント教育は、変化の激しい社会で必要とされる人材を養成し、課題解決に貢献するための大切な要素です。私たちが迎えているデジタル・トランスフォーメーション（DX）の波は、国際的な視野を持ちながら、実学を通じて問題に対応できる力を求めています。

私自身、これまで医療や教育、観光、ITなど様々な分野での経験を積んできました。しかし、社会の急速な変化に対応するため、再び学びの道に戻ることを決めました。専門学校や大学、そして修士課程での学びを通じて、継続的な学びがもたらす力を改めて実感しています。大学院では、AIや情報サイエンス、ビッグデータなど、日々進化する技術に触れながら、これらを実際の問題解決に応用するスキルを磨いています。指導教員の先生からは、深い専門知識や論理的思考、そして方法論を学び、未来を創造する力を感じています。

具体的には、地域医療や障がい者支援における機械学習の可能性を探り、新しいモデルの構築に取り組んでいます。働きながら学ぶことは決して簡単ではありませんが、その努力は必ず実を結びと信じています。仕事と学業の両立を通じて、時間管理や自己管理のスキルが磨かれ、実務経験と学術知識を結びつけることで、より深い理解と新た



な視点を得ることができました。

継続的な学びの価値は、時間と共にますます高まると感じています。社会で培った経験を発展させるために、大学院での学びが重要な役割を果たしていると実感しています。新しい知識やスキルを身につけることで、自己成長を続け、社会に対する新しい形での貢献ができることに、大きな喜びを感じています。

リカレント教育は、私たちが成長し続けるための鍵です。帝京平成大学大学院では、基礎研究から応用研究までの一連の流れを学び、学会発表や論文執筆を通じて研究成果を国際的に広く共有し、社会実装を目指しています。ここでは、研究者や専門家とのつながりを築き、そのご意見を伺う機会が多くあります。

皆さんも、学び続けることの大切さを忘れずに、興味や情熱を大切にしてください。どの道を選んでも、学ぶ姿勢を持ち続けることで、きっとやりがいを見つけられるはずですよ。中野キャンパスで、日本から世界に目を向けながら、自分の選んだ学びを大切に育てていきましょう。皆さんのこれからの挑戦を、私も心から応援しています。新しい未来へ向けて、一緒に歩いていけることを楽しみにしています。

Message from Enrolled Students

03



充実の講義と活発な研究活動に触れ 学術経験がなくても、 働きながら成長できる

在学生

梶葉 しのぶ 健康科学研究科 鍼灸学専攻

研究テーマ 膝周囲筋への鍼通電刺激が重心動揺に及ぼす影響

私は、自身が競技者であった経験から、ジュニアアスリートのサポートがもっと当たり前になってほしいと考え、アスリートのサポートや指導ができるよう、体育大学で各競技に関する理論やコーチング、コンディショニングについて学びました。その後、専門学校に通って鍼灸師の資格を取得。17年間臨床の場で働いてきました。

大学院への進学を決めたのは、臨床を続ける中でなぜ?と思うことが多々あり、その疑問を明らかにすることで、クライアントはもちろん、これから鍼灸師を目指そうとしている方に対しても明確に伝えていけるようになりたかったからです。進学先を選ぶ際には、鍼灸専門学校の先輩が帝京平成大学の教員であったこと、また、希望の研究内容について相談した際、先輩自身の過去の研究経験から親身になってアドバイスをしてくれたことが決め手になりました。

現在は、膝周囲へ鍼通電刺激を行うと重心の動揺にどのような影響が出るのかといったことを明らかにする研究をしています。研究により、重心が安定するために効果的な刺激部位や、鍼通電刺激の有効性を明らかにできれば、将来的には、高齢者の転倒予防やアスリートの姿勢制御などに応用できるのではないかと期待しています。



学んでいてありがたいのは、講義が充実していることと、先生方の研究、学会発表、論文発表が盛んなこと。おかげで私のように学術経験の全くない者でも、研究者として必要な内容をしっかり学ぶ機会があります。また、附属の鍼灸院、鍼灸臨床センターで実習ができ、先生方の豊富な知識や技術を惜みなく伝えていただけるので、臨床経験が少ない人でも安心して学ぶことができると思います。様々な専攻科があり、他職種の先生や学生と幅広く意見交換や連携ができるのも魅力です。

今は、大学院で進めている研究を臨床で活かしつつさらなる研究を重ね、学んだことを後輩へ伝える育成事業にも携わっていきたく考えています。私は臨床の仕事をしながらかんでおり、一児の母でもあるため、家庭のことや育児もこなしながら通学していますが、フレクシブルな時間割や、修了期間を延長して学べる長期履修学生制度など、置かれた環境を維持しつつ通える配慮が充実しているのも本学の魅力。鍼灸の可能性の追求や臨床での活かし方、世界的な視野での鍼灸に少しでも興味がある方は、ぜひ飛び込んでいただき、一緒に研究、臨床活動をしていきましょう。



最先端の機器を駆使した 分析研究を経て 幅広い研究分野への道が開けた

修了生

磯谷 俊太朗 健康科学研究科 健康栄養学専攻

研究テーマ ノンターゲットオミクスによる
和食の伝統調味料の網羅的解析と新規化合物探索

学部時代は、本学の健康メディカル学部健康栄養学科で管理栄養士免許取得を目指して勉強していました。しかし学んでいくうちに、調理師免許と管理栄養士免許を活かし、食品メーカーの研究開発の仕事がしたいと考えるようになりました。そう考えるようになったのは、研究指導教員である前田竜郎先生との出会いがきっかけです。先生は長年食品メーカーで研究開発を行ってきた経験の持ち主で、研究室では最先端の装置を使用した食品の成分分析を行っていらっしゃいました。学部にはゼミ制度はありませんでしたが、先生の研究の見学やお手伝いをする機会があり、その経験から研究職に興味を持ち、大学院進学を決めました。進学先としては他大学の大学院も検討しましたが、様々な企業との共同研究にも参加できることが決め手となり、帝京平成大学大学院を選択しました。

大学院では、和食の伝統調味料、とくに醤油に着目した研究を行っていました。目的は、おいしさの主要因とされる風味やコクを網羅的に解析して、醤油製品に共通する品質特性を解明し、種類や製造方法による差異を明らかにすることです。研究を進めるにあたっては、前田先生の研究室に導入されているおいの網羅解析装置のほか、帝京



大学の中央機器室に設置されている味の分析装置もお借りするなど、最先端の装置を駆使して研究を行うことができました。さらに、研究科の中に医療関連の専攻が複数あり、それぞれの分野に精通した先生方の授業を受けて知見を広げたり、自身の研究テーマ以外にも様々な研究に参加できたりと、とても充実した大学院生活を送ることができました。

現在は、化学製品の品質管理の仕事を行っています。当初の目標とは異なる進路ですが、大学院で機器分析を行った経験から選択肢が広がったため、とても良かったと思っています。とはいえ、食品メーカーの研究開発職への興味は今も残っているため、今後は食品業界も含めた幅広い業界で通用するスキルを、さらに磨いていきたいと思っています。

大学院での研究内容は、その先の人生に大きな影響を及ぼします。最適な研究室を選択するには、修了後の進路も見据えて慎重に考えることが重要です。大学院に少しでも興味があれば、まずは実際に先生方に相談してみることで、目指す進路にふさわしい研究室と出合えるでしょう。



学際的カリキュラムで 幅広い視点を養いつつ探究心を高め、 新時代の看護教育を究める

在学生

三枝 祐子 看護学研究科 看護学専攻

研究テーマ 新しい時代に即した基礎看護学教育の教育手法の開発

看護師経験を経て帝京平成大学大学院に進学したのは、私自身が以前本学で教員として勤務しており、研究科長の吉澤千登勢先生のもと、「教育力によって学生の学びを最大限に引き出す教育実践」を間近で体験する機会があり、教育の奥深さに魅了されたためです。そのため専攻も、基盤看護学領域の「看護教育・キャリア開発分野」を選択。新しい時代に即した看護学教育をテーマに、社会生活における生成AIの浸透なども視野に入れつつ、有意義な研究をしていきたいと思っています。

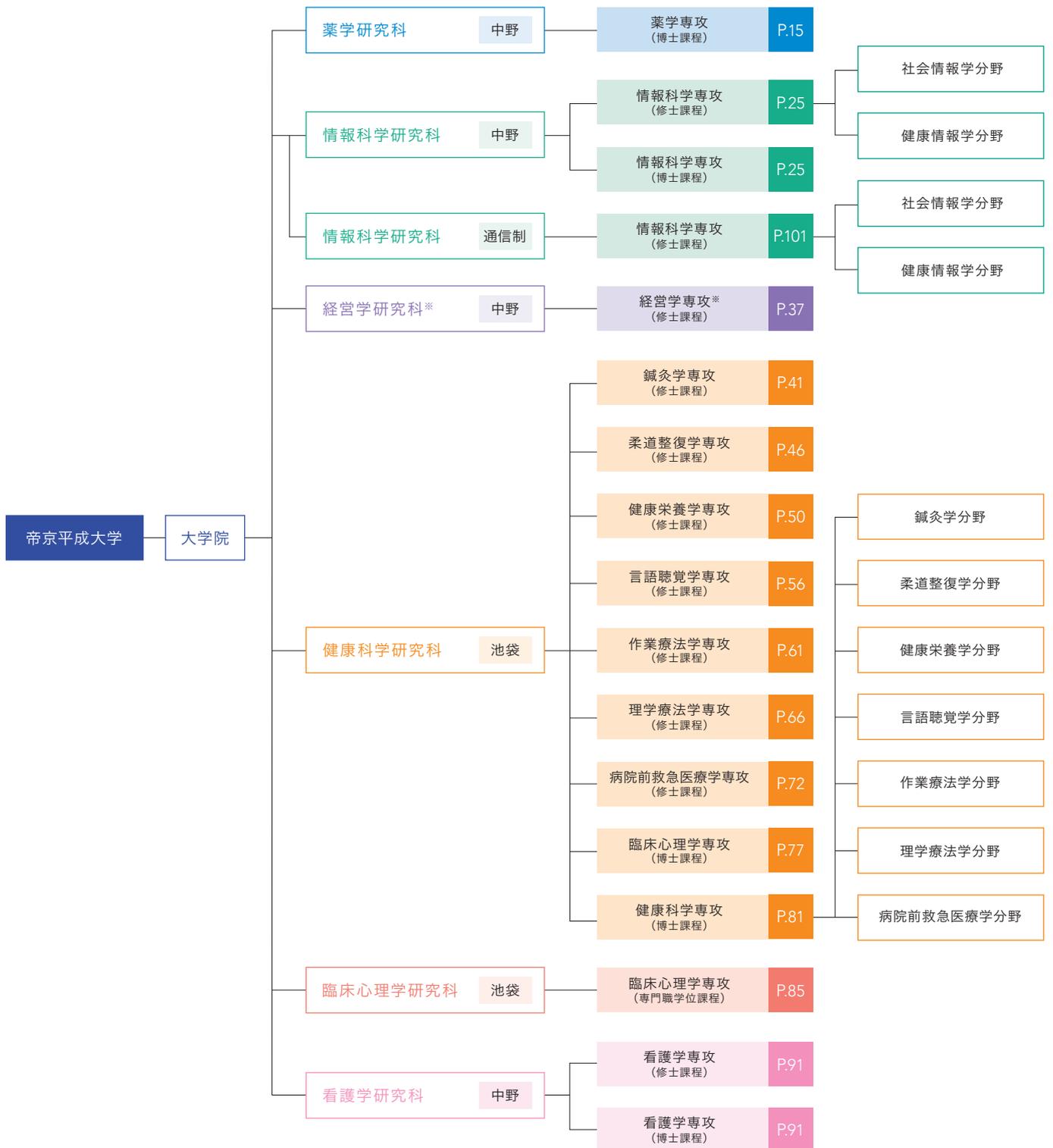
本学の看護学研究科でおすすめできていると感じているポイントは3つあります。1つ目は学際的なカリキュラム編成。看護学はもちろん、医学、薬学、理学療法、作業療法、鍼灸、精神保健、公認心理師などの先生方にもご教授いただく機会があるため、より幅広い視点から看護について考えることができます。2つ目は事務職員の方や先生方による手厚いサポート体制です。大学院は「自律・自立」して学問と対峙しなければ学位取得には至らないと思っていますが、困った時に相談できる場所が用意されているのはとても心強いこと。常勤で勤めながら通学できる体制にも大いに助けられています。3つ目は、最新の学術情報に



オンラインでアクセスできる環境があること。特に私のように新しい時代に即した内容について研究するにはとても有利な環境だと言えるでしょう。

今後の目標は、看護教育に関する研究を通じて自らの探求力を磨くと共に、生涯学び続ける精神力を培うことです。また、本学で学んだことを教育実践にもつなげ、若い世代の看護師に質の高い教育を提供できるようになりたいと思っています。本学には、私自身のように働きながら学ぶ学生や、遠方から通学している学生もいます。そんな学生たちを、中野駅から徒歩9分という立地の利便性が支え、充実した学修環境が学ぶ意欲を喚起しています。この恵まれた環境で、私たちと一緒に、看護教育者・研究者・実践者としてのスキルアップを目指してみませんか？

大学院組織



授業時間

時間割

時限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限	7 時限
時間	9:00 ∩ 10:30	10:40 ∩ 12:10	13:00 ∩ 14:30	14:40 ∩ 16:10	16:20 ∩ 17:50	18:00 ∩ 19:30	19:40 ∩ 21:10

※2026年度新設予定。

課程修了の認定及び学位

研究科	専攻	分野	課程	在学期間	修得単位及び条件	学位
薬学研究科	薬学専攻	—	博士	4年以上8年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (薬学)
情報科学研究科	情報科学専攻	社会情報学分野 健康情報学分野	修士	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (情報学)
		—	博士	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (情報学)
経営学研究科*	経営学専攻*	—	修士	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (経営学)
健康科学研究科	鍼灸学専攻 柔道整復学専攻 健康栄養学専攻 言語聴覚学専攻 作業療法学専攻 理学療法学専攻 病院前救急医療学専攻	—	修士	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (健康科学)
	臨床心理学専攻	—	博士	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (健康科学)
	健康科学専攻	鍼灸学分野 柔道整復学分野 健康栄養学分野 言語聴覚学分野 作業療学分野 理学療学分野 病院前救急医療学分野	博士	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	—	専門職学位	2年以上4年以下	●50単位以上	臨床心理修士 (専門職)
看護学研究科	看護学専攻	—	修士	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (看護学)
		—	博士	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (看護学)
情報科学研究科 (通信制)	情報科学専攻	社会情報学分野 健康情報学分野	修士	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (情報学)

※2026年度新設予定。

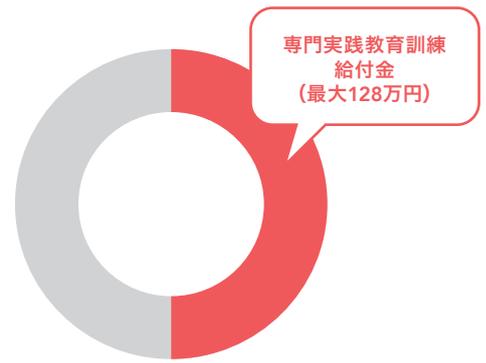


社会人学生を対象とした修学支援制度

■「専門実践教育訓練給付制度」厚生労働大臣指定講座

本学臨床心理学研究科 臨床心理学専攻（専門職大学院）は、社会人ならびに社会人経験者の皆様に対するキャリアアップの場となるべく、「専門実践教育訓練給付制度」の対象講座として再指定を受けております（2021年4月入学生より適用。2026年9月末まで有効）。

「専門実践教育訓練給付制度」は、一定の条件を満たす雇用保険の被保険者（在職者）または被保険者であった方（離職者）が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練講座を受講し、修了した場合、教育訓練経費の一部について、公共職業安定所から給付金として支給を受けることができる制度です。この制度を利用することで、本学臨床心理学専攻の2年間に必要な総負担経費の約5割にあたる、最大128万円が支給されます。



指定研究科・専攻

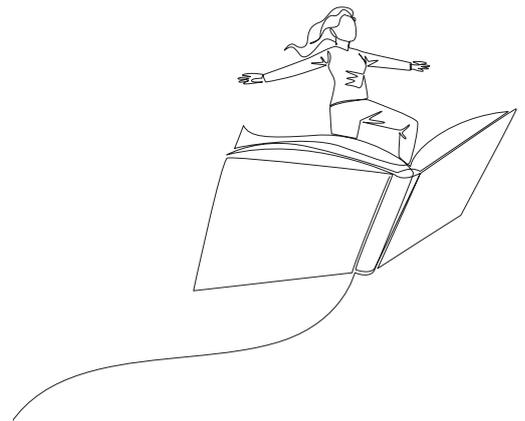
研究科	専攻	課程	指定期間
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	専門職学位課程	2020年10月1日～2026年9月30日

■「一般教育訓練給付制度」厚生労働大臣指定講座

一般教育訓練に関する教育訓練給付制度とは、働く人の主体的な能力開発の取り組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

一定の条件を満たす雇用保険の被保険者（在職者）または被保険者であった方（離職者）が、厚生労働大臣の指定する一般教育訓練講座を受講し、修了した場合、教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一定の割合に相当する額が、公共職業安定所から支給されます（受講費用の20%、上限10万円）。

本学では、「一般教育訓練給付制度」の対象として、以下の9課程が指定を受けています。



指定研究科・専攻一覧

研究科	専攻	課程	指定期間
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	2024年4月1日～2027年3月31日
	看護学専攻	博士課程	2024年4月1日～2027年3月31日
健康科学研究科	鍼灸学専攻	修士課程	2024年4月1日～2027年3月31日
	柔道整復学専攻	修士課程	2024年10月1日～2027年9月30日
	健康栄養学専攻	修士課程	2024年10月1日～2027年9月30日
	作業療法学専攻	修士課程	2024年10月1日～2027年9月30日
	理学療法学専攻	修士課程	2025年4月1日～2028年3月31日
	健康科学専攻	博士課程	2025年4月1日～2028年3月31日
	情報科学研究科	情報科学専攻	博士課程

一般教育訓練給付制度の概要や対象者、申請方法につきましては厚生労働省 教育訓練給付制度よりご確認ください。

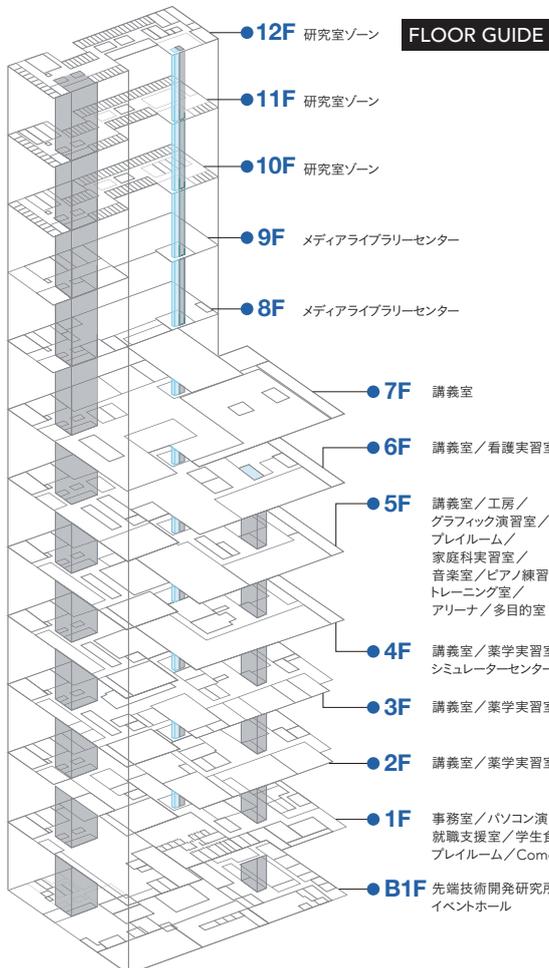


中野駅から徒歩9分
芸術文化の街に生まれた
機能的なキャンパス



新宿から中央線快速で1駅という抜群のアクセスを誇る中野キャンパス。都心環境と芸術文化、アカデミックな環境が融合した街で、地域貢献や交流を軸とする実学重視の学びを展開。先進性あふれる空間や免震構造、最新の設備を備えています。

※2026年度新設予定。



講義室

大人数教室から少人数教室まで、様々な学修環境を完備しています。



実習室フロア

実習室と教室を同フロアとし、日常的に実習に触れる機会を設けています。



解析機器室

薬学研究を支える最先端の機器や装置を使用し、薬の解析や測定を行います。



P2実験室

遺伝子 (DNA) を大腸菌などに組み込んで増幅させたり、遺伝子の機能を探ったりする実験に使用します。



メディアライブラリーセンター

学修環境の充実はもちろん、8・9階に位置した眺望の良さでリフレッシュ効果も抜群です。



学生食堂

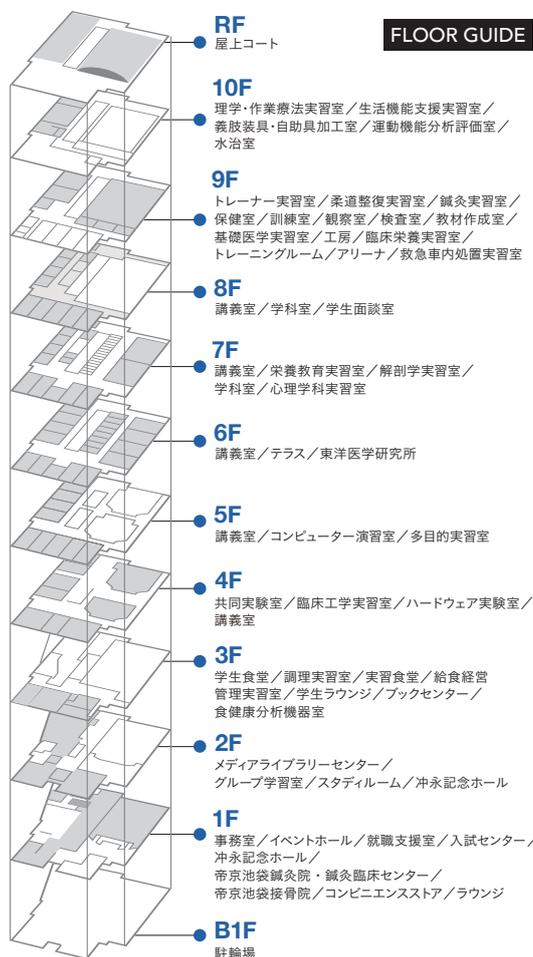
メニューが豊富な学生食堂は、学生の憩いの場としてにぎわいます。

複数路線が乗り入れる
アクセスに優れた
医療系キャンパス

健康科学
研究科

臨床心理学
研究科

東京・副都心のターミナル、池袋駅から徒歩圏内にある池袋キャンパス。地下1階、地上10階建てのキャンパスは、学内で実践的に技術を学べる接骨院・鍼灸院や最新設備を整えた実習室はもちろんのこと、免震構造や地域環境に配慮した最先端のシステムにより、安全で快適な研究環境を提供します。



講義室

大人数教室から少人数教室まで、様々な学修環境を完備しています。



実習室フロア

実際の医療現場でも使用される最新機器を備えた各実習室で実践的な臨床研究を行います。



帝京池袋鍼灸院・鍼灸臨床センター

池袋キャンパスMiNoRiセントラル敷地内の附属医療施設では、臨床に関する知識と技能を深めます。



帝京平成大学臨床心理センター (MiNoRiラボ)

地域の方からの多様な心理相談に応じる当センターで臨床実習を行います。



メディアライブラリーセンター

遅くまで開館し、学修の場として活用されています。



学生食堂

安くて美味しいメニューが揃った学生食堂は、学生たちの強い味方です。

薬学研究科

薬学専攻（博士課程）



わが国の社会・医療・創薬を結ぶ、 くすりの専門家を養成します

本研究科では、わが国の医療を支える専門性の高い薬剤師の養成を目指し、「医療実践」「創薬・橋渡し」「医薬評価・規制」の3研究分野を設けて研究を行います。「医療実践」研究分野では、これからの地域連携医療を牽引する薬剤師として「在宅・地域医療のスペシャリスト」の養成を目指していますが、特に、フィジカル・アセスメントなど科学的エビデンスに基づいて薬物治療や評価を行える能力、ほかの医療スタッフとコミュニケーションできる能力を重視いたします。「創薬・橋渡し」研究分野においては、優れた医薬品を探索・開発し、それらを社会へ提供するための研究を実施します。具体的には、様々な疾患に関係する創薬ターゲットや、抗体薬などの分子標的薬に関する基礎・実用化研究を行い、加えて「医薬評価・規制」研究分野のコース・ワークを組み合わせることによって、医療の現場や医薬品開発マネジメントなど、他分野での研究にも従事できるpharmacist-scientistを養成する計画です。「医薬評価・規制」研究分野では、「医薬品開発と規制の調和」や「医療と経済の調和」に関する研究を通して、薬と社会・私たちの生活との調和について見識を備えた指導者を養成いたします。

このように本研究科で研究を積むことによって、現役の薬剤師など社会人の方々も、時代の要請に応えられるキャリア・アップを実現していただきたいと願っております。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
薬学研究科	薬学専攻	4年以上8年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	博士（薬学）

社会と医療の動きに即応する 実践的な専門教育と研究

Message

これからの薬剤師には、薬学的知見を活かし、より高度な薬学的管理を実践することが求められます。科学技術の進歩や人々の価値観の変化により、薬学・薬剤師に社会が期待することは変わっていきます。本研究科は、このような社会や医療の動きをいち早く捉えて、医療提供体制を支え牽引する人材の養成を目指しています。6年制薬学教育で培った能力をさらに高めたい方、薬剤師としてのキャリアアップを目指し専門性を身につけたい方が、医療実践分野、創薬・橋渡し分野、医薬評価・規制分野の研究を通じて、その目標を達成できるようにサポートします。



薬学研究科長
亀井 美和子
Kamei Miwako

特色

地域医療を担う「在宅・地域医療のスペシャリスト」を養成します

地域包括ケアシステムにおいて、薬剤師は薬学的知見を有する専門職として、多職種・多施設と連携しながら、地域住民の健康サポートや在宅医療における薬物療法を担います。

本研究科の医療実践分野では、科学的エビデンスに基づく薬物療法、フィジカル・アセスメント、多職種連携の実践能力を身につけた「在宅・地域医療のスペシャリスト」の養成を目指しています。

創薬や医療現場での実績を活かし、実践的な課題解決能力を養成します

本研究科には、研究所や製薬企業において画期的な創薬の実績を有する教員、病院や薬局で専門領域の研究実績を有する薬剤師など、優れた研究能力と実務経験を備えたスペシャリストが揃っています。経験と実績を活かし、専門分野における実践的な問題解決能力を養成しています。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

薬学研究科 薬学専攻（博士課程）

薬学研究科 薬学専攻は、その教育・研究目的を達成するために、本学の建学の精神、「実学の精神」に則り、「医療実践、革新的創薬、医薬評価・規制」の分野における教育・研究を実施するため、以下の入学者を求める。

- ① 薬学の専門知識を基に医療に貢献する意欲を有している。
- ② 医療における課題に関心を持ち、自らの研究を通じて課題解決を図る意欲と能力を有している。
- ③ 他者と協力・連携しながら教育・研究に取り組む行動力と、高い倫理観を有している。

研究テーマ

※研究テーマ等は変更になる場合があります。

コース	テーマ	担当教員
医療実践 履修コース	薬物療法への効果的な関わり方に関する研究、薬物療法の経済性に関する研究	教授 博士(薬学) 亀井美和子
	薬局薬剤師の在宅医療を含めた地域医療における役割と実践に関する研究	教授 博士(人間科学) 菊地真実
	地域医療においてのITを用いた薬剤師—患者コミュニケーションと主観的QOL評価	教授 博士(薬学) 井手口直子
	地域支援と多職種連携に関する研究、「薬育」の教育効果と推進に関する研究	教授 博士(薬学) 小原道子
	健康食品の安全性に関する検討、シミュレータを用いた教育法の開発	教授 博士(薬学) 丸山桂司
	高感度分析法を基盤とする新規検査・診断法の開発に関する研究	准教授 博士(薬学) 大野賢一
	古文書の解析にもとづく伝統医薬学の研究	准教授 博士(薬学) 鈴木達彦
	慢性頭痛の病態解明と薬剤師の頭痛患者対応に関する研究	教授 博士(薬学) 石井正和
	植物培養細胞を用いた医薬品開発における評価モデル作成に関する検討、嚔下困難患者に対するゼリー剤を用いた服薬方法の検討	教授 博士(薬学) 島崎学
	PHR (personal health record) アプリを用いた患者のHealth literacyとSelf efficacyの向上に関する研究	准教授 博士(薬学) 半田智子
医薬品による副作用発現機構の解析と副作用の予防・治療法の確立	准教授 博士(医学) 雨宮貴洋	
創薬・橋渡し 履修コース	活性酸素感受性チャネル活性化を介した炎症性疾患の増悪に関する研究	教授 博士(薬学) 清水俊一
	新しい炭素-炭素結合生成反応の開発研究、有用生体活性物質の合成研究	教授 博士(薬学) 小松俊哉
	新たなオーラルケア戦略のための基礎検討、NKT細胞による新たな免疫療法の開発	教授 博士(薬学) 名取威徳
	新規抗腫瘍薬のピフィズ菌DDSの改良	教授 薬学博士 斎藤浩美
	抗老化を目指した漢方薬及び天然由来物質の評価	教授 薬学博士 高松智
	昆虫とその共生微生物の共生成立機構の解明	教授 博士(薬学) 小林秀昭
	脂質性生体活性物質の産生機構に関する研究	教授 博士(薬学) 中谷良人
	M1アミノペプチダーゼの基質認識機構に関する研究	教授 博士(地球環境科学) 大西敦
	ユビキチン・プロテアソームシステムを介した細胞機能制御機構の解明	教授 博士(理学) 八代田英樹
	遺伝子組換えピフィズ菌をDDS担体として用いた抗腫瘍薬の開発	教授 博士(薬学) 平裕一郎
	動脈硬化症の発症・進展過程における分子機構の解明	准教授 博士(薬学) 池本守
	細胞外分泌小胞の構造と機能に関する研究	准教授 博士(薬学) 小川裕子
	組換えピフィズ菌の培養及び精製法の開発	准教授 博士(薬学) 平郁子
	ナノマテリアルと抗体・細胞治療の毒性と薬物動態に関する研究	教授 博士(薬学) 磯田勝広
	細胞死誘導性アゴニスト抗体とDDSの組み合わせによる抗腫瘍薬の開発	准教授 博士(薬学) 西川毅
	光刺激による細胞骨格の操作手法の開発	准教授 博士(理学) 吉田卓史
	ミトコンドリア生物学を基盤とした疾患制御および薬物毒性に関する研究	准教授 博士(薬学) 濱田和真
	生活習慣と薬物治療の相互作用に関する研究	准教授 博士(健康科学) 山元健太
タンパク質分解酵素による脳機能調節機構に関する研究	准教授 博士(農学) 後藤芳邦	
IgEの架橋活性を指標とする新規アレルギー試験法の開発	准教授 博士(薬学) 秋山晴代	
医薬評価・規制 履修コース	家庭用品等に含まれる有害物質の分析及び曝露評価に関する研究	教授 博士(薬学) 伊佐間和郎
	薬物治療の向上に資する医薬品情報の提供・医薬行政に関する研究	教授 博士(薬学) 渡邊伸一
	データサイエンスに基づいた臨床医学研究の開発	教授 博士(薬学) 濃沼政美
	皮膚外用製剤混合物の基剤安定性や主成分均一性に関する研究	教授 博士(薬学) 山本佳久
	スペシャルポピュレーションにおける医薬品適正使用に関する研究	准教授 博士(薬学) 佐村優

教員一覧

教授	准教授
亀井 美和子	秋山 晴代
並木 徳之	池本 守
高橋 美樹子	小川 裕子
宮崎 生子	平 郁子
小松 俊哉	西川 毅
名取 威徳	大野 賢一
菊地 真実	鈴木 達彦
清水 俊一	吉田 卓史
斎藤 浩美	濱田 和真
井手口 直子	後藤 芳邦
高松 智	山元 健太
伊佐間 和郎	佐村 優
渡邊 伸一	半田 智子
小林 秀昭	雨宮 貴洋
八代田 英樹	
小原 道子	
濃沼 政美	
中谷 良人	
石井 正和	
島崎 学	
大西 敦	
丸山 桂司	
平 裕一郎	
山本 佳久	
磯田 勝広	

薬学研究科 薬学専攻（博士課程） 授業科目一覧

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目	科目区分	授業科目
研究分野 医療実践	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘルスプロモーション特講 ●実務薬学特講 ●地域医療薬学特講 ●メディカルライティングスキル特講 ●臨床薬理学特講 ●臨床薬剤学特講 ●疾病と薬物治療特講 ●プレゼンテーション論特講 ●リサーチスキル特講 ●伝統医薬学特講 	研究分野 医薬評価・規制	<ul style="list-style-type: none"> ●薬事・薬害史特講 ●医薬品開発戦略学特講 ●実践医療統計学特講 ●医薬品開発・評価学特講 ●創薬科学特講 ●医療製剤学特講 ●化学物質リスク評価学特講 ●知的財産管理學特講 ●医薬品情報学特講 ●医療安全学特講 ●薬剤疫学・医薬経済学特講 ●医薬安全科学特講
	<ul style="list-style-type: none"> ●先端生命科学特講 ●分子生物薬学特講 ●細胞生化学特講 ●ドラッグターゲティング学特講 ●RNAの分子生物学特講 ●生活習慣病の生化学特講 ●薬学英語特講 ●新製剤設計学特講 ●応用タンパク質工学特講 ●病態解析学特講 ●分子薬理学特講 ●統合生理学特講 ●微生物学・感染症学特講 ●生命情報伝達学特講 ●ケミカルバイオロジー特講 ●蛋白質構造生物学特講 ●抗体医薬品研究開発学特講 ●医療倫理学特講 ●薬理動態安全性科学特講 ●応用環境薬学特講 ●環境科学特講 ●ゲノム情報学特講 		<p>各研究分野共通科目</p> <p>薬学特別研究</p>

研究指導教員紹介

研究科長/教授/博士(薬学)、修士(経営学)

亀井 美和子

Kamei Miwako

研究分野 社会薬学**研究項目** 医薬品の適正使用、薬剤給付制度、地域連携に基づくヘルスアウトカム研究**最終学歴** 筑波大学大学院 経営政策科学研究科 経営システム科学専攻 修士課程修了**資格** 薬剤師、臨床検査技師

主な業績

【受賞】●Postdoctoral Presentation Award,日本薬学会第26回製剤セミナー 2001 ●論文賞,日本医療薬学会,2005 【著書】●薬剤師実務のアウトカム,医学アカデミー,2019 ●薬事法規・制度・倫理マニュアル改訂13版,南山堂,2019
【論文】●2型糖尿病患者のジペプチジルペプチダーゼ-4阻害薬及びビグアナイド薬に対する服薬頻度別のアドヒアランス及び関連因子,YAKUGAKU ZASSHI, 2019 ● New Role of Japanese Pharmacists Focusing on Medication Therapy Management in a Team Care Approach, Journal of Pharmacy Practice and Research, 2019.

教授/博士(薬学)

小松 俊哉

Komatsu Toshiya

研究分野 有機合成化学、創薬化学**研究項目** 炭素-炭素結合形成反応の開発と有用薬理活性物質の合成研究**最終学歴** 東京理科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻 修士課程修了

主な業績

●Iwasaki E., Shimizu Y., Akagi Y. and Komatsu T. "Synthesis and in Vitro Cytotoxicity Evaluation of Jadomycins" Chem. Pharm. Bull. 2023, 71, 730-733.
●Akagi Y., Mori Y., Sato Y., Iwasaki E. and Komatsu T. "Total synthesis of jadomycins A, B, and L-digitoxosyl-phenanthroviridin" Tetrahedron Lett. 2022, 101, 153919.
●Akagi, Y., Harasawa K. and Komatsu T. "Total Synthesis of Phenanthroviridin Aglycon and Its Analog" Asian J. Org. Chem. 2021, 10, 1094-1096.

教授/博士(薬学)

名取 威徳

Natori Takenori

研究分野 有機化学**研究項目** 天然物化学、免疫学**最終学歴** 九州大学大学院 薬学研究科 博士前期課程修了**資格** 薬剤師、作業環境測定士、有機溶剤作業主任者

主な業績

●Takenori Natori, Kazuhiro Motoki, Tatsuo Higa, Yasuhiko Koezuka: KR7000 as a new type of antitumor and immunostimulatory drug, Fusetani N (ed) "Drugs from the Sea", Karger, pp 86-97 (2000).
●名取威徳:海洋天然物と免疫作動性物質 - α -GalCerの基礎について-, Marine natural products and immune-acting substances, basic research of α -galactosylceramides, エンドトキシン・自然免疫研究 22, 21-24 (2019).

教授/博士(人間科学)

菊地 真実

Kikuchi Mami

研究分野 社会薬学・医療人類学**研究項目** 人類学的手法に基づいた在宅医療に関わる薬剤師の役割と実践に関する研究**最終学歴** 早稲田大学大学院 人間科学研究科 博士課程単位取得退学**資格** 薬剤師

主な業績

●在宅医療にかかわる薬剤師の患者に対する直接接行為に関する研究-法的妥当性の認識と抵抗感-, 社会薬学34巻2号, 81-96頁, 2015. ●在宅医療にかかわる薬剤師の患者に対する直接接行為に関する研究-必要性の認識と行為頻度-, 社会薬学35巻1号, 10-22頁, 2016. ●患者と医療者の対話-医療人類学の知見より-, 治療101巻7月号, 843-848, 2019.

教授/博士(薬学)

清水 俊一

Shimizu Shunichi

研究分野 薬理学、病態生理学**研究項目** 活性化酸素感受性イオンチャネルの病態学的役割**最終学歴** 昭和大学大学院 薬学研究科 博士前期課程修了**資格** 薬剤師

主な業績

【著書】●アルティメイト薬理学, 京都廣川書店, 2022.
【原著論文】●Protective Effects of Duloxetine against Cerebral ischemia-Reperfusion Injury via Transient Receptor Potential Melastatin 2 Inhibition. J Pharmacol Exp Ther., 368, 246-254, 2019. ●TRPM2 channels in alveolar epithelial cells mediate bleomycin-induced lung inflammation. Free Radic Biol & Med., 90, 101-113, 2016. ●TRPM2-mediated Ca²⁺ influx induces chemokine production in monocytes that aggravates inflammatory neutrophil infiltration. Nat. Med., 14, 738-747, 2008.

教授/薬学博士

斎藤 浩美

Saito Hiromi

研究分野 生化学、分子生物学**研究項目** ビフィズス菌を用いたDDSの開発、細菌の環境変化に対する適応機構**最終学歴** 東京大学大学院 薬学系研究科 博士課程修了**資格** 薬剤師

主な業績

●The mechanosensitive channel YbdG from Escherichia coli has a role in adaptation to osmotic up-shock. J. Biol. Chem., 294, 12281-12292, 2019
●Effect of simvastatin on immune cells under alkaline and acidic conditions. J. Cancer Sci. Ther. 7, 048-054, 2015 ●ATP requirement for acidic resistance in Escherichia coli. J. Bacteriol. 193, 3072-3077, 2011 ●Bacterial responses to alkaline stress. Science Progress 86, 271-282, 2004

研究指導教員紹介

教授/博士(薬学)、博士(教育)

井手口 直子

Ideguchi Naoko

研究分野 医療薬学**研究項目** 患者と薬剤師のITを介したコミュニケーション**最終学歴** 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科
教育科学専攻 博士後期課程単位取得退学**資格** 薬剤師、日本カウンセリング学会認定カウンセラー

主な業績

●基礎からわかる行動科学、●薬剤師になるには、●薬剤師・薬学生のためのヒューマニズム ●かかりつけ薬剤師の地域貢献に関する研究 — 地域薬局でのICTの活用が薬剤師と患者のコミュニケーションに与える影響の検討 ●かかりつけ薬剤師に求められるコミュニケーションスタンダード ●携帯電話を用いた小児患者保護者—薬剤師間のコミュニケーションの質的評価 ●Patient-based quality of life(QoL) measurement using the Schedule for the Evaluation of Individual QoL (SEIQoL-DW) and response shift

教授/薬学博士

高松 智

Takamatsu Satoshi

研究分野 天然物化学**研究項目** 抗老化を目指した漢方薬及び天然由来物質の評価**最終学歴** 千葉大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了**資格** 薬剤師

主な業績

【受賞】●上原記念生命科学財団平成8年度海外留学助成ポスドクトラルフェローシップ、平成10年度リサーチフェローシップ ●日本農芸化学学会2012年度大会(京都)トピックス賞 ●日本生薬学会 平成27年度学術貢献賞
【特許】●国内6件、国際1件 【著書】●生薬・薬用植物研究の最新動向 CMC出版 2017 監修 【総説】●Naturally occurring cell adhesion inhibitors, J Nat Med, 72,817 2018単著 【原著論文】●Effect of intraoral antioxidative capacity in orengedokuto, Tradit Kampo Med,7,30 2020 共著 ●Avenolide, a Streptomyces hormone controlling antibiotic production in Streptomyces avermitilis, PNAS,108,16410 2011 共著

教授/博士(薬学)

伊佐間 和郎

Isama Kazuo

研究分野 衛生化学、生体医工学**研究項目** 化学物質の分析、曝露評価及び健康リスク評価
医用材料の生物学的試験及び生体適合性**最終学歴** 東京理科大学 薬学部 薬学科**資格** 第二種情報処理技術者

主な業績

●金属系材料の細胞毒性の評価 ●Gamma-ray irradiated poly(L-lactide) for bone repair(共著) ●ナノマテリアルのin vitro安全性評価のための基礎研究-金属酸化物ナノ粒子に対する細胞応答-(共著) ●鉛含有金属製品の酸溶出試験法の比較(共著) ●Osteoblast compatibility of calcium-incorporated Ti-Zr-Nb alloys(共著) ●家庭用品に使用される化学物質による重大製品事故(共著)

教授/博士(医薬学)

渡邊 伸一

Watanabe Shinichi

研究分野 医薬行政、医薬品情報、社会薬学**研究項目** 薬物治療の向上に資する
医薬品情報の提供・医薬行政に関する研究**最終学歴** 千葉大学大学院 医学薬学府 先進医療科学専攻 博士課程修了**資格** 薬剤師、公認スポーツファーマシスト

主な業績

【原著論文】●患者の処方薬に関する情報源の実態と入手情報の満足度およびニーズ調査, 医療薬学46(11)615-627, 2020(共著) ●抗がん剤副作用情報の入手に関する経験と患者の服薬調節行動の関連性, 医療薬学46(11)628-639, 2020(共著) 【研究成果の政策等への活用】●「医療機器の危害防止措置の適切な実施に係る留意事項」の作成(令和4年6月9日厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課から各都道府県衛生主管部(局)宛て事務連絡) 令和元年度~3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

教授/博士(薬学)

小林 秀昭

Kobayashi Hideaki

研究分野 分子生物学**研究項目** 腸内細菌叢の分子基盤、宿主微生物間相互作用**最終学歴** 東京大学大学院 薬学系研究科 生命薬学専攻 博士課程修了**資格** 薬剤師、甲種危険物取扱者

主な業績

●Construction of an Expressible BAC Library of the Unculturable Insect Microorganism, Stink Bug Plautia stali Symbiont, for the Search of Biologically Active and Useful Symbiont Products. Biol Pharm Bull. 37(4)528-33. 共著.2014. ●【中国四国支部企画支部特集:昆虫の生物機能の解明と創薬への応用】昆虫由来微生物に注目した有用物質探索.生化学. 86(5) 570-7. 共著. 2014. ●Symbiont of the stink bug Plautia stali synthesizes rough-type lipopolysaccharide. Microbiol Res. 167(1)48-54. 共著. 2011. ●【特集 精神疾患の遺伝子は、本当にみつかったのか?】メタンフェタミン依存. 分子精神医学. 10(1) 17-26. 共著. 2010

教授/博士(理学)

八代田 英樹

Yashiroda Hideki

研究分野 細胞生物学、分子生物学、生化学**研究項目** ユビキチン・プロテアソームシステムを介した
細胞機能制御機構の解明**最終学歴** 東京大学大学院 理学系研究科
生物科学専攻 博士課程修了

主な業績

【原著論文】●Vacuolar Sts1 degradation-induced cytoplasmic proteasome translocation restores cell proliferation. Genes Cells 30(2):e70004 2025 (共著) ●The ubiquitination-deubiquitination cycle on the ribosomal protein eS7A is crucial for efficient translation. iScience 24 (3):102145, 2021 (共著) 【総説】●The molecular mechanisms governing the assembly of the immuno- and thymoproteasomes in the presence of constitutive proteasomes. Cells 11 (9):1580, 2022 (共著)

研究指導教員紹介

教授／博士（薬学）

小原 道子

Obara Michiko

- 研究分野** 地域包括ケア・在宅医療・多職種連携・臨床介護学
- 研究項目** 地域住民が幸せに暮らすための街づくりを薬学的視点から研究する
- 最終学歴** 東北薬科大学（現：東北医科薬科大学）薬学部
- 資格** 薬剤師

主な業績

●第1回日本ヘルスケア学会最優秀賞 ●地域包括ケアタネの撒き育て方 単著 ●Effects of Solvents Used for the Preparation of Food Thickening Agent on the Disintegration Time and Dissolution Rate of Orally Disintegrating Levofloxacin Tablets ●Effects of Food Containing Aroma Compounds on Oral Hygiene ●かかりつけ薬剤師が在籍する薬局の業務分析

教授／博士（薬学）

濃沼 政美

Koinuma Masayoshi

- 研究分野** 医療薬学、統計科学、臨床試験、クリニカルパス
- 研究項目** 各種医薬品の有効性および安全性の検証 (RCT・Observational Study・Big Data)
- 最終学歴** 昭和大学大学院 薬学研究科 博士前期課程修了
- 資格** 薬剤師・鍼灸師・診療情報管理士

主な業績

【受賞】●第22回日本クリニカルパス学会学術集会優秀賞（2021）
【論文】●Efficacy and Safety of Low-dose Spironolactone for Chronic Kidney Disease in Type 2 Diabetes, The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism 2023 ●T-cell Response and Antibody Production by Booster COVID-19 Vaccination in Japanese Patients with Chronic Kidney Disease Treated with Hemodialysis, Vaccines 11(3) 653 2023 ●Is using a consolidation tumor ratio 0.5 as criterion feasible in daily practice? Evaluation of interobserver measurement variability of consolidation tumor ratio of lung cancer less than 3 cm in size, Thoracic cancer 2022

教授／博士（薬学）

中谷 良人

Nakatani Yoshihito

- 研究分野** 生化学、衛生薬学
- 研究項目** 脂質性生理活性物質の産生機構に関する研究
- 最終学歴** 東京大学大学院 薬学系研究科 博士課程 中途退学
- 資格** 薬剤師

主な業績

【受賞】●日本薬学会環境・衛生部会賞、2006【論文】●Cytosolic prostaglandin E synthase is involved in c-Fos expression in rat fibroblastic 3Y1 cells. Biol. Pharm. Bull. 40: 1963-1967, 2017●Involvement of the constitutive prostaglandin E synthase cPGES/p23 in expression of an initial prostaglandin E2 inactivating enzyme, 15-PGDH. Prostaglandins Other Lipid Mediat. 94:112-117, 2011

教授／博士（薬学）

石井 正和

Ishii Masakazu

- 研究分野** 医療薬学、薬物治療学
- 研究項目** 慢性頭痛の病態解明と薬剤師の頭痛患者対応に関する研究
- 最終学歴** 昭和大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了
- 資格** 薬剤師

主な業績

【論文】●Identifying factors influencing the interictal burden of migraine in women. BPB Reports 2025 8, 70-74. ●Survey on headache during COVID-19 infection in people with chronic headache. BPB Reports 2023, 6, 62-67. ●Clinical response to valproate in patients with migraine. J. Clin. Neurol. 2016, 12, 468-475. ●Characteristics of inconsistent responders to prophylaxis therapy with lomerizine in patients with migraine: a retrospective study in Japan. J. Neurol. Sci. 2013, 335, 118-123.

教授／博士（薬学）

島崎 学

Shimazaki Manabu

- 研究分野** 医療薬学
- 研究項目** 植物培養細胞を用いた医薬品開発における評価モデル作成に関する検討
嚔下困難患者に対するゼリー剤を用いた服薬方法の検討
- 最終学歴** 東邦大学大学院薬学研究科博士後期課程
医薬品化学専攻
- 資格** 薬剤師、公認スポーツファーマシスト

主な業績

【著書】●基礎と臨床をつなぐ物理薬理学・製剤学, 南山堂, 2023 (分担執筆) ●調剤と服薬指導がわかる 小児科これだけ, 南山堂, 2023 (共著)
【論文】●Quantitative Relationship between the Viscosity of Pediatric Syrups Containing Ambroxol Hydrochloride and the Adhesive Remaining Amount in the Metering Glass, The Journal of Community Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, 2025 (共著) ●Non-discriminatory incorporation of L-phenylalanine and L-tyrosine into cinnamoyl part of mulberroside A, a stilbene di-glucoside, in Morus alba cell cultures, Naturwissenschaften, 2000

教授／博士（地球環境科学）

大西 敦

Ohnishi Atsushi

- 研究分野** 動物生理化学、比較内分泌、酵素、脂質
- 研究項目** M1アミノペプチダーゼの基質認識機構に関する研究
- 最終学歴** 北海道大学大学院 地球環境科学研究科
生態環境科学専攻 博士課程修了

主な業績

●Characterization of the enzymatic properties of human RNPEPL1/aminopeptidase Z. J. Biochem. 173, 307-316 (2023) ●Importance of Tyr409 and Tyr414 in constructing the substrate pocket of human aminopeptidase B. Mol. Cell. Biochem. 469, 1-8 (2020) ●Involvement of phenylalanine 297 in the construction of the substrate pocket of human aminopeptidase B. Biochemistry 54, 6062-6070 (2015)

研究指導教員紹介

教授／博士（薬学）

丸山 桂司

Maruyama Keiji

研究分野 医療薬学、シミュレーション教育**研究項目** 健康食品の安全性に関する検討、シミュレータを用いた教育法の開発**最終学歴** 昭和大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了**資格** 薬剤師、AHA BLSインストラクター

主な業績

●薬系大学で行われている新しいシミュレーション教育～問題解決能力育成のためのシミュレーション教育、都薬雑誌45(11)4-7,2023 ●薬学部学生に対するドキュメンタリー映像を用いた倫理教育の実践、YAKUGAKU ZASSHI 143, 607-616 (2023) ●A Complex of Type I Platelet-Activating Factor Acetylhydrolase (PAF-AH) Catalytic Subunits Switches from $\alpha 1/\alpha 2$ Heterodimer to $\alpha 2/\alpha 2$ Homodimer during Adipocyte Differentiation of 3T3-L1 Cells, Biol Pharm Bull. 46, 257-262 (2023) ●薬学生に対する服薬模擬体験学習の有用性の検討、医療薬学 47, 418-427 (2021) ●フィードバック装置を用いた薬学部一年生における一次救命処置実習の学修効果、YAKUGAKU ZASSHI 140, 819-825 (2020)

教授／博士（薬学）

平 裕一郎

Taira Yuichiro

研究分野 腫瘍学、生物系薬学、医療系薬学、DDS**研究項目** 遺伝子組換えエビフィズス菌を利用した抗腫瘍薬の実用化研究**最終学歴** 東京大学大学院 薬学系研究科 機能薬学専攻 博士課程修了

主な業績

●European journal of pharmacology 887 173596-173596(2020) ●Die Pharmazie 73(7) 393 - 395 (2018) ●Pharmazie 73(3) 165 - 168 (2018) ●Yakugaku zasshi : Journal of the Pharmaceutical Society of Japan 138 (7) 901 - 902 (2018) ●Yakugaku zasshi : Journal of the Pharmaceutical Society of Japan 138(7) 923 - 930 (2018) ●医薬品モダリティの特許戦略と技術開発動向: 共著, 範囲: 抗体薬物複合体におけるDDS技術の開発動向技術情報協会 2019年 ●特許US10266601 Recombinant obligate anaerobic gram -positive bacteria

教授／博士（薬学）

山本 佳久

Yamamoto Yoshihisa

研究分野 医療製剤学**研究項目** Qlinical Questionに基づく医療製剤学的検証**最終学歴** 東邦大学大学院薬学研究科 博士前期課程修了**資格** 薬剤師

主な業績

【受賞】●日本医療薬学会 JPHCS 誌論文賞, 2021 【著書】●基礎と臨床をつなぐ物理薬剤学・製剤学, 南山堂, 2023 ●調剤と服薬指導がわかる小児科これだけ, 南山堂, 2023 【論文】●Pharmaceutical evaluation of magnesium oxide fine granule formulation for conversion to magnesium hydroxide owing to humidification by near-infrared spectroscopy, Vib. Spectrosc., 138, 103801, 2025 ●Pharmaceutical evaluation of levofloxacin orally disintegrating tablet formulation using low frequency raman spectroscopy, Pharmaceutics, 15, 2041, 2023 ●Quality evaluation of humidified magnesium oxide tablet formulations with respect to disintegration time prolongation, Chem. Pharm. Bull., 71, 165-174, 2023

教授／博士（薬学）

磯田 勝広

Isoda Katsuhiko

研究分野 衛生薬学、生物系薬学、毒性薬理学、細胞生物学、遺伝子工学**研究項目** ナノマテリアルとナノ粒子の安全性評価、及びナノマテリアルと医薬品・化学物質の相互作用の解析**最終学歴** 大阪大学大学院 薬学研究科 分子薬科学専攻 博士後期課程修了

主な業績

【受賞】生物工学会論文賞 【業績】●Ioda K, Nagata R, Hasegawa T, et al., 2017. Hepatotoxicity and Drug/Chemical Interaction Toxicity of Nanoclay Particles in Mice. Nanoscale Res. Lett. 2017 Dec;12(1):199. ●Isoda K., Tanaka A., Fuzimori C., et al., 2020.1. Toxicity of Gold Nanoparticles in Mice due to Nanoparticle/Drug Interaction Induces Acute Kidney Damage. Nanoscale Res Lett. 2020 Jul 2;15(1):141. doi:10.1186/s11671-020-03371-4.

准教授／博士（薬学）

秋山 晴代

Akiyama Haruyo

研究分野 内科系臨床医学・基礎医学**研究項目** IgEの架橋活性を指標とする新規アレルギー試験法の開発**最終学歴** 昭和大学大学院 薬学研究科**資格** 薬剤師、甲種危険物取扱者

主な業績

【特許】●キメラFcεRIα鎖遺伝子, キメラFcεRIα鎖タンパク質, 細胞, 分析用キット及び分析方法. 特許第7587745号(2024. 11. 13), PCT/JP2022/007612 (2022. 02. 24) 【論文】●Antibodies, 14, 19 (2025). ●J Immunotoxicol, 21, 2417758 (2024). ●J Immunol Methods, 529, 113682 (2024). ●アレルギーの臨床, 42, 1047-1049 (2022). ●J. Food Hyg. Soc. Jpn, 62, 193-202 (2021). ●アレルギーの臨床, 41, 335-337 (2021). ●Allergol Int, 69, 459-461(2020). ●Allergol Int. 68, 342-351 (2019)

准教授／博士（薬学）

池本 守

Ikemoto Mamoru

研究分野 生化学、分子生物学、細胞生物学**研究項目** (1) 細胞外小胞の性状・機能解析 (2) 動脈硬化の発症・進展における分子機構の解明**最終学歴** 東京大学大学院 薬学系研究科 機能薬学専攻 博士課程修了

主な業績

【受賞】●JB論文賞(2001) 【著書】●SR-BIとその細胞内 コレステロール代謝における役割, The Lipid, 59, 34-41, 2002/単著 【原著論文】●Identification of a PDZ domain-containing protein that interacts with the HDL receptor SR-BI. Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A., 97, 6538-6543, 2000/ 共著

研究指導教員紹介

准教授/博士(薬学)

小川 裕子

Ogawa Yuko

- 研究分野** 生化学、分子生物学、細胞生物学
- 研究項目** 細胞外小胞(exosome)の機能解析研究、タンパク質分解酵素の病態生化学的研究
- 最終学歴** 星薬科大学 薬学部 薬学科
- 資格** 薬剤師、甲種危険物取扱者、衛生検査技師

主な業績

【受賞】●日本唾液腺学会奨励賞(2009、2016)
 【論文】●Exosome-like vesicles with dipeptidyl peptidase IV in human saliva. Ogawa Y, Kanai-Azuma M, Akimoto Y, Kawakami H, Yanoshita R. Biol Pharm Bull. 31, 1059-1062 (2008)
 ●Distinguishing two distinct types of salivary extracellular vesicles: A potential tool for understanding their pathophysiological roles. Ogawa Y, Miura Y, Ikemoto M, Ohnishi A, Goto Y, Aoki K, Motokurumada Y, Akimoto Y, Endo T, Tsujimoto M, Yanoshita R. Front. Mol. Biosci. 11:1278955. (2024)

准教授/博士(薬学)

平 郁子

Taira Ikuko

- 研究分野** 生物系薬学、医療系薬学
- 研究項目** ビフィズス菌をドラッグデリバリー担体に用いた固形がんに対する新規治療法の開発
- 最終学歴** 東京大学大学院 薬学系研究科 機能薬学専攻 博士後期課程修了
- 資格** 薬剤師

主な業績

●I. Taira, Y. Taira, M. Kato, Y. Shimizu, K. Isoda, H. Saitou, I. Ishida. Reviving Previous Therapeutics by Recombinant Anaerobic Bifidobacteria. Biomedical Journal of Scientific & Technical Research 12(5), 2019 (共著) ●清水芳実, 平郁子, 平裕一郎, 石田功 抗体薬物複合体におけるDDS技術の開発動向、「医薬品モダリティの特許戦略と技術開発動向」(2019, 技術情報協会刊)(共著) ●西川毅、平裕一郎、平郁子、石田功 組換え偏性嫌気性グラム陽性菌 特許第6176683号 2017年7月21日

准教授/博士(薬学)

西川 毅

Nishikawa Takeshi

- 研究分野** 免疫学、細胞生物学、分子生物学
- 研究項目** 細胞死誘導性アゴニスト抗体利用抗腫瘍薬開発
- 最終学歴** 東京大学大学院 薬学系研究科 機能薬学専攻 博士課程修了
- 資格** 薬剤師

主な業績

Recombinant obligate anaerobic gram-positive bacteria. 国際出願PCT/WO2015/104994(2015.7.16). 日本特許第6176683号(2017.7.21). US10266601(2019.4.23). CN105916975B(2020.8.7). 中華民国I711699(2020.12.1). US10882912(2021.1.5). EP3093338(2021.2.17). EP3842050 (2024.6.12).

准教授/博士(薬学)

大野 賢一

Ohno Kenichi

- 研究分野** 分析化学
- 研究項目** 高感度分析法を基盤とする新規検査・診断法の開発
- 最終学歴** 昭和大学大学院 薬学研究科 博士課程修了
- 資格** 薬剤師、甲種危険物取扱者

主な業績

●免疫測定法-基礎から先端まで-(講談社) ●Low-Cost Fluorimetric Determination of Radicals Based on Fluorogenic Dimerization of the Natural Phenol Sesamol. Anal. Chem., 82, 1213-20(2010). ●免疫化学的分析法. ふんせき, 519, 86-93(2018)

准教授/博士(薬学)

鈴木 達彦

Suzuki Tatsuhiko

- 研究分野** 漢方・伝統医学
- 研究項目** 近世を中心とした医学資料の解析に基づいた伝統医学の基礎理論の研究
- 最終学歴** 東京理科大学 薬学部薬学科
- 資格** 薬剤師・鍼灸師

主な業績

●第32回日本東洋医学会学術奨励賞 ●第17回東亜医学協会学術奨励賞 ●第20回富士川游学術奨励賞 ●腹診のエビデンス-江戸版、医聖社、単著 ●生薬とからだをつなぐ、医道の日本社、単著 ●曲直瀬道三と近世日本医療社会、武田科学振興財団杏雨書屋、共著 ●薬学史事典、薬事日報社、共著 ●処方分類における処方分類の発展とその背景-日本での処方分類と『傷寒雜病論』処方について。 ●昭和期以降の日本漢方医学書における腹診所見の相違について-安中散と香蘇散の腹診所見の形成を中心として-

准教授/博士(理学)

吉田 卓史

Yoshida Takashi

- 研究分野** 生理学、薬理学
- 研究項目** チャネルタンパク質の生理学的役割の解明、光によるタンパク質活性制御
- 最終学歴** 総合研究大学院大学 生命科学研究所 生理科学専攻単位取得退学

主な業績

●Periodontal ligaments enhance neurite outgrowth in trigeminal ganglion neurons through Wnt5a production induced by mechanical stimulation Am. J. Physiol. Cell physiology. 323, C1704-C1719. (2022). 共著 ●Mode-selective inhibitory effects of eugenol on the mouse TRPV1 channel BBRC. 556, 156-162. (2021). 共著 ●Capsaicin and Proton Differently Modulate Activation Kinetics of Mouse Transient Receptor Potential Vanilloid-1 Channel Induced by Depolarization Fron. Pharmacol. 12, 1107. (2021). 共著

研究指導教員紹介

准教授/博士(医薬学)

濱田 和真

Hamada Kazuma

研究分野 薬物動態学、分子毒性学、
バイオインフォマティクス、生化学

研究項目 ミトコンドリア生物学を基盤とした疾患制御
および薬物毒性に関する研究

最終学歴 千葉大学大学院 医学薬学府 先進医療科学専攻 博士課程修了

資格 薬剤師、甲種危険物取扱者

主な業績

●Cancer Chemother Pharmacol. 2013; 72 ●Cancer Chemother Pharmacol. 2010; 66 ●Inflammatory Bowel Diseases. 2009; 15 ●消化器の臨床. 2008; 11 ●Gastroenterology. 2008; 134

准教授/博士(農学)

後藤 芳邦

Goto Yoshikuni

研究分野 生物科学(機能生物化学)、薬学(生物系薬学)、
基礎医学(免疫学)

研究項目 免疫および高次機能における
タンパク質分解酵素の機能に関する研究

最終学歴 東京農工大学大学院 連合農学研究科
生物工学専攻 博士後期課程修了

主な業績

●第14回日本病態プロテアーゼ学会学術集会学会奨励賞 ●J. Biochem., mvab009, 2021, ●Front. Mol. Biosci., 7, 168, 2020, ●Biol. Pharm. Bull. 43, 207-214, 2020 ●J. Biochem. 165,159-165, 2019 ●BBA. Mol. Cell. Res., 1865, 874-888, 2018, ●PLoS One, 11, e0146136, 2016, ●J. Biochem. 157, 439-449, 2015, ●J. Immunol., 192, 4443-4452, 2014, ●J. Biol. Chem., 286, 21906-21914, 2011, ●J. Immunol., 186, 1909-1913, 2011, ●J. Biol. Chem., 284, 34692-34702, 2009, ●Biochem. J., 416, 109-116, 2008

准教授/博士(健康科学)

山元 健太

Yamamoto Kenta

研究分野 統合生理学、健康科学

研究項目 生活習慣病予防に関する研究、
生活習慣と薬物療法の相互作用に関する研究

最終学歴 川崎医療福祉大学 医療技術学研究科
健康科学専攻 博士課程修了

資格 中学校・高等学校教諭専修 保健体育

主な業績

●Inhibition of glial glutamate transporter GLT1 in the nucleus of the solitary tract attenuates baroreflex control of sympathetic nerve activity and heart rate. Physiol Rep. 6: e13877, 2018. ●Human flexibility and arterial stiffness. J Phys Fitness Sports Med. 6: 1-5, 2017. ●Acute intermittent optogenetic stimulation of nucleus tractus solitarius neurons induces sympathetic long-term facilitation. Am J Physiol. 308: R266-R275, 2015.

准教授/博士(薬学)

佐村 優

Samura Masaru

研究分野 医療薬学、医薬品情報学

研究項目 スペシャルポピュレーションにおける
医薬品適正使用に関する研究

最終学歴 慶應義塾大学大学院 薬学研究科 博士課程修了

資格 薬剤師

主な業績

【受賞】日本医療薬学会 2022年度 Postdoctoral Award
【論文】●J Infect Chemother;30(4):329-336,2024. ●Clin Transl Sci;16(11):2265-2275, 2023. ●Eur J Pediatr;182:2673-2681,2023. ●Clin Transl Sci;16:704-713,2023. ●Br J Clin Pharmacol;89:1291-1303,2023. ●Biol Pharm Bull;45:824-833,2022. ●Am J Case Rep;23:e936589,2022. ●Pharmaceutics;14:714,2022. ●Yakugaku Zasshi;142:189-193,2022. ●Br J Clin Pharmacol;88:1985-1998,2022. ●Open Forum Infect Dis;8:ofab568,2021. ●Pharm Res;38:1041-1055,2021.

准教授/博士(薬学)、Pharm.D.

半田 智子

Handa Satoko

研究分野 医療薬学

研究項目 PHRアプリを用いた
がん患者の副作用マネージメントに関する研究

最終学歴 University of Southern Nevada College of Pharmacy

資格 薬剤師、臨床検査技師、医薬品情報専門薬剤師、
公認スポーツファーマシスト

主な業績

●Effectiveness of a Smartphone Application as a Support Tool for Patients Undergoing Breast Cancer Chemotherapy: A Randomized Controlled Trial. Clin Breast Cancer. 20(3):201-208, 2020 ●Rubric Assessment for Pharmacotherapy in Spiral Curriculum: Development and Evaluation of Usefulness.YAKUGAKU ZASSHI 140(12):1441-1454, 2020

准教授/博士(医学)、修士(薬学)

兩宮 貴洋

Amemiya Takahiro

研究分野 医療薬学、医療安全学

研究項目 医薬品による副作用発現機構の解析と
副作用の予防・治療法の確立

最終学歴 東京大学大学院医学系研究科 病因・病理学専攻 博士課程修了

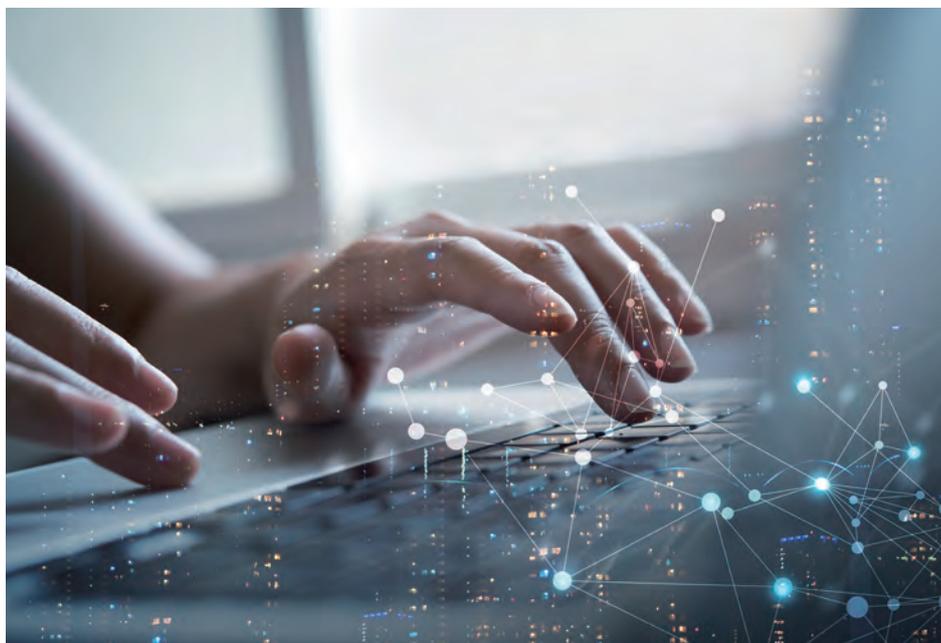
資格 薬剤師

主な業績

【受賞】●Highlighted Article, npj systems biology and applications, 2015 ●優秀演題賞, 第28回日本医療薬学会年会, 2018
【論文】●Elucidation of the molecular mechanisms underlying adverse reactions associated with a kinase inhibitor using systems toxicology, npj Systems Biology and Applications 1.1: 1-10, 2015 ●Non-destructive visualization of internal structural changes in humidified magnesium oxide tablets using X-ray computed tomography, Scientific Reports 14.1: 6339, 2024

情報科学研究科

情報科学専攻／社会情報学分野・健康情報学分野（修士課程）
 情報科学専攻（博士課程）



情報科学によって健康増進と生活環境の向上に貢献できる人材を養成します

わが国は、戦後、高度経済成長を経て、生活水準の向上を実現しました。しかし、近年、少子高齢化をはじめ、環境、都市・地方などに解決すべき社会問題を抱えています。一方、コンピュータテクノロジーの発展は社会構造に変革をもたらしました。さらに、情報技術・情報科学は、我々が抱えている諸問題を解決するためのツールとしても期待されています。本研究科は、情報科学の視点から学際的な分野を統合できる学識を深め、健康増進や生活環境の向上に貢献できる人材を養成します。

本研究科は、データサイエンス、理学、工学、人文社会学、理学療法、柔道整復学、薬学等の学際的領域の研究者から構成されています。修士課程には、社会情報学分野と健康情報学分野が設置されており、データサイエンスを基盤として環境、都市・地方などの社会問題および健康問題を研究します。

修士課程では幅広い科目が設置されており異分野を学修するとともに、複数の教員から研究指導を受けて学際的に問題を追究することができる教育を行います。博士課程には分野は設置されていませんが、修士課程と同様の体制で教育・研究を行っています。

研究科	専攻	分野	在学期間	修得単位及び条件	学位
情報科学研究科	情報科学専攻	社会情報学分野 健康情報学分野	2年以上4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (情報学)
		—	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (情報学)

社会と医療の動きに
情報科学を結びつける
専門教育と研究

Message

科学技術の発展とともに情報技術が飛躍的に発展しました。自然環境の変化、生活環境の複雑化など、人間が生きていくための環境も大きく変化してきています。大規模データベースの構築と解析により、自然環境や生活環境の改善に資する多くの情報がもたらされるようになりました。人が健康を維持し、豊かで充実した生活を送るためにも、あふれる情報からの確に必要な情報を選択し、人間と自然環境・生活環境が共生した持続可能な社会を構築しなければなりません。情報科学の知識と技術を修得し、人類の幸福と福祉に貢献するための熱意を持ち、探究心と実行力のある方々の入学を期待しております。



情報科学研究科長
矢ノ下 良平
Yanoshita Ryohei

特色

情報技術の革新に対応し、
社会的課題を解決する研究

■ 社会情報学分野

情報工学技術の基礎から応用に至る幅広い教育と研究を行っています。例えば、情報工学技術の分野では画像認識や情報の表現法に関する研究、応用的分野では防災を目的とした環境問題や都市計画による生活環境の改善に関する研究を行っています。個々の専門分野の知識・技術を深めることにより、専門を超えた幅広い分野にも対応できる人材の養成を目指します。

副専攻履修

情報科学研究科(修士課程)では、2022年度より副専攻履修を開始いたしました。

主専攻を学びながら、他専攻の指定された科目を受講することで、主専攻の補強や、より広い分野での学びに繋げていくことができます。

※通信制大学院・博士課程には副専攻履修制度はありません。

医療と福祉の理解を
深める研究が可能です

■ 健康情報学分野

理学療法、作業療法、言語聴覚、臨床心理、鍼灸、柔道整復など幅広い医療関連分野において、情報技術分野との融合を図りながら、情報科学の視点から学際的研究を行っています。個人の健康増進のみならず、公衆衛生の視点から健康と福祉の質の向上に取り組む人材の養成を目指します。



情報科学研究科 情報科学専攻(博士課程)では、「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細はP.12をご参照ください。

入学者受入れの方針(アドミッションポリシー)

情報科学研究科

情報科学研究科は、情報学や情報工学等を含めた多様な学術領域の高度な専門知識と技術・情報を適用して、人間の健康や社会生活に影響を及ぼす自然と生活環境の要因を的確に分析、評価、予測を行うことにより、新しい社会環境と生活環境を構築できる人材の養成のため、以下の入学者を求める。

- 1 現代社会の課題に強い関心をもっている。
- 2 健康と社会全般にわたる多角的・学際的視野と、各専門分野における高度な専門的実践能力を身につけた指導者・研究者として、問題解決に意欲的に取り組み、高度情報化社会の発展に貢献したいという強い意欲と能力をもっている。
- 3 高度情報化社会において、人間の健康および幸福と福祉に貢献する意志をもっている。

情報科学専攻(修士課程)

情報科学研究科 情報科学専攻(修士課程)は、人間の健康や社会生活に影響を及ぼす自然と生活環境の要因を対象に、情報学・情報工学を含めた多様な学術領域の知識や技術を用いて、的確に分析、評価、予測することにより、人間が健全でより良い生活を送ることができる社会環境と生活環境を構築できる人材の養成のため、以下の入学者を求める。

- 1 現代社会の課題を積極的に見つけ、解決したいという強い意志をもっている。
- 2 健康と社会全般にわたる多角的・学際的視野と、各専門分野における高度な専門的実践能力を身につけた指導者として、高度情報化社会の発展に貢献したいという強い意欲をもっている。
- 3 高度情報化社会において、人間の健康および幸福と福祉に貢献する意志をもっている。

情報科学専攻(博士課程)

情報科学研究科 情報科学専攻(博士課程)は、人間の健康や社会生活に影響を及ぼす自然と生活環境の要因を対象に、情報学・情報工学を含めた多様な学術領域の知識や技術を応用し、的確に分析、評価、予測することにより、人間が健全でより良い生活を送ることができる社会環境と生活環境を構築できる人材の養成のため、以下の入学者を求める。

- 1 現代社会の課題に強い関心をもち、自らの関連領域において問題を提起することができる。
- 2 健康と社会全般にわたる多角的・学際的視野と、各専門分野における基礎的な知識と技能をもち、さらに高度な専門的実践能力を身につけた指導者として、問題解決に意欲的に取り組み、高度情報化社会の発展に貢献したいという強い意欲と能力をもっている。
- 3 人間と社会の物質的および精神的な包括的視点から、新しい考え方や手法の開発・確立、実践に精力的に取り組む意欲をもっている。
- 4 高度情報化社会において、人間の健康および幸福と福祉に貢献する志をもっている。

研究指導内容/修士課程

※研究テーマ等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
データサイエンス	データサイエンスとは、データを扱うための統計的・数理的な技術とその応用の研究で、従来の伝統的理論や手法とは異なる観点から、データによって真実を明らかにするものです。その中で、Webデータやセンシングデータなどの実データを分析し、ビジネスや社会での現実問題に貢献する技術について研究します。	教授 村川 賀彦
知識情報処理	センサーや人工知能技術を応用して、電子機器の故障や、人間の疾病、自然災害の発生など、異常の予兆や発生を自動的に検出する方法を研究します。研究テーマの例としては「エッジAIエージェントによる電動車いすの運転支援」「電子回路生成AI」が挙げられます。	教授 蜂屋 孝太郎
センシング工学	感染症拡大など様々な場面で人の流れの把握が社会的重要性を増しています。無線技術を応用したセンシングと、AI・機械学習などを応用したデータ分析手法を組み合わせ、プライバシー保護を考慮した高精度な人の動きの推定方法を研究します。	教授 鈴木 昭浩
並列分散処理及び分散コンピューティング	インターネットを代表とするコンピューター・ネットワークが多く利用されています。最近ではIoTと呼ばれる「物をインターネットに接続」し、得られたデータの活用がされています。これらに関する課題を選定し、最新の技術情報の分析を通して研究を進め専門的知識を修得します。必要に応じてIoTシステムを構築し実用的な技術を修得し研究を深めていきます。	教授 藤井 慎裕
データ駆動型数理学	現象をモデル化する理論科学的手法やコンピューター・シミュレーションによる計算科学的手法に加え、応用機械学習やデータ駆動型モデリングによる解析・予測を取り入れ、現象の理解と構造の解明に活用します。これらを統合し、数理モデルとデータ科学の融合を通じて、自然現象や社会現象の背後にある構造やメカニズムの解明を目指します。	教授 吉岡 剛志
地球環境科学(気候変動学)	地球環境科学に関する課題を選定して研究を行い、その成果を修士論文にまとめることで、修士課程修了者として要求される専門的知識と研究能力を修得します。研究テーマとしては「山岳地域の気候・環境の変遷史の解明」が挙げられます。	教授 小森 次郎
都市・建築学(計画学)	都市・建築学に関する課題を選定し、国内外でのフィールドワークと調査・分析を通して、地域に提案をします。研究テーマとしては「文化遺産と防災」、「レジリエントな空間とコミュニティ」、「伝統住居群の住環境」などが挙げられます。	教授 狩野 朋子
画像認識	コンピューターを用いて、デジタル画像の分類や物体検出を行う画像認識に関する研究開発を行います。具体的には、ノイズや圧縮のある静止画を入力する深層学習ネットワークの性能向上に関連する研究を行います。	教授 遠藤 和紀
情報の表現とビジュアライゼーション	ネットワーク技術やデジタル化技術が発達し、多種多様なデジタルコンテンツを入手できるようになりました。氾濫するコンテンツ間の多様な関係を構造で表すことを軸として、多面性、多様性が感じられるようなグラフの可視化手法、人が楽しめるインタラクション方法(関連するモノとの出会いを提供)を探求し、新たな知見や、新しい関係の発見を目指します。	准教授 石川 尋代
並列処理	世界的に計算需要が増加する中で、より短い時間で計算を完了する並列処理方式が注目されています。並列計算システムの提案・設計・構築を通じた実験的な研究、あるいはプログラムの振る舞いモデルの解析を用いる理論的な研究によって、実用的な知見を得られるように指導します。	准教授 米澤 直記
数値解析	自然現象や社会現象の振る舞いを解析するために様々な数値モデルが研究されています。これらの数値モデルをコンピューターを用いて計算する方法を研究します。特に、連立一次方程式や数値積分・最適化問題に対する数値計算誤差を考慮した計算方法について既存研究を紹介し、そこから新しい理論やより効率的な方法を開発できるように研究指導を行います。	准教授 小林 領

社会情報学

※研究テーマ等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
生体分子情報学	生体では、ホルモンや低分子物質が細胞間で情報伝達することによって多細胞社会が形成されています。遺伝子など多様な物質を含んでいる新規の細胞間情報伝達体である小胞を中心に、分子情報によって生体システムが制御されるしくみについて研究を行います。	教授 矢ノ下 良平
医薬統計学	医学、薬学、公衆衛生などを対象に、数学と広範な科学的見地からデータ収集、研究設計、データ分析とその手法開発をデータサイエンスとして研究し、健康科学に貢献します。	教授 高橋 秀人
作業療法治療学	疾病や障害を有していても可能な限り住み慣れた環境(地域)で生き生きと暮らしていくためには、地域リハビリテーションの視点を展開していく必要があります。生活障害に対して、より早期の発見と介入を目指した作業療法評価及び治療的介入の研究を行います。	教授 坂本 美香
保健医療(教育) 運動器外傷	保健医療分野の教育に関する研究をします。大学生のジェネリックスキル低下について問題点をまとめ、その対策として医療専門知識と技術の向上について効果的な手法や評価方法などを研究します。テーマは主に運動器の外傷および障害の機序を解析し、予防に役立てる研究とします。	教授 田宮 慎二
人工臓器学	人工臓器のなかでも、人工腎臓である血液透析膜の生体適合性の解明を行います。	教授 東郷 好美
医療・健康AI	時系列データを処理できるAIを、臨床診断の支援、救急救命処置の遠隔支援(エッジAI)、高精度の姿勢推定やリハビリテーション等に活用する研究を行います。また、認知と言語の関係等をAIを使って分析し、人の知能そのものに関する知見を蓄積します。	教授 後藤 哲史
臨床心理学分野	臨床心理学では、対象者の状態を把握するアセスメントと、それに基づく心理的支援が中心となります。研究では、こうした支援の方法や効果について実証的に検討することが求められます。心理支援と情報技術の連携をテーマとした実践的な研究について指導を行います。	教授 松浦 正一
健康支援・増進	地域在住高齢者の健康に寄与する因子について、2次データや、調査データを用いて分析を行います。	准教授 知脇 希
理学療法治療学	理学療法における対象者への介入は評価および治療が中心となる。対象者に対して適切な検査を実施し、その結果から適切な問題点を抽出する評価を行い、それに対して適切な治療方法を選択する必要がある。研究テーマに関しては理学療法評価および治療的介入に関して行う。	准教授 芳野 純
生体情報計測	非侵襲的な生体情報計測手法により得られた情報から、生理機能変化に伴う生体情報の抽出を行います。特に、脳波、筋電図、心電図からの生体リズム情報と機能的変化との比較をして疾患推定手法と医用診断補助システムへの応用も行います。	准教授 松崎 晴康
東洋医学(鍼灸)	筋の痛みを中心とした疼痛疾患に対する鍼灸治療の作用メカニズムや、その臨床的役割に関する研究指導を行います。	准教授 皆川 陽一

健康情報学

教員一覧/修士課程

教授

矢ノ下 良平
藤井 慎裕
村川 賀彦
高橋 秀人
鈴木 昭浩
坂本 美香
松浦 正一
蜂屋 孝太郎
小森 次郎
田宮 慎二
後藤 哲史

准教授

松崎 晴康
石川 尋代
米澤 直記
知脇 希
芳野 純
小林 領
皆川 陽一



研究指導内容／博士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
データサイエンス	データサイエンスとは、データを扱うための統計的・数理的な技術とその応用の研究で、従来の伝統的理論や手法とは異なる観点から、データによって真実を明らかにするものです。その中で、Webデータやセンシングデータなどの実データを分析し、ビジネスや社会での現実問題に貢献する技術について研究します。	教授 博士(情報科学) 村川 賀彦
知識情報処理	センサーや人工知能技術を応用して、電子機器の故障や、人間の疾病、自然災害の発生など、異常の予兆や発生を自動的に検出する方法を研究します。研究テーマの例としては「エッジAIエージェントによる電動車いすの運転支援」「電子回路生成AI」が挙げられます。	教授 博士(工学) 蜂屋 孝太郎
並列分散処理及び分散コンピューティング	インターネットを代表とするコンピューター・ネットワークが多く利用されています。最近ではIoTと呼ばれる「物をインターネットに接続」し、得られたデータの活用がされています。これらに関する課題を選定し、最新の技術情報の分析を通して研究を進め専門的知識を修得します。必要に応じてIoTシステムを構築し実用的な技術を修得し研究を深めて行きます。	教授 博士(理学) 藤井 慎裕
データ駆動型数理学	現象をモデル化する理論科学的手法やコンピューター・シミュレーションによる計算科学的手法に加え、応用機械学習やデータ駆動型モデリングによる解析・予測を取り入れ、現象の理解と構造の解明に活用します。これらを統合し、数理モデルとデータ科学の融合を通じて、自然現象や社会現象の背後にある構造やメカニズムの解明を目指します。	教授 博士(工学) 吉岡 剛志
地球環境科学(環境変遷学)	地球環境科学に関する課題を選定して研究を行い、その成果を博士論文にまとめることで、博士課程修了者として要求される専門的知識と研究能力を修得します。研究テーマとしては「山岳地域の気候・環境の変遷史の解明」が挙げられます。	教授 博士(理学) 小森 次郎
都市・建築学(計画学)	都市・建築学に関する課題を選定し、国内外でのフィールドワークと調査・分析を通して、地域に提案をします。研究テーマとしては「文化遺産と防災」、「レジリエントな空間とコミュニティ」、「伝統住居群の住環境」などが挙げられます。	教授 博士(工学) 狩野 朋子
画像認識	コンピューターを用いて、デジタル画像の分類や物体検出を行う画像認識に関する研究開発を行います。具体的には、ノイズや圧縮のある静止画を入力する深層学習ネットワークの性能向上に関連する研究を行います。	教授 博士(工学) 遠藤 和紀
情報の表現とビジュアライゼーション	ネットワーク技術やデジタル化技術が発達し、多種多様なデジタルコンテンツを入手できるようになりました。氾濫するコンテンツ間の多様な関係を構造で表すことを軸として、多面性、多様性が感じられるようなグラフの可視化手法、人が楽しめるインタラクション方法(関連するモノとの出会いを提供)を探求し、新たな知見や、新しい関係の発見を目指します。	准教授 博士(工学) 石川 尋代
並列処理	世界的に計算需要が増加する中で、より短い時間で計算を完了する並列処理方式が注目されています。並列計算システムの提案・設計・構築を通じた実験的な研究、あるいはプログラムの振る舞いモデルの解析を用いる理論的な研究によって、実用的な知見を得られるように指導します。	准教授 博士(理学) 米澤 直記
数値解析	自然現象や社会現象の振る舞いを解析するために様々な数値モデルが研究されています。これらの数値モデルをコンピューターを用いて計算する方法を研究します。特に、連立一次方程式や数値積分・最適化問題に対する数値計算誤差を考慮した計算方法について既存研究を紹介し、そこから新しい理論やより効率的な方法を開発できるように研究指導を行います。	准教授 博士(工学) 小林 領
生体分子情報学	生体では、ホルモンや低分子物質が細胞間で情報伝達することによって多細胞社会が形成されています。遺伝子など多様な物質を含んでいる新規の細胞間情報伝達体である小胞を中心に、分子情報によって生体システムが制御されるしくみについて研究を行います。	教授 薬学博士 矢ノ下 良平
医学統計学	医学、薬学、公衆衛生などを対象に、数学と広範な科学的見地からデータ収集、研究設計、データ分析とその手法開発をデータサイエンスとして研究し、健康科学に貢献します。	教授 博士(学術) 高橋 秀人
作業療法学	疾病や障害を有していても可能な限り住み慣れた環境(地域)で生き生きと暮らしていくためには、地域リハビリテーションの視点を展開していく必要があります。生活障害に対して、より早期の発見と介入を目指した作業療法評価及び治療的介入の研究を行います。	教授 博士(保健科学) 坂本 美香
保健医療(教育)	保健医療分野の教育に関する研究をします。現在、国内外で問題となっている大学生のジェネリックスキル低下について、その対策や実践などをまとめます。また、医療専門知識と技術の向上について効果的な手法や評価方法などを研究します。	教授 博士(健康科学) 田宮 慎二
人工臓器学	人工臓器の中でも、人工腎臓内部の血液透析膜の生体適合性の解明を行います。	教授 博士(医学) 東郷 好美

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
医療・健康AI	時系列データを処理できるAIを、臨床診断の支援、救急救命処置の遠隔支援(エッジAI)、高精度の姿勢推定やリハビリテーション等に活用する研究を行います。また、認知と言語の関係等をAIを使って分析し、人の知能そのものに関する知見を蓄積します。	教授 博士(情報科学) 後藤 哲史
臨床心理学分野	臨床心理学では、対象者の状態を把握するアセスメントと、それに基づく心理的支援が中心となります。研究では、こうした支援の方法や効果について実証的に検討することが求められます。心理支援と情報技術の連携をテーマとした実践的な研究について指導を行います。	教授 博士(心理学) 松浦 正一
健康支援・増進	地域在住高齢者の健康に寄与する因子について、2次データや、調査データを用いて分析を行います。	准教授 博士(社会科学) 知脇 希
理学療法治療学	理学療法における対象者への介入は評価および治療が中心となる。対象者に対して適切な検査を実施し、その結果から適切な問題点を抽出する評価を行い、それに対して適切な治療方法を選択する必要がある。研究テーマに関しては理学療法評価および治療的介入に関して行う。	准教授 博士(保健学) 芳野 純
生体情報計測	非侵襲的な生体情報計測手法により得られた情報から、生理機能変化に伴う生体情報の抽出を行います。特に、脳波、筋電図、心電図からの生体リズム情報と機能的変化との比較をして疾患推定手法と医用診断補助システムへの応用も行います。	准教授 博士(情報学) 松崎 晴康
東洋医学(鍼灸)	筋肉の痛みを中心としたさまざまな疼痛に対する鍼灸の作用と、臨床での意義について研究指導を行っています。	准教授 博士(鍼灸学) 皆川 陽一

教員一覧/博士課程

教授

矢ノ下 良平
藤井 慎裕
村川 賀彦
高橋 秀人
坂本 美香
松浦 正一
蜂屋 孝太郎
小森 次郎
田宮 慎二
後藤 哲史
遠藤 和紀
東郷 好美
狩野 朋子
吉岡 剛志

准教授

松崎 晴康
石川 尋代
米澤 直記
知脇 希
芳野 純
小林 領
皆川 陽一



情報科学研究科 情報科学専攻 授業科目一覧/修士課程

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目
基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究倫理学特論 ● アルゴリズム特論 ● 情報科学特論 ● 情報システム特論 ● データサイエンス特論 ● システム設計学特論 ● 地球環境情報特論 ● 生体構造機能情報特論 ● 人工知能特論
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 統計解析特論 ● 医療系データ解析特論 ● シミュレーション特論

科目区分	授業科目
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 機械学習特論 ● モデリング特論 ● 環境変遷学特論 ● 健康リスク分析特論 ● 生命情報システム特論 ● 健康支援特論 ● 医療情報解析特論 ● 生活環境学特論 ● 都市空間情報特論 ● 疫学分析特論
研究科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報科学特別研究 ● 情報科学研究実習

*必修科目の「研究倫理学特論」と「情報科学特別研究」に加えて、基礎科目、専門科目、研究科目から選択して履修します。

情報科学研究科 情報科学専攻 授業科目一覧/博士課程

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 数理情報科学特講 ● 情報システム特講 ● データサイエンス特講 ● 地球環境情報特講 ● 生体構造機能情報特講 ● 健康リスク分析学特講 ● 統計解析特講 ● シミュレーション特講 ● 知識情報システム特講 ● モデリング特講

科目区分	授業科目
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境変遷学特講 ● 生命情報システム特講 ● 生体高分子情報特講 ● 医療情報解析特講 ● 健康支援特講 ● 生活環境学特講 ● 都市空間情報特講
研究科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報科学特別研究

研究指導教員紹介

研究科長/教授/薬学博士

矢ノ下 良平

Yanoshita Ryohei

- 研究分野** 生体分子情報学
- 研究項目** 分泌小胞エキソソームによる生体システムの制御に関する研究
- 最終学歴** 東京大学大学院 薬学系研究科 博士課程修了

主な業績

【論文】●Characterization of membrane integrity and morphological stability of human salivary exosomes. Biol. Pharm. Bull.;40, 1183-1191, 2017. ●Stability of human salivary extracellular vesicles containing dipeptidyl peptidase IV under simulated gastrointestinal tract conditions. Biochem Biophys Rep. 27, 101034, 2021. ●Distinguishing two distinct types of salivary extracellular vesicles: a potential tool for understanding their pathophysiological roles. Frontiers in molecular biosciences, 2024.

教授/博士(理学)

藤井 慎裕

Fujii Norihiro

- 研究分野** 情報科学
- 研究項目** 並列分散処理及び分散コンピューティング
- 最終学歴** 法政大学大学院 情報科学研究科 博士課程

主な業績

①IoT Remote Group Experiments in the Cyber Laboratory: FPGA-based Remote Laboratory in the Hybrid Cloud 単著 "IEEE Press, 2017 International Conference on Cyberworlds, PP. 162-166, 20-22nd September, 2017, University of Chester, Chester, United Kingdom" 2017/10
②スマートフォンによる運動(歩行)の解析(第22回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 学術集会)
③3軸加速度計を使用した呼吸量の簡易計測の検討(第23回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 学術集会)

教授/博士(情報科学)

村川 賀彦

Murakawa Yoshihiko

- 研究分野** 情報学基礎、人間情報学、統計科学
- 研究項目** 情報学基礎理論、知能情報学、ヒューマンインターフェース・インタラクション
- 最終学歴** 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 情報処理学専攻 博士後期課程
- 資格** 第一種情報処理技術者試験合格

主な業績

●Reliable Cloud-based Robot Services 共著 IECON2013 2013/11 ●インターネットサービスプラットフォームにおける ロボットサービス提供手法 共著 情報処理学会論文誌 2013/02 ●Verification of the Effectiveness of Robots for Sales Promotion in Commercial Facilities 共著 Proceedings of 2011 IEEE/SICE International Symposium on System Integration 2011/12 ●インターネットを活用したロボットサービスの実現と開発を支援するRSi(Robot Service Initiative)の取り組み 共著 日本ロボット学会誌 2010/09

教授/博士(学術)

高橋 秀人

Takahashi Hideto

- 研究分野** 医学統計学
- 研究項目** 公的bigdataを用いた研究、数理シミュレーションを用いた研究
- 最終学歴** 筑波大学大学院数学研究科
- 資格** 公衆衛生学会認定専門家、日本疫学会認定上級専門家

主な業績

【論文】Factors Associated with Attrition: Analysis of an HIV Clinic in Japan. J Immigr Minor Health. 2021 Apr;23(2):250-256. (共著) Nested matched case control study for the Japan Fukushima Health Management Survey's first full-scale (second-round) thyroid examination, Medicine (Baltimore). 2020 Jul 2,99(27)(共著)【著書】基礎医学統計学第7版(2020) 南江堂(共著), 疫学概論(2000) 朝倉書店(共著)【受賞】川合記念賞(2013年), 日本疫学会奨励賞(2003)

教授/修士(工学)

鈴木 昭浩

Suzuki Akihiro

- 研究分野** ソフトウェア工学、通信工学
- 研究項目** 大規模情報システムの開発および導入方法論、電波利用システム
- 最終学歴** 東北大学大学院 工学研究科 情報工学専攻 博士前期課程修了
- 資格** 情報処理技術者試験(システム監査・システムアナリスト)、第一級陸上無線技術士、電気通信主任技術者(伝送交換)

主な業績

●電気通信事業に関連するシステムの設計・開発・運用、大規模企業経営システム導入におけるプロジェクトマネジメント、エキスパートシステムの開発・事業導入

教授/博士(保健科学)

坂本 美香

Sakamoto Mika

- 研究分野** 発達障害作業療法学、地域作業療法学
- 研究項目** 発達障害児の眼球運動に関する研究、特別支援教育、地域における生活支援
- 最終学歴** 首都大学東京大学院(現東京都立大学)保健科学研究科 作業療法学専攻 博士後期課程修了
- 資格** 作業療法士、公認心理師

主な業績

●2007年度日本リハビリテーション医学最優秀論文賞次点●療育における作業療法での眼球運動への取り組みの報告.帝京平成大学紀要.2021.●ペアレントトレーニングの地域療育現場における実践への発展に向けて-文献レビューからの提案- 作業療法.2016.●小児科医によるペアレントトレーニングへの参加報告-作業療法士による実践を目指してのpilot study-.作業療法.2015.●「発達障害児療育モデル事業」への取り組みについて-JSI-Rより効果分析.作業療法. 2014.

研究指導教員紹介

教授/博士(心理学)

松浦 正一

Matsuura Shoichi

- 研究分野** 学校心理学、臨床心理学、心理学の介入、トラウマケア、学校危機における緊急支援
- 研究項目** 学校危機における緊急支援の研修プログラム、教育問題における支援方法の検討
- 最終学歴** 東京成徳大学大学院 心理学研究科 博士後期課程
- 資格** 公認心理師、臨床心理士

主な業績

【受賞】●学校心理学会大会発表賞, 第25回大会, 2023【学会発表】●学校現場における子どものトラウマの理解とチーム学校としての心理支援のあり方について, 日本トラウマティック・ストレス学会第17回大会, 2018【論文】●学校危機における安全教育の促進のための研修プログラムの開発, 安全教育学研究, 2019, 18(1)共著 ●学校危機においてチーム学校が機能するための課題, 聖マリアンナ医学研究誌, 20(95), 2020【著書】●学校心理学事典, 第5巻24項 3段階のチーム援助による校内体制づくり, 第10巻24項プログラム評価(予防), 丸善出版, 2022, 分担執筆

教授/博士(工学)

蜂屋 孝太郎

Hachiya Koutaro

- 研究分野** 情報学、電子工学、診断工学
- 研究項目** 集積回路の設計自動化、乳幼児の発達障害リスク予測、電動車いすの運転支援システム、エッジAIエージェント
- 最終学歴** 早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 博士後期課程修了

主な業績

●Success Rate Improvement of Analog Circuit Topology Generation by Large Reasoning Models (IEEE ASICON '25) ●Acceleration Methods for Finding Measurement Points for Testing Power TSVs in Stacked 3D-IC (ICICT '25) ●Evaluation of Vertical 2D Ranging Sensor in Detecting Steps in Front of Electric Wheelchairs Using Reinforcement Learning (IEEE ICCR '24) ●Harnessing the power of child development records to detect early neurodevelopmental disorders using Bayesian analysis (Acta Paediatr. '24)

教授/博士(理学)

小森 次郎

Komori Jiro

- 研究分野** 地学・地学教育学・地理学・自然災害科学
- 研究項目** 地学・地理教育の手法研究と実践、山岳地域の環境変動、山岳地域の自然災害と防災
- 最終学歴** 東京都立大学大学院 理学研究科 地理科学専攻 博士課程修了

主な業績

【著書】●100万人のフィールドワーカーシリーズ(古今書院・分担執筆) ●実践 統合自然地理学(古今書院・分担執筆) ●気候変動の事典(朝倉書店・分担執筆) ●極圏・雪氷圏と地球環境(二宮書店・分担執筆)【論文】●令和元年東日本台風による多摩川下流の浸水被害(2020.帝京平成大学紀要.単著) ●岩絵の具づくりを通じた子供向けの第四紀学の普及活動(2017.第四紀研究.単著) ●Reconstruction of a phreatic eruption on 27 September 2014 at Ontake volcano, central Japan, based on proximal pyroclastic dens(2016. EPS, 共著)

教授/博士(健康科学)

田宮 慎二

Tamiya Shinji

- 研究分野** 柔道整復学、保健医療教育
- 研究項目** 外傷における整復・固定、保健医療職における初年次教育
- 最終学歴** 帝京平成大学大学院 健康科学研究科 博士課程修了
- 資格** 柔道整復師、はり師、きゅう師

主な業績

●運動器疾患ワークブック/医歯薬出版株式会社/2012年4月/共著 ●柔道整復師イノベーション臨床編/メジカルビュー /2013年7月/共著 ●東洋医学整復・手技の教科書/新星出版社/2017年4月/共著 ●柔道整復学科における初年次のキャリア教育アンケート調査の分析を通して-/日本柔道整復接骨医学会(原著)/2015年3月/共著(筆頭) ●クリニカルレクチャー柔道整復実践技術/メジカルビュー社/2019年3月/共著

教授/博士(情報科学)

後藤 哲史

Goto Tetsuji

- 研究分野** 知能情報学、健康・医療情報学
- 研究項目** 人工知能、診断と推論、認知と言語
- 最終学歴** 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科博士課程
- 資格** 電気通信主任技術者(第一種伝送交換)、情報処理技術者(第一種、ネットワークスペシャリスト、データベース、システムアナリスト)

主な業績

【論文】●ニューラルネットワークの可視化による 軽度認知障害者の言語特性の解明, 生体医工学, vol. 63, 2025. 単著 ●A hierarchical neural network model for Japanese toward detecting mild cognitive impairment, Electronics and Communications in Japan, vol. 106, Wiley, 2023. 単著 ●軽度認知障害者のスクリーニングに向けた階層型ニューラルネットワークモデルの提案, 電気学会論文誌, vol. 143, 2023. 単著 ●Dynamic Epistemic Reasoning with Awareness and Its Legal Application, Vietnam Journal of Computer Science, vol. 6, 2019. 共著

教授/博士(工学)

遠藤 和紀

Endo Kazuki

- 研究分野** 画像認識
- 研究項目** 劣化のあるデジタル画像の認識性能向上
- 最終学歴** 東京工業大学 工学院 システム制御系システム制御コース 博士後期課程修了
- 資格** 宅地建物取引士、応用情報技術者試験合格

主な業績

【受賞】●インタラクティブセッション・オーディエンス賞, 画像センシング技術研究会 第26回画像センシングシンポジウム, 2020【論文】●Data augmentation technique for degraded images without losing the classification ability of clean images, Journal of Electronic Imaging 33(2), 2024(単著) ●Semantic Segmentation of Degraded Images Using Layer-Wise Feature Adjustor, IEEE/CVF Winter Conference on Applications of Computer Vision (WACV2023) 3205-3213, 2023(共著)

研究指導教員紹介

教授/博士(理工学)、博士(医学)

東郷 好美

Togo Konomi

- 研究分野** 外科学一般(人工臓器学)、腎臓内科学(人工透析学)
- 研究項目** 血液透析膜の生体適合性
- 最終学歴** 法政大学 理工学研究科 応用化学専攻 博士後期課程
- 資格** 臨床工学技士、看護師

主な業績

【賞】●日本体外循環技術医学会論文賞, 2017:成人ECMO用ダブルルーメンカテーテルの大動物モデルにおける酸素化と脱炭酸ガス化評価【著書】●ダイアライザ、ヘモダイアフィルタの生体適合性/クリニカルエンジニアリング/2021
【論文】●Blood Compatibility in Various Hemodialysis Membrane Materials: A Review/2021 ●Comparison of blood compatibility in various membrane materials for continuous renal replacement therapy/2020

教授/博士(工学)

狩野 朋子

Kano Tomoko

- 研究分野** 建築学、観光学
- 研究項目** 世界遺産と防災、レジリエントな観光まちづくり、アジアの歴史地区における防災計画
- 最終学歴** 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 博士課程修了

主な業績

【受賞】●14th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA) 「ISAIA Academic Oral Session Award」2024 ●都市住宅学会全国博士論文コンテスト「優秀賞」2008 ●第20回すまい・まちづくり設計競技「国土交通大臣賞」2003【著書】●文化遺産と防災のレッスン:レジリエントな観光のために(編著)新曜社2022 ●Investing in disaster risk reduction for resilience(共著)ELSEVIER, 2022【論文】●Simulating the Disaster Imagination Game (DIG) and Developing the Application in the Firuzağa Neighborhood, Istanbul - A Workshop with Local Volunteers(共著)立命館大学歴史都市防災論文集Vol.17, 2023【作品】●Letters from Matsu, 馬祖国際藝術島-Matsu Biennial 2025(参加アーティスト)

教授/博士(工学)

吉岡 剛志

Yoshioka Tsuyoshi

- 研究分野** 数理学、知能情報学
- 研究項目** データ駆動型数理学、応用機械学習
- 最終学歴** 早稲田大学大学院 先進理工学研究科 ナノ理工学専攻 博士後期課程修了

主な業績

【論文】●Valuation of Intangible Fixed Assets Using Generative Artificial Intelligence and Machine Learning, Journal of Management Science, 13, 2024. ●Proposal to Integrate Data Science into Management Accounting Using Generative AI, Journal of Management Science, 14, 2025. ●Artificial Intelligence Decision Support Framework Integrating Explainable AI, Fairness, and Optimization Technologies, Business Management Studies, 21, 2025. ●Sustainable Data-driven Framework and Policy Recommendations for Enhancing Sports Promotion Using Generative and Explainable Artificial Intelligence, Journal of Physical Education and Sports, 25(3), 2025. 【受賞】●Incentive Award for Poster Presentation, International Conference on Mathematical Modeling and Applications 2016. ●日本経営学会連合賞, 日本経営学会連合, 2017.

准教授/博士(情報学)

松崎 晴康

Matsuzaki Haruyasu

- 研究分野** 人間情報学、人間医工学、脳科学
- 研究項目** 生体情報、医療情報、脳機能計測・非侵襲的脳活動計測、運動情報
- 最終学歴** 帝京平成大学大学院 情報学研究科 情報学専攻 博士課程

主な業績

【受賞】●第5回日本認知症予防学会学術集会「浦上賞」, 2015 ●「日本臨床神経生理学会第18回優秀論文賞」, 2016【著書】●Dementia with Lewy Bodies「Electroencephalography in DLB」, Springer, 2016【論文】●Static γ -motoneurons couple group Ia and II afferents of single muscle spindles in anaesthetized and decerebrate cats., 2002. ●EEG Markers for Characterizing Anomalous Activities of Cerebral Neurons in NAT (Neuronal Activity Topography) Method., 2013.

准教授/博士(工学)

石川 尋代

Ishikawa Hiroyo

- 研究分野** 情報の表現、ビジュアライゼーション、ヒューマンインターフェース・インタラクション
- 研究項目** デジタルコンテンツ間の関係記述とその可視化
- 最終学歴** 慶應義塾大学大学院 理工学研究科開放環境科学専攻
- 資格** 第一種情報処理技術者試験
色彩検定協会認定 色彩講師

主な業績

●多面体認識における心理量と物体像エントロピーの関係について,電子情報通信学会論文誌, 2003 ●レーザプラズマ式3Dディスプレイにおける点列を用いた物体表現, 映像情報メディア学会会誌, 2009 ●Polymorphic Cataloguing and Interactive 3D Visualization for Multiple Context of Digital Content: MoSalC, Lecture Notes in Computer Science, 2018 ●図書展示データの多様性を可視化するMoSalCの提案, 記録管理学会誌, 2019 ●コンピュータビジョン最先端ガイド2 共著, アドコムメディア株式会社, 2010

准教授/博士(理学)

米澤 直記

Yonezawa Naoki

- 研究分野** 情報学
- 研究項目** 並列処理
- 最終学歴** 筑波大学 工学研究科 電子・情報工学専攻 博士課程 中途退学

主な業績

●PROBABILISTIC ANALYSIS OF LOAD-IMBALANCED PARALLEL APPLICATIONS WITH PARTIALLY ELIMINATED BARRIERS/Journal of the Operations Research Society of Japan, 58-2, 149-164/共著/2015.04

研究指導教員紹介

准教授/博士(社会科学)

知脇 希

Chiwaki Nozomi

- 研究分野** リハビリテーション科学(理学療法学)、ジェンダー(経済・労働)
- 研究項目** 就業継続の分析、在宅生活継続に寄与する要因の分析、地域在住高齢者の健康
- 最終学歴** お茶の水女子大学大学院 人間文化創生科学研究科 ジェンダー学際研究専攻 博士後期課程修了
- 資格** 理学療法士、介護支援専門員

主な業績

【著書】●PT・OTビジュアルテキスト国際リハビリテーション学共著【論文】●介護職の仕事の満足度と離職意向-介護福祉士資格とサービス類型に注目して-/国立社会保障・人口問題研究所、季刊社会保障研究45(4)p444-457/単著/2010.03 ●独居多系統萎縮症男性の在宅生活継続の要因-病状の進行に伴う生活環境の対応/医学書院、訪問看護と介護 16(12)p1026-1031/共著/2011.12 ●未婚の子の就業と親介護/生活社会科学研究/単著/2016.11

准教授/博士(保健学)

芳野 純

Yoshino Jun

- 研究分野** 医療者教育学、理学療法学
- 研究項目** 理学療法士の卒前卒後教育、協働学習の効果、インタビュー調査による質的研究
- 最終学歴** 群馬大学大学院保健学研究科 保健学専攻 博士後期課程修了
- 資格** 理学療法士

主な業績

【受賞】●第48回日本理学療法学会大会、優秀賞
【著書】●ケースで学ぶ理学療法臨床思考、文光堂、共著、2019年
【論文】●The Reliability and Validity of the Clinical Competence Evaluation Scale in Physical Therapy, Journal of Physical Therapy Science, 共著、2013年 ●理学療法士の臨床能力の難易度と経年的変化に関する研究:一多施設調査による縦断研究-理学療法科学, 単著、2021年 ●理学療法教育領域で活かす質的研究の方法とその魅力、理学療法教育, 単著、2023年

准教授/博士(工学)

小林 領

Kobayashi Ryo

- 研究分野** 数値解析
- 研究項目** 精度保証付き数値計算
- 最終学歴** 早稲田大学 大学院基幹理工学研究科 数学応用数理専攻 博士後期課程修了

主な業績

【論文】●A method for verifying the accuracy of numerical solutions of symmetric saddle point linear systems, Numerical Algorithms, Volume.76, Issue.1, pp.33--51, November 2016. ● Verified Inclusion of a Basis of the Null space, Reliable Computing, Vol.27, pp. 26-41, 23 July, 2020.
【著書】●AIデータサイエンスリテラシー入門, 株式会社技術評論社, 2022/10/01.

准教授/博士(鍼灸学)

皆川 陽一

Minakawa Yoichi

- 研究分野** 東洋医学(鍼灸)
- 研究項目** 筋痛疾患に対する鍼灸治療の効果、トリガーポイントに関する研究
- 最終学歴** 明治国際医療大学大学院 鍼灸学研究科 博士後期課程修了
- 資格** はり師、きゅう師

主な業績

●Trigger Point Acupuncture and Exercise for Chronic Low Back Pain in Older Adult: a Preliminary Randomized Clinical Trial. J Acupunct Meridian Stud. 2022. ●Effects of Acupuncture Therapy on Drug-Resistant Fibromyalgia: An Exploratory Single-Arm Nonrandomized Trial. Med Acupunct. 2022. ● Managing office worker presenteeism by providing financial aid for acupuncture therapy: a pragmatic multicenter randomized comparative study. Ind Health. 2022. ●Clinical effectiveness of trigger point acupuncture on chronic neck and shoulder pain (katakori) with work productivity loss in office workers: a randomized clinical trial. J Occup Health. 2024.

経営学研究科

経営学専攻[※]
(修士課程)



マーケティング力と課題解決能力を
養うことで、国際的な視点を持ち、
多様な社会課題に対応できる
人材を育成します

近年、技術革新やDX化、グローバル化により新たなビジネスモデルが創出される一方で、現代社会が抱える問題は複雑多様化しています。本研究科では、このような新たなビジネスや課題に対して、経営学分野の高度な知識及び実践のスキルと、ビジネス環境に対応できる高度な課題解決能力を持つ人材の養成を通じて、社会全体の問題解決に寄与することを理念とします。

その理念に基づき「マーケティング力」「最新の技術動向を理解し、実際のビジネスに応用する力」「異なる文化や国際ビジネス環境の理解」「企業倫理や持続可能な経営に関する理論と実践力」を養うための教育プログラムを提供します。

研究科	専攻	分野	在学期間	修得単位及び条件	学位
経営学研究科 [※]	経営学専攻 [※]	—	2年以上4年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文審査及び試験に合格した者 	修士 (経営学)

※2026年度新設予定。

特色

ビジネスの実務に通用する高度な専門知識と実践的スキルを養成します

経営戦略、マーケティング、企業倫理といった経営学の基盤となる知識を修得し、国際的なビジネス環境を理解するための共通基礎科目に始まり、ビジネスの実務において活躍できる実践的スキルやアントレプレナーシップを身につけるための専門科目に至る体系的なカリキュラムを用意しており、国際的な視点を持ち、現代社会の要請に対応するための専門性と実践的な能力を備えた人材を養成します。

実務経験豊富な教員が専門分野の研究をサポートします

本研究科には、経営倫理、組織論、アントレプレナーシップ、金融ファイナンス、人的資源管理、企業倫理、経営法務などを専門領域とする教員が就任する予定です。また、ビジネスの現場や、銀行、総合商社などの実務経験を有する教員も揃っており、実務事例を通じた高度な経営学の専門知識や意思決定の実践方法を学ぶことで、自らが専門とする分野の研究を深めることができます。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

経営学研究科※ 経営学専攻※

経営学研究科 経営学専攻（修士課程）は、学士課程教育による一般的及び専門的学識を備えた者が、次代の経済社会の発展の担い手たるに相応の豊かな教養と高度専門的な経営学的知識を修得することを目的としており、変革の時代において国際的な視点と現代社会の要請に対応するための専門性と実践的な能力を備えた高度専門職、教育指導者、研究者を養成するため、以下の入学者を求める。

- ① 多角化・国際化する社会に貢献し、持続可能な発展に向けて積極的な役割を果たしたいという意欲を持っている。
- ② 経営学分野全般にわたる多角的・学際的視野と、各専門分野における高度な専門的実践能力を備え、実践的なビジネススキルを発展させる意欲を持っている。
- ③ 現代社会の諸課題を積極的に見つけ、解決したいという強い意志をもっている。

経営学研究科※ 経営学専攻※ 授業科目一覧

※授業科目等に変更になる場合があります。

科目区分	授業科目	科目区分	授業科目
共通科目	● 経営戦略概論	専門科目	● ビジネスプランニング戦略論
	● 組織行動論		● アントレプレナーシップ・インターンシップ論
● マーケティング戦略論	●ベンチャービジネス論		
● 企業倫理概論	● 企業会計とファイナンス		
専門科目	● 企業と経済学	研究科目	● 経営法務概論
	● デジタルマーケティング戦略論		● 経営学特別研究
	● 企業の社会的責任とコンプライアンス経営		

健康科学研究科



保健、医療、福祉、介護を支える 医療専門職の教育者と 指導者を養成します

少子高齢化が進行するわが国では、高齢者のQOL(生活の質)向上や健康寿命の延伸などの課題に取り組む必要があり、保健、医療、福祉、介護分野で社会を支える医療専門職への需要や期待が高まっています。本学の学部教育では多くの医療専門職を養成していますが、今後ますます必要になる各分野の指導的人材を養成する目的で本大学院を設置しています。

本研究科の修士課程は7専攻(鍼灸学専攻、柔道整復学専攻、健康栄養学専攻、言語聴覚学専攻、作業療法学専攻、理学療法学専攻、病院前救急医療学専攻)で構成され、各専攻は該当する専門職の国家資格に対応しています。学部卒業後すぐ本大学院に進学する場合でも、専門職の実務を何年か経験後に進学する場合でも、専門分野の連続性を保ちやすい利点があります。

また、本研究科の健康科学専攻(博士課程)の中に修士課程の7専攻に対応した7つの分野が設置されていますので、修士課程から博士課程へと続く専門分野の連続性も保たれます。本研究科の教育目標は、高度専門職業人および各専門分野の教育者や指導者、さらには研究者の養成です。入学者がどの領域を専攻するにしても、専門分野における知識や実践能力を高め、論理的思考力と研究的な視点を養い、職業倫理と研究倫理、そして生涯学習の習慣を身につけてほしいと願っています。

研究科	専攻	分野	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	鍼灸学専攻、柔道整復学専攻、健康栄養学専攻、言語聴覚学専攻、作業療法学専攻、理学療法学専攻、病院前救急医療学専攻	—	2年以上 4年以下	●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	修士 (健康科学)
	臨床心理学専攻	—	3年以上 6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (健康科学)
	健康科学専攻	鍼灸学分野、柔道整復学分野、健康栄養学分野、言語聴覚学分野、作業療学分野、理学療学分野、病院前救急医療学分野	3年以上 6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	

学際的研究へ 多職種連携的実践教育から

Message

医療の場ではチーム医療の重要性は常識になっています。近年では、医療施設内でのチーム医療の枠を越えて、在宅医療、障がい者や高齢者のケア、要介護予備軍への対応、さらには地域住民全体の健康の維持・増進など、行政を含めた関連他職種との連携が必要な状況が増えています。そして教育の場では、多職種連携教育という用語がキーワードになっています。多様な医療職種の院生が共に学ぶ健康科学研究科は、各専門分野の医療技術者としての卓越を目指すだけでなく、他職種の理解を深め、連携力やリーダーシップを身につけ、健康科学の広い視野に立って学際的領域の研究にも興味を持つなど、臨床や教育・研究の場で活躍し、発展する素地を作る良い機会を提供できると思います。本研究科を修了した優れた人材が、それぞれの分野で活躍することを期待しています。



健康科学研究科長
和泉 孝志
Izumi Takashi

入学者受入れの方針(アドミッションポリシー)

健康科学研究科

健康科学研究科は修士課程7専攻と博士課程2専攻で構成されている。教育目的は、健康科学及び臨床心理学の分野における高度専門職業人や各専門分野の教育・指導者、および研究者の養成である。この教育目的を達成するために、以下の入学者を求める。

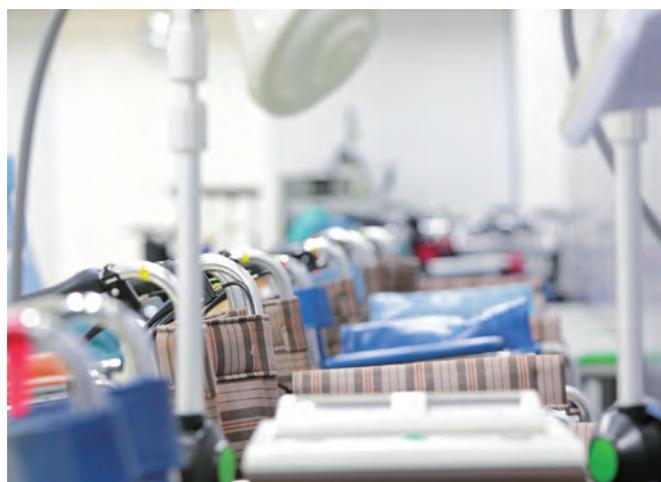
- 1 保健、医療、福祉、介護の各分野における高度専門職業人として、社会を支え貢献したいという強い意欲を有している。
- 2 保健、医療、福祉、介護の各分野、および関連する学際的領域の諸課題に興味を持ち、研究を行う意欲と能力を有している。
- 3 各専攻や分野が求めている入学者要件を満たしている。

副専攻履修

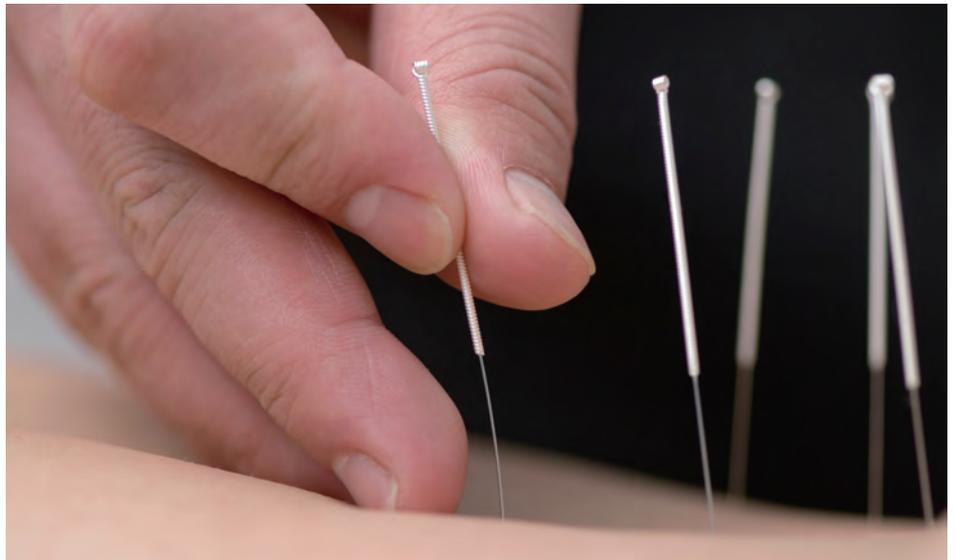
健康科学研究科(修士課程)では、2022年度より副専攻履修を開始いたしました。

主専攻を学びながら、他専攻の指定された科目を受講することで、主専攻の補強や、より広い分野での学びに繋げていくことができます。

※博士課程には副専攻履修制度はありません。



健康科学研究科 鍼灸学専攻 (修士課程)



臨床現場を提供し、 学術活動や鍼灸学への 造詣を深めることができます

国家資格を取得し、はり師・きゅう師として社会に出ても医療従事者としてはまだまだ駆け出しです。そこから一人前になるには何段階ものステップを踏む必要があります。また、学士課程や専門士課程での学業は鍼灸医学の基礎を学んで、はり師・きゅう師の国家試験に備える側面が強く、他人の研究成果を見聞して理解したり、自分のそれを発信したりする学術的な修練は不完全なまま終わっていると思われます。これらのニーズに対応するために鍼灸学専攻が設置されました。

本専攻は鍼灸学における第一線の研究成果を上げることを目標としています。そのために、まず「臨床鍼灸学特論I」「臨床鍼灸学特論II」「統合医療学特論I」「統合医療学特論II」「中医学特論」などの授業で学んだ鍼灸医学に関連する基礎知識を復習しつつ、さらに発展的な専門知識を身につけていきます。臨床実習では、帝京池袋鍼灸院・鍼灸臨床センターなどの臨床現場で実際に鍼灸治療を修練し、臨床家としてより高度なレベルを目指します。これらの経験を通じて鍼灸医学の抱えている問題点を自覚し、自分の研究テーマとすることも可能です。さらに、本専攻では国外での鍼灸事情に精通している教員から世界的な視野で鍼灸医学を学び、国際舞台で活躍できる素養を身につけることができます。

以上のように、本専攻では研究者としても臨床家としても独り立ちできるような実力を身につけるために必要な内容を学ぶ機会が与えられます。単に学位を取得するだけでなく、社会に出て力強く羽ばたいていきたいと考える方に最適と自負しております。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	鍼灸学専攻	2年以上4年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	修士(健康科学)

●はり師及びきゅう師養成施設における教員の資格が得られます

本専攻の修士課程を修了した場合、はり師・きゅう師養成施設における専門基礎分野及び専門分野に関する科目を教授するための教員資格が得られます。ただし、教授できる授業科目は、原則として専攻した分野に関連する領域となります。

科学的な見識と 技法を修得した 将来の指導者を養成

Message

本専攻では、基礎及び臨床研究を通して、鍼灸学における専門的な学識を深めます。ストレス社会と言われる近年、西洋医学のみでは対応が十分とは言えない疾患や症状が増え、様々な医療職種が連携した統合医療の必要性が求められています。特に、鍼灸治療は慢性疼痛やストレス症状の緩和、免疫機能の増大などに効果があり、統合医療の一翼として用いられています。今後、さらに現代社会における鍼灸治療の利用を広げることで、多くの人々の苦痛軽減に貢献できるはずですが、そのためには、鍼灸の効果や機序を様々な視点から学際的に捉えることがより求められます。本学の実学の精神のもと、鍼灸学における科学的な見識・技法を修得し、研究と臨床の両面に優れた将来の指導者を養成します。



鍼灸学専攻長
宮崎 彰吾
Miyazaki Shogo

特色

東洋医学研究所を中心とする研究施設で、 鍼灸学の学問的造詣を深めます

本専攻には、鍼灸学やそのほかの東洋医学・伝統医学のスペシャリストがそろっております。主な研究施設である東洋医学研究所では、現在も共同研究をはじめ何件もの研究が彼らを中心に行われており、学会発表や論文発表も積極的に行っています。本専攻の学生も当研究所をベースに研究活動を行うことになり、場合によっては関連他施設の研究に関わる可能性もあります。学問的な物の考え方、研究の組み立て、文献検索、論文の作成など研究者としての基礎を学びます。

関連臨床施設で鍼灸の臨床に関する 知識、技能を深めます

本専攻では、池袋キャンパス敷地内に帝京池袋鍼灸院・鍼灸臨床センターを附属臨床施設として使用しております。また池袋キャンパス敷地内には、このほかにも帝京池袋接骨院や帝京サンシャイン前接骨院、帝京平成大学臨床心理センターなどが併設されています。

これらを通じて鍼灸の技術だけではなく、わが国の医療における鍼灸の果たす役割等も意識することができ、臨床面においても一段上のレベルを目指すことが可能です。

健康科学研究科 鍼灸学専攻（修士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細はP.12をご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 鍼灸学専攻（修士課程）

健康科学研究科 鍼灸学専攻（修士課程）は、鍼灸医学の指導者として、この分野の学問体系を構築する高度専門職業人、教育・研究者を養成する。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- ① 鍼灸医学の分野における高度専門職業人として、社会を支え貢献したいという強い意欲を有している。
- ② 研究に必要な基礎的能力を備えていて、諸課題に立ち向かう研究意欲を抱いている。
- ③ 主体的に研究を進める行動力と同時に、他者との協調性や指導を受け入れる柔軟性を有している。
- ④ 研究を行う過程で困難に打ち勝つ姿勢や、目的を達成しようとする強い意志を有している。

研究指導内容/修士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
生化学、メタボロミクス	鍼灸の生体に及ぼす作用とその機序について、物質代謝の側面から解析します。鍼灸刺激が物質代謝に及ぼす影響についての研究指導を行います。	教授 和泉孝志
神経免疫学、統合医療	近年、腸内環境や消化管知覚情報が脳の機能に影響を与える根拠が報告され、腸が心の健康に影響を与えるという説に支持が集まっています。鍼灸刺激や生物学的応答調節物質(BRM)が脳と腸に及ぼす影響について神経免疫系の関係を中心とした研究の指導を行います。	教授 久島達也
神経科学(脳機能イメージング)、東洋医学(鍼灸)	情動や認知機能に関わる前頭前野に対する鍼灸刺激の効果及びその作用機序の解明を目指し、脳機能イメージング法を用いた研究指導を行います。	教授 玉井秀明
社会医学、東洋医学(鍼灸)	社会問題の解決に向けた、鍼灸や触れること(体性感覚刺激)を活かした創意工夫及び臨床研究・疫学研究に関する指導を行います。	教授 宮崎彰吾
鍼灸科学、生理学、神経科学、疼痛制御	鍼灸の生体に及ぼす作用とそのメカニズムについて評価・解析を行います。生理学及び神経科学的な実験技法を用いて、鍼灸刺激の末梢受容から中枢・末梢神経系を介した臓器・器官への作用を明らかにします。	准教授 今井賢治
東洋医学(鍼灸)	東洋医学、特に鍼灸・経絡経穴に関する標準化を目標に、古今の文献を対象としたシステマティックレビューを含む手法を用いた文献研究の指導を行います。	准教授 渡邊大祐
東洋医学(鍼灸)	痛み(特に筋痛疾患)に対する鍼灸の治効機序及び疼痛症状における鍼灸の役割についての研究指導を行います。	准教授 皆川陽一
鍼灸施術の安全管理、運動器障害と鍼灸施術	衛生管理を中心に安全な鍼灸施術の構築に向けて指導を行います。また、中高齢者を中心とした運動器障害に対する鍼灸施術の効果的な活用法に関する研究指導を行います。	准教授 恒松美香子
スポーツ医学(鍼灸、ロコモティブシンドローム)	ロコモティブシンドロームの予防や鍼灸治療の効果を解明することを目標として、静的・動的な評価方法を用いた研究の指導を行います。	講師 池宗佐知子
人間工科学(東洋医学、睡眠学、人体美学)	東洋医学のシステムを工学的な手法で評価することを目標として、主に睡眠学と人体美学(美学、顔学、身体学、音声学など、『人』と『美』に関連する分野を総称しています)に着目して研究指導を行います。	講師 中村優
東洋医学(鍼灸)、心身医学、予防医学、スポーツ医学	メンタルヘルスの維持・増進のために、精神、睡眠、認知の観点から心身に対する鍼灸治療の効果解明することを目指して、基礎・臨床研究の指導を行います。	講師 脇英彰
東洋医学(鍼灸)、運動生理学、免疫学	東洋医学・西洋医学の異なる研究分野を融合した新たな領域を構築し、この融合研究の有効性を実証することを目指します。その1つとして、生理学・生化学解析を用いて、鍼灸治療が骨格筋や免疫応答に与える効果に着目した基礎・臨床研究の指導を行います。	講師 小峰昇一

健康科学研究科 鍼灸学専攻(修士課程) 授業科目一覧

※「共通科目」は、全専攻で科目は共通ですが、それぞれの研究テーマに沿って指導教員のもとで研究を進めていく科目のため、具体的な内容は各人で異なります。

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目
共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学研究法特論Ⅰ ●健康科学研究法特論Ⅱ ●医療統計学特論 ●医療教育学特論 ●保健医療管理学特論 ●健康医科学特論 ●医科学英語特論
専門領域科目	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎鍼灸学特論 ●臨床鍼灸学特論Ⅰ

科目区分	授業科目
専門領域科目	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床鍼灸学特論Ⅱ ●中医学特論 ●疼痛制御学特論 ●統合医療学特論Ⅰ ●統合医療学特論Ⅱ ●附属治療院特別演習
研究科目	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学特別研究

教員一覧

教授

和泉孝志
宮崎彰吾
久島達也
玉井秀明

准教授

今井賢治
渡邊大祐
皆川陽一
恒松美香子

講師

池宗佐知子
中村優
脇英彰
小峰昇一

助教

大澤真
飯村佳織
鈴木卓也

研究指導教員紹介

研究科長/教授/医学博士

和泉 孝志

Izumi Takashi

研究分野 生化学、脂質生化学、質量分析学、呼吸器内科学

研究項目 生理活性脂質の代謝と受容体、
質量分析による代謝物解析

最終学歴 東京大学 医学部 医学科

資格 医師

主な業績

●生理活性脂質の同定と定量共著 ●ステロイド治療の理論と実際単著 ●A G-protein-coupled receptor for leukotriene B4 that mediates chemotaxis. 共著 Nature (1997) ●CD8+ regulatory T cells play a critical role in prevention of autoimmune-mediated diabetes. 共著 Nature Communications(2020)

専攻長/教授/博士(医学)/修士(体育)

宮崎 彰吾

Miyazaki Shogo

研究分野 東洋医学(鍼灸あん摩マッサージ指圧)、
医療管理学および医療系社会学関連、
疫学、スポーツ医学、統計学、データサイエンス研究項目 鍼療法の臨床研究・疫学研究、スポーツ選手の傷害予防と
パフォーマンス向上を目指した東洋医学的アプローチ

最終学歴 九州大学大学院 医学系学府 博士課程修了

資格 はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師

主な業績

【鍼療法の臨床研究・疫学研究】●全日鍼灸会誌. 2008【高木奨励賞】、●Clin J Pain. 2009. ●PloS one. 2016【代田賞】、●自律神経. 2017 x. ●全日鍼灸会誌. 2019【高木奨励賞】【沖永荘一学術文化功労賞】、●全日鍼灸会誌. 2021. ●J Acupunct Meridian Stud. 2022. ●Ind Health. 2023. ●J Occup Health. 2024【スポーツ選手の傷害予防とパフォーマンス向上を目指した東洋医学的アプローチ】●Football Sci. 2021【日本フットボール学会論文賞】、●Football Sci. 2023【日本フットボール学会論文賞】

教授/博士(医学)、修士(医学)

久島 達也

Hisajima Tatsuya

研究分野 神経科学、健康科学、東洋医学

研究項目 ストレス応答における生体情報の客観的評価

最終学歴 横浜市立大学大学院 医学研究科 医科学専攻 博士課程修了

資格 はり師・きゅう師

主な業績

●Electroacupuncture of the ophthalmic branch of the trigeminal nerve: Effects on prefrontal cortex blood flow. Med Acupunct, 2020. ●Effects of Cathode Direct-Current Electroacupuncture Stimulus of the Proximal Anterior Lower Limbs on Heart Rate and Lumbar Blood Flow, Med Acupunct, 2020. ●Effects of electroacupuncture to the trigeminal nerve area on the autonomic nervous system and cerebral blood flow in the prefrontal cortex, Acupunct Med, 2017.

教授/博士(医学)、修士(医学(中国))

玉井 秀明

Tamai Hideaki

研究分野 神経科学、東洋医学(鍼灸)

研究項目 脳機能イメージング、
神経科学的側面からの経穴の作用検討

最終学歴 自治医科大学大学院 医学研究科 博士課程修了

資格 はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師

主な業績

【受賞】●学生ポスター発表優秀賞, 第73回全日本鍼灸学会学術大会, 2024【著書】●疾患・症状別漢方治療 慢性疼痛, 共著, 東洋学術出版社, 2019【論文】●Effect of omitting offset work on functional near-infrared spectroscopy: Comparison between keyboard and voice response, 共著, Journal of Medical and Biological Engineering, 2020 ●Exploring feasibility of fNIRS to assess delayed inhibition effect of prefrontal cortex for acute stress by acupuncture on GV20: a pilot study, 共著, Frontiers in Human Neuroscience, 2024

准教授/博士(鍼灸学)

今井 賢治

Imai Kenji

研究分野 東洋医学、神経科学一般、環境生理学

研究項目 鍼灸、自律神経、ストレス・疼痛制御、
鍼開発、日本における医療文化史最終学歴 明治鍼灸大学大学院(現:明治国際医療大学大学院)
鍼灸学研究科 鍼灸学専攻 博士課程修了

資格 はり師・きゅう師

主な業績

●全日本鍼灸学会高木賞3回受賞(2004, 2005, 2016) ●AMDA被災地とともに/小学館スクエア 菅波茂編集/共著/2015.06 ●特殊鍼灸テキスト/医歯薬出版社(北出利勝・篠原昭二編)/共著/2014.12 ●鍼灸臨床最新科学/医歯薬出版社(川喜田健司・矢野忠編)/共著/2014.09 ●鍼灸療法技術ガイド/文光堂/共著/2012.08 ●AMDA被災地へ! 東日本大震災国際緊急医療NGOの活動記録と提言/小学館スクエア 菅波茂編集/2011.12 ●鍼のエビデンス/医歯薬出版社/共著/2009.01 ●東洋医学を応用した刺激療法の実践/医歯薬出版社/共著/2008.11 ●痛みのマネジメント/医歯薬出版社/共著/2005.06

准教授/博士(医学)

渡邊 大祐

Watanabe Daisuke

研究分野 東洋医学(中医学、鍼灸)

研究項目 経穴の効能・主治症の標準化、
妊婦慎用・禁鍼穴の安全性の検討

最終学歴 天津中医薬大学 鍼灸推拿学専攻 博士課程修了

資格 はり師、きゅう師、医薬品登録販売者

主な業績

【受賞】●【代田奨励賞】エビデンスにもとづく足三里・支溝穴の効能, 2015【著書】●【標準】鍼灸処方学, 単著, 東洋学術出版社, 2024 ●新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編), 共著, 南江堂, 2022 ●中医鍼灸 鍼灸処方学, 共訳, 東洋学術出版社, 2021【論文】●日本針灸標準研現状及其对一些问题的思考, 中国針灸, 2012 ●経穴効能に関する考察, 中医臨床, 2013 ●日本版穴位効能案と方法案, 日本中医学会雑誌, 2016 ●A summary of acupuncture standardization in Australia, Korea, Japan and the USA, 共著, World Journal of Acupuncture-Moxibustion, 2017

研究指導教員紹介

准教授/博士(鍼灸学)

皆川 陽一

Minakawa Yoichi

【研究分野】 東洋医学(鍼灸)

【研究項目】 筋痛疾患に対する鍼灸治療の効果、トリガーポイントに関する研究

【最終学歴】 明治国際医療大学大学院 鍼灸学研究科 博士後期課程修了

【資格】 はり師、きゅう師

主な業績

●Trigger Point Acupuncture and Exercise for Chronic Low Back Pain in Older Adult: a Preliminary Randomized Clinical Trial. J Acupunct Meridian Stud. 2022. ●Effects of Acupuncture Therapy on Drug-Resistant Fibromyalgia: An Exploratory Single-Arm Nonrandomized Trial. Med Acupunct. 2022. ●Managing office worker presenteeism by providing financial aid for acupuncture therapy: a pragmatic multicenter randomized comparative study. Ind Health. 2022. ●Clinical effectiveness of trigger point acupuncture on chronic neck and shoulder pain (katakori) with work productivity loss in office workers: a randomized clinical trial. J Occup Health. 2024.

准教授/博士(スポーツ医学)

恒松 美香子

Tsunematsu Mikako

【研究分野】 鍼灸学、衛生管理学、運動器に対する鍼灸術

【研究項目】 鍼灸臨床上の安全管理、運動器障害に対する鍼灸術の効果

【最終学歴】 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 スポーツ医学専攻 博士後期課程修了

【資格】 はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、臨床検査技師

主な業績

【受賞】●第33回 World Congress on Medical AcupunctureにてPoster Award 受賞(2019) 【著書】●鍼灸安全対策ガイドライン 共著(2020) ●必修テキスト鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法共著(2018) ●中高齢者の鍼灸療法 共著(2015) 【論文】●The Influence of Different Hand Hygiene Operations on the Hygiene of Acupuncture Needles - Including a Comparison of the Influence of Acupuncturist's 共著(2023). ●Influence of Using Gloves and Finger Stalls During Operations of Acupuncture Needles. Observation Under an Electron Microscope: A Pilot Study 共著(2019)

講師/博士(スポーツ医学)

池宗 佐知子

Ikemune Sachiko

【研究分野】 スポーツ医学、健康科学

【研究項目】 若年者のロコモ、不妊治療に対する鍼灸、温灸の効果

【最終学歴】 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 スポーツ医学専攻 博士課程修了

【資格】 はり師・きゅう師

主な業績

●運動前の温灸刺激によるカーフェイズ後の筋疲労軽減効果.日東洋医物理療学会誌. 2018 ●Reduction of ribosome biogenesis with activation of the mTOR pathway in denervated atrophic muscle. J Cell Physiol.2012 ●鍼通電刺激が廃用性の骨格筋萎縮を抑制する分子メカニズム.日温気候物理医学会誌. 2011 【優秀論文賞】●後肢懸垂により引き起こされる筋萎縮の回復過程における鍼通電刺激の効果. 全日鍼灸会誌.2010 【高木賞】●Effect of Coenzyme Q10 supplementation on exercise-induced muscular injury of rats. Exerc Immunol Rev. 2008

講師/博士(工学)

中村 優

Nakamura Suguru

【研究分野】 人間工医学

【研究項目】 東洋医学、睡眠学、人体美学

【最終学歴】 国士舘大学 工学研究科 応用システム工学専攻 博士課程修了

【資格】 はり師、きゅう師

主な業績

●Study on Temperature Measurement Using MRI during Acupuncture and Moxibustion 共著 Electronics and Communications in JAPAN 2017 ●ダイナミックファントムモデルを用いたMRIによる非侵襲体内温度差測定の検討 共著 電子情報通信学会論文誌 2019 ●Noninvasive MRI Measurement of the Temperature Distribution during Carbonized Moxa-Needle Treatment 共著 Pacific Science Review 2012

講師/博士(健康科学)

脇 英彰

Waki Hideaki

【研究分野】 心身医学、予防医学、スポーツ医学

【研究項目】 精神、睡眠、認知に対する鍼灸治療の効果

【最終学歴】 帝京平成大学大学院 健康科学研究科

【資格】 はり師、きゅう師、柔道整復師、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、公認心理師

主な業績

●Effect of transcutaneous vagus nerve stimulation on daytime sleepiness, depression, and study engagement in college students: a randomized controlled trial, Vulnerable Child Youth Stud, 2023. ●Impact of COVID-19 and related emergency measures on mental and lifestyle changes in Japanese college football players, J Phys Fit Sports Med, 2021. ●Effects of electroacupuncture to the trigeminal nerve area on the autonomic nervous system and cerebral blood flow in the prefrontal cortex, Acupunct Med, 2017. ●第18回日本東洋心身医学研究会研究奨励賞

講師/博士(医学)

小峰 昇一

Komine Shoichi

【研究分野】 東洋医学、消化器内科学、免疫学、スポーツ医学

【研究項目】 鍼刺激が免疫応答に与える効果検証 骨格筋運動機能を制御する鍼刺激の役割

【最終学歴】 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻

【資格】 はり師、きゅう師、柔道整復師

主な業績

●Exercise training enhances in vivo clearance of endotoxin and attenuates inflammatory responses by potentiating Kupffer cell phagocytosis. Scientific Reports (2017) ●Effect of a Sulforaphane Supplement on Muscle Soreness and Damage Induced by Eccentric Exercise in Young Adults: A Pilot Study. Physiological Reports (2021) ●Taurine supplementation enhances endurance capacity by delaying blood glucose decline during prolonged exercise in rats. Amino Acids (2022) ●第25回日本消化器関連学会週間(JDDW 2017 FUKUOKA) 優秀演題賞 ●筑波大学人間総合科学研究科医学2専攻医学優秀論文賞(2018)

健康科学研究科 柔道整復学専攻 (修士課程)



日本初の修士課程で学び、 臨床の場で応用・実践できる 人材を養成します

日本で最初の「柔道整復学」の大学院修士課程として発足した本専攻は、柔道整復術という伝統的臨床技術を体系立った応用学問として確立すること、経験に基づく施術を科学的に検証・評価し得られた知見を臨床現場にフィードバックすること、さらにスポーツ科学や健康科学への応用、寄与などを目標としています。柔道整復学はほかの健康科学や医療関連分野と異なり日本国内だけで発展してきたため、治療の科学的検証やメカニズムの解明が未だ十分ではなく、多くの検討課題が今後の研究に委ねられています。

本専攻では、古来武術家の治癒促進の術として発展してきた柔道整復術を起点として、健康科学の広い視野のもとで西洋医学の基礎医学・臨床医学の知識や方法論を取り入れて、教育及び研究を進めていきます。施術におけるEBM (Evidence-Based Medicine: 科学根拠に基づく医療) を重視した検討や機能解剖学的な解明を学修し、未解決問題への挑戦をします。さらに運動指導、運動療法、予防的運動処方への応用も意向しています。今後の課題として、統合医療の一翼を担うトータルケアを指向する柔道整復学や、国際的な柔道セラピー (Judo Therapy) の普及も視野に入れています。

以上の理念のもとでの学修と研究により、科学的思考力と生涯学習の習慣を身につけた臨床家、研究者、教育者の養成を目的としており、未開拓分野である柔道整復学の進歩発展にパイオニア精神で挑む意欲のある大学院生を求めています。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	柔道整復学専攻	2年以上4年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	修士 (健康科学)

柔道整復学の科学的根拠に基づく専門教育と研究

Message

今日本では柔道整復師による整骨院や接骨院の設置ラッシュとなっています。社会の成熟化や超高齢社会の進行に伴い需要が増大し、国が認める保健医療ができるからですが、一方、医業類似行為ではない療法との境界が不明瞭なことに起因する健康被害など様々な問題が出て来ています。このような時そ地道な研究と努力が、医学・医療と健康に寄与する柔道整復学の発展のために必要と考えます。

本学建学の精神である「実学」「実践能力」「創造力」そして「人間性」を基本に、柔道整復学分野のレベルの高い臨床家、研究者、教育者の養成に尽力します。



柔道整復学専攻長
展 広智
Ten Hiroto

特色

理論面と 実践・応用面とのバランス

中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」では、高度専門職業人の養成に必要な教育として、「理論的知識や能力を基礎として、実際にそれらを活用する能力が身に付く体系的な教育課程が求められる」と述べています。これを実現するために、理論面を中心にした授業と、実践・応用面に力点を置く授業とのバランスを考えた科目構成で教育を行っています。

また理論的な理解が実践能力や応用力に結びつくように配慮しながら授業を進めています。

専門分野の深い知識と境界領域の 幅広い知識とのバランス

医療専門職としての柔道整復学分野の知識を深め、エビデンスに基づいた医療の実践を目指すことは重要です。しかし専門分野にだけ目を向けていると、知識や思考が狭くなりがちです。ほかの医療職種との学生とも一緒に学ぶ本専攻では、健康科学の広い視野を養う姿勢で教育する方針です。そのために、研究科共通の基礎科目と専攻の専門科目の連携を重視して授業を展開しています。専門科目の基礎知識として必要性の高い基礎科目は1年次前期に配置して、全員が履修するように指導しています。

健康科学研究科 柔道整復学専攻（修士課程）では、「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細はP.12をご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 柔道整復学専攻（修士課程）

健康科学研究科 柔道整復学専攻（修士課程）では、柔道整復学分野の高度専門職業人、教育・指導者、研究者の養成を目的としている。建学の精神である「実学」「実践力」「創造力」そして「人間性」を基本とし、健康科学の研究と教育に高い関心を持つ、以下の入学者を求める。

- 1 柔道整復という伝統的臨床技術を体系立った応用学問として確立しようとしている。
- 2 経験に基づく施術方法を科学的に検証して、得られた知見を臨床現場の活動にフィードバックしたいと希望している。
- 3 柔道整復の治療手技に止まらず健康科学の広い視野を持って学び、医療・保健分野の専門職や教育・指導者、また研究者として社会に貢献することを目標としている。

研究指導内容/修士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
臨床柔道整復学(骨折・脱臼・捻挫・筋腱軟部損傷の非観血的療法の治療方法等)・運動器のバイオメカニズム・医療経済学	柔道整復の外傷(骨折・脱臼・捻挫・筋腱軟部損傷)・手技療法などの臨床研究と基礎運動機能の研究を考えています。それに関連する研究計画を作成し、仮説の設定・実験及び調査方法・データの解析法を指導します。	教授 樽本 修和
スポーツ医学と柔道整復治療学	スポーツ外傷、特に神経外傷と柔道整復治療について研究しています。それに関連する研究計画を作成し、実験及び調査方法・データの解析法などを指導します。	教授 展 広 智
自然災害に対する柔道整復師による災害医療学・外傷治癒過程の超音波画像評価学・海外における柔道整復術技術移転に関する研究	柔道整復師による自然災害に対する対応、怪我に対する超音波を用いた外傷評価を研究テーマに設定し、研究デザイン設計やデータ収集/解析方法について指導します。その内容を元に、海外でいかに技術移転を行うかについても関連づけられる能力を養います。	教授 森 倫 範
柔道整復臨床研究・運動器外傷に関連する機能解剖学	柔道整復師が臨床現場で遭遇する疑問点について研究テーマを設定し、研究デザインの立て方、計測・データの収集方法、データの解析方法について指導します。	教授 掛川 晃
臨床柔道整復学(骨折・脱臼・捻挫・スポーツ障害等における傷害特性の理解と治療方法)傷害の機能解剖学的理解	身体動作・運動のバイオメカニズムの理解を通じて、柔道整復術への応用可能な身体特性や傷害特性の研究指導を行います。	准教授 原口 力也
柔道整復の歴史および、史・資料の保存に関する研究	柔道整復に関する歴史の諸問題について、文献や史料の発掘と解釈を通じて研究を進め、大正から戦後期にかけての柔道整復の形成過程や、史・資料の保存に関する研究へ展開していく。また、これらの領域に問題意識と関心を共有するテーマについて指導を行う。	講師 湯浅 有希子

健康科学研究科 柔道整復学専攻(修士課程) 授業科目一覧

※「共通科目」は、全専攻で科目は共通ですが、それぞれの研究テーマに沿って指導教員のもとで研究を進めていく科目のため、具体的な内容は各人で異なります。

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目
共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学研究法特論Ⅰ ●健康科学研究法特論Ⅱ ●医療統計学特論 ●医療教育学特論 ●保健医療管理学特論 ●健康医科学特論 ●医科学英語特論

科目区分	授業科目
専門領域科目	<ul style="list-style-type: none"> ●柔道整復学特論 ●柔道整復学演習 ●臨床解剖学特論 ●臨床研究解析演習 ●スポーツ医学柔道整復特論 ●スポーツ医学柔道整復演習
研究科目	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学特別研究

教員一覧

教授

展 広智
増島 篤
樽本 修和
富田 晴生
國分 義之
牛込 彰彦
小野澤 大輔
森 倫範
掛川 晃

准教授

原口 力也
佐藤 義裕
玉井 清志
川村 茂
高橋 勇二

講師

清水 貴司
湯浅 有希子
大圖 貴三
森川 由基

助教

片桐 亮
金子 健作
大内 佳奈江

研究指導教員紹介

専攻長/教授/博士(医学)

展 広智

Ten Hirotomoto

研究分野 脳神経外科学、スポーツ医学と柔道整復学

研究項目 スポーツ外傷、神経外傷、神経修復再生

最終学歴 滋賀医科大学 大学院医学系研究科
博士課程修了

資格 医師、脳神経外科専門医、産業医、スポーツドクター、
柔道整復師

主な業績

【著書】●脳神経外科研修診療心得、メジカルビュー社(2014)/共著
【論文】●Sequential expression of miR-221-3p and miR-338-3p in Schwann cells as a therapeutic strategy to promote nerve regeneration and functional recovery. Neural Regen Res.18(3):671-682(2023)/共著 ●Fibrin Glue/Fibronectin/Heparin-Based Delivery System of BMP2 Induces Osteogenesis in MC3T3-E1 Cells and Bone Formation in Rat Calvarial Critical-Sized Defects. ACS Appl Mater Interfaces. 12(11):13400-13410(2020)/共著 ●Occipital lobe epilepsy was presented in a patient with intracerebral schwannoma: a case report and literature review. Int J Neurosci. 129(3):308-312(2019)/単著

教授/博士(健康科学)

樽本 修和

Tarumoto Nagayoshi

研究分野 医療経済学(費用分析)、健康科学、
柔道整復師に関わる研究

研究項目 (1)柔道整復師の医療経済学(費用分析)に関する研究
(2)足関節の捻挫治療方法に関する研究

最終学歴 帝京平成大学大学院 健康科学研究科 博士課程修了

資格 柔道整復師、X線作業主任者、はり師、きゅう師

主な業績

【著書】●クリニカル・レクチャー 柔道整復実践技術 共著 メジカルビュー社 2019.3
●柔道整復外傷学ハンドブック(総論/上肢骨折・脱臼/下肢骨折・脱臼)共著医道の日本社 2010.03/2010.8/2011.01 ●新鮮例足関節捻挫に対するモビライゼーション手技の影響—接骨院におけるランダム比較試験による検討— 柔道整復接骨医学雑誌 Vol.19 NO.3 2011.6 ●Micro-casting of judo-therapy Clinics — Multi-centered Cost Analysis — 柔道整復骨医学雑誌 Vol.19 NO.4 2011.9 ●急性腰痛における接骨院の位置付けと施術の効果 柔道整復接骨医学 Vol.20 NO.2 2012.5

教授/博士(医学)、修士(薬学)

森 倫範

Mori Michinori

研究分野 災害医学・外傷画像評価学・柔道整復学

研究項目 自然災害の柔道整復師支援活動の検討
外傷治療過程の超音波画像評価の検討
海外における柔道整復術技術移転

最終学歴 東京医科大学大学院 医学研究科

資格 柔道整復師、国際緊急援助隊 登録隊員、
日本柔道整復師会 災害対策室 室員、JICA 草の根事業 専門家

主な業績

【著書】災害派遣柔道整復チーム(DJAT) 災害支援における多職種連携 医学書院 共著
【論文】Utility of ultrasound imaging in monitoring fracture healing in rat femur: Comparison with other imaging modalities. 2024 共著, 自然災害発生時、柔道整復師に何が出来るか? 日本柔道整復接骨医学会誌 33(3) 188-194, 2024 単著【その他】The potentiality of Judo Therapy in Disaster Relief Insights from the the Japan Disaster Relief Medical Team in Response to the Earthquake Damage in the Republic of Türkiye. 23th Congress on Disaster and Emergency Medicine (WADEM 2025)【受賞】外務大臣感謝状, 外務省 (2024)

教授/博士(医学)

掛川 晃

Kakegawa Akira

研究分野 肉眼解剖学

研究項目 足関節外側韌帯複合体の構造と機能の解明、
臨床機能解剖学

最終学歴 信州大学大学院 医学系研究科 医学系専攻 博士課程修了

資格 死体解剖資格、柔道整復師

主な業績

●The calcaneofibular ligament groove at the inferior fibula, an ultrasonographic anatomical landmark (2024) ●Difference in the fibular attachment structure between the superior and inferior fascicles of the anterior talofibular ligament using ultrasonography and histological examinations (2022)
●Relationship between inferior fascicle of anterior talofibular ligament and articular capsule in lateral ankle ligament complex (2022)

准教授/修士(情報学)

原口 力也

Haraguchi Rikiya

研究分野 柔道整復学・バイオメカニズム

研究項目 帝京平成大学大学院 健康科学研究科 博士課程満期退学

最終学歴 柔道整復師、柔道整復師専科教員、
モンゴル国体育大学 客員教授

主な業績

●2011年第20回日本柔道整復接骨医学会学術大会「蹲踞動作における下肢運動連鎖」
●2012年第21回日本柔道整復接骨医学会学術大会「第1CM関節症の病態と治療効果」
●2018モンゴル国立体育大学講演・授業 ●2019 日整会長学術賞 受賞 ●2020年3月柔道整復師clinical text 著 ●2021第二回モンゴル国 国際スポーツ学術集会「日本の国技柔道、日本の伝統医療柔道整復術」 ●Analysis of Research Trends for Trunk Rotation Range of Motion, Journal of International Exercise Science vol.1 No.1, 2022 ●Literature Review of Research Trends on Trunk Rotation Range of Motion, Journal of International Exercise Science vol.3 No.1, 2024

講師/博士(スポーツ科学)

湯浅 有希子

Yuasa Yukiko

研究分野 柔道整復学、スポーツ科学

研究項目 近・現代における柔道整復師の形成過程の史料検討

最終学歴 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科
博士課程修了

資格 柔道整復師、中・高教諭一種免許状(保健体育)

主な業績

【著書】●柔道整復師-接骨術の西洋医学化と国家資格への歩み(早稲田大学学術叢書48), 早稲田大学出版, 2016 ●柔道整復師形成過程の歴史的研究-医学および医療制度の分析と天神真楊流柔術-(早稲田大学モノグラフ), 早稲田大学出版, 2014
【論文】●新渡戸家文書にみる諸賞流和, 共著, 武道学研究 53巻1号, 2020 ●柔道整復の誕生-1911-1920年における柔道整復の法制化を巡って, 体育史研究 30号, 2013【その他】●GHQの指導は戦後の柔道整復教育にどのような影響を与えたか。第31回日本柔道整復接骨医学会学術大会 プログラム・抄録集, 2022

健康科学研究科 健康栄養学専攻 (修士課程)



“食・栄養・健康”に関する スペシャリスト、リーダーおよび 教育者・研究者を養成します

本専攻の教育目標は、食・栄養・健康に関する高度な専門的知識を修得し、それらを応用して現状を分析、諸問題を抽出解析してその解決策を見だし、さらに実践する能力を養うことにあります。これらを通して“食・栄養・健康”のスペシャリスト、管理栄養士のリーダー、教育者・研究者、食品関連業界の研究者などを養成することを目指しています。

近年、生活習慣病の増加、食の安全への不安、食文化の喪失など、食や栄養、健康に関する問題が深刻になっています。また、加速する高齢化社会において、いかに健康寿命を延ばすか、そのためのサルコペニア、フレイル対策なども喫緊の課題で、医食同源の重要性があらためて認識されています。これらの問題に対応するため、食育基本法の制定・実践や栄養教諭の普及など国を挙げての取り組みがなされています。また、医療現場では、あらゆる疾病治療において、栄養がその基礎となることの認識も深まっており、多職種によるチーム医療の実践が求められ、Nutrition Support Team (NST) では管理栄養士が主導的な役割を果たすことが期待されています。さらに、一般社会での機能食品や栄養補助食品の普及は目覚ましく、機能性食品などを適切に利用するための栄養学的知識の普及も必要とされています。食の安全も重要な課題です。このように、栄養の専門家に対する社会のニーズは非常に高くなっています。本専攻はこのような社会のニーズに応える人材を養成します。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	健康栄養学専攻	2年以上4年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	修士(健康科学)

健康の基盤である栄養に関する
 専門家、リーダーを養成
 — 問題を見いだし科学的に解決する能力を養います

Message

本専攻では、健康であるために最も重要な基盤となる食や栄養に関する専門家の養成を目指しています。この過程においては、まず現在まで分かっているエビデンスを確認し、その上で何が問題かを見いだすこと、そしてそれを科学的にいかにか解決してゆくかの思考回路を形成することが最も大切です。このようなことは、専攻科学生が、将来、栄養学のいかなる領域においても、リーダー格となるために役立つものと考えられます。

指導教員は基礎栄養学、臨床栄養学、食品学をはじめとした様々な専門領域を有し、国際的にも活躍しておりますので、専攻科学生は自身の希望に応じて、関心のある領域を選び、研究することができます。教員は自らの実績を活かして、学生一人ひとりの研究テーマに即したきめ細かな指導を行いますので、着実に研究成果を上げることが期待できます。楽しく、かつ切磋琢磨して研究することをモットーにしています。また就職支援をはじめとして卒業後も継続的な支援を行います。



健康栄養学専攻長
福島 亮治
 Fukushima Ryoji

特色

多職種からなり幅広い専門分野を持つ 教員による指導で多彩な研究に対応

食・栄養・健康の研究では、関連分野の専門家との協力が欠かせません。本専攻の教員は、臨床医師（消化器外科専門医）、管理栄養士、薬剤師、看護師の資格を有する者や、解剖学、生物科学、免疫学、脳神経学、農芸化学、水産学などを専門とする者で構成されており多彩です。またグループ校である帝京大学の医学部をはじめ、東京大学農学部やいくつかの食品企業とも共同研究を行っています。従って、本専攻で学ぶことにより、関連分野の専門知識の修得やその専門家と協力を身に付けることができるようになります。

社会のニーズに応える食・栄養・ 健康に関する課題解決能力を養成

教員は、病院における栄養治療やNutritional Support Team (NST) 活動、高齢者の栄養管理、健康食品開発、行政での栄養教育、食品分析、厚生労働省委託研究など、近年の大きな社会的課題に関して優れた研究実績と実務経験を有しています。これらの実績と経験を活かし、学生に対して社会のニーズを読み取る能力、社会のニーズに応える課題解決能力を養成します。

健康科学研究科 健康栄養学専攻（修士課程）では、
 「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細はP.12をご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 健康栄養学専攻（修士課程）

健康科学研究科 健康栄養学専攻（修士課程）は、“食・栄養と健康”に関する高度人材養成、教育・指導者・研究者養成を目指し人々の健康維持増進の実現に貢献することを目的としている。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- ① 食・栄養・健康に関心があり、より専門的な能力を身につけようとする意欲を有している。
- ② 食・栄養に関して研究意欲が高く新規性・独創性のある研究、課題に取り組もうとする能力を有している。
- ③ 食・栄養・健康の活動を通して、積極的に社会に寄与、貢献したいと希望している。
- ④ 他者へのいたわり・思いやりを持ち、協調性を有している。

研究指導内容/修士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
臨床栄養学	栄養はあらゆる疾病治療の基礎となるものです。いかなる高度な治療技術も栄養状態が悪ければ十分な効果を得ることはできません。疾病の病態を詳細に把握し、それに即した適切な栄養治療を行うことが極めて重要です。各種疾病に関する高度な専門知識を深め、栄養治療に関する最新の知見を身につけ、課題に対して研究することで、栄養治療に関する問題解決能力を養成します。	教授 福島 亮 治
健康管理学	日本人の三大死因の1つのがんは食習慣などの生活習慣が関係しています。がんを予防するための食生活について文献検索し、がん患者の生活の実態を調査し、栄養や食事の面からがんを予防する方法を検討し、健康の維持管理について研究します。また、がん患者の治療中の食事摂取や栄養摂取状況について調査し、治療中のがん患者の健康状態の向上について検討します。	教授 牟田 真理子
応用栄養学	主に、以下の課題に対する研究、及び研究結果を現場で活かす力を養います。 ・うつ病患者の栄養的課題 ・うつ病患者のリハビリテーションとしての調理実習 ・高齢者のフレイル(身体的、精神と心、社会的フレイル)の3つの側面 ・災害時の栄養問題 ・その他、食生活に関するテーマ	教授 野口 律 奈
食品メタボロミクス	食品の2次機能である美味しさや食べる喜びなどは、ヒトが五感で感じるにおい(香り)、呈味、食感、色調、外観、組織構造、咀嚼音などの品質特性は最新の科学的な分析機器を活用して評価を行っている。この中でもノンターゲットングオミクスを用いたにおいや呈味の網羅的解析により新たな食品の風味の品質特性のプロファイル解析や新規化合物探索が可能である。食品から得られた風味に関する網羅的解析データは多変量解析を始めとしたインフォマティクスにより、食品の品質を革新的に高めるために活用し、新規なフレーバーの解明により生活の質(QOL)の向上に寄与できるような新たな技術開発に取り組んでいます。	教授 前田 竜 郎
食品作用学	ハーブやスパイスは、古来より、抗菌作用や防腐作用を目的として経験的に使用されてきました。近年、これら植物およびその成分・抽出物の多くは、抗炎症作用や抗感染作用などを有し、生体防御系にも深く関与していることが科学的に明らかになってきています。ハーブやスパイスが微生物にどのように作用するのか、私たちの生体防御系にどのように影響を与えるのかに関して、伝統的な使用方法との比較も行いつつ、国内外の論文を調べ、考察し、今後の可能性について研究します。	教授 丸山 奈 保
栄養管理学	人体の栄養状態を適正に保つことは、疾病の予防、治療、重症化予防、介護予防に貢献しますが、傷病者、要支援・要介護者は栄養状態を良好に保つことが困難なことがあります。そこで、その阻害要因を明らかにし、人々の健康とQOL向上に寄与できる栄養管理法や食環境整備の方法を研究します。	准教授 高橋 寛 子
生命科学	本研究では、免疫応答の中核を担うヒト白血球抗原(HLA)の多型に着目し、その機能的意義を分子・細胞レベルで解明することを目的とします。HLA遺伝子は多様に富み、免疫応答や疾患感受性、移植適合性などに深く関わることから、NGS法や培養細胞実験系を活用し、特定のHLAアレルが免疫機能に与える影響を解析します。本研究を通じて、個別化医療の基盤となる遺伝学の理解を深めるとともに、自己免疫疾患や感染症分野への応用を目指します。	准教授 水谷 晃 子
分子生理学	栄養、運動、ストレス、疾病といった生体内からの刺激に対する応答は、遺伝子、タンパク質、代謝物といった分子レベルの変動によって制御されています。網羅的遺伝子発現解析(RNA-seq)や質量分析計によるメタボロミクスといったオミクス技術と、細胞を用いた機能評価系を組み合わせることで、これらの生体分子の動態を多角的に捉えます。これにより、アスリートの急速減量時における生体応答メカニズムの解明や、体内で産生される揮発性有機化合物の網羅的解析、機能未知なオープン受容体が関わる新規情報伝達系の探索といったテーマに取り組めます。こうした研究を通じて、科学的根拠に基づいた問題解決能力と独創的な研究発想力を養います。	准教授 長谷川 和 哉
給食経営管理学	管理栄養士・栄養士の固有の業務は「栄養の指導」であり、その一環として、給食施設では、特定多数の人々を対象に適切な栄養管理を実施することが求められます。そこで、適切な栄養管理を行うための前提となる栄養評価や食事管理に関する研究を行います。さらに、給食施設における食事の品質管理や生産管理についても、栄養管理の視点を踏まえて探究し、給食施設における栄養管理に関する課題解決能力を養います。	講 師 野原 健 吾

健康科学研究科 健康栄養学専攻（修士課程）授業科目一覧

※「共通科目」は、全専攻で科目は共通ですが、それぞれの研究テーマに沿って指導教員のもとで研究を進めていく科目のため、具体的な内容は各人で異なります。

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目
共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康科学研究法特論Ⅰ ● 健康科学研究法特論Ⅱ ● 医療統計学特論 ● 医療教育学特論 ● 保健医療管理学特論 ● 健康医科学特論 ● 医科学英語特論

科目区分	授業科目
専門領域科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 食材供給学特論 ● 栄養生化学特論 ● 食品機能学特論 ● 臨床栄養学特論 ● 栄養教育学特論 ● 食生活学特論 ● 健康増進学特論
研究科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康科学特別研究

教員一覧

教授

福島 亮治
児玉 浩子
牟田 真理子
野口 律奈
前田 竜郎
丸山 奈保

准教授

藤本 哲也
水谷 晃子
高橋 寛子
永井 亜矢子
上野 治香
長谷川 和哉

講師

端田 寛子
野原 健吾

研究指導教員紹介

専攻長/教授/博士(医学)

福島 亮治

Fukushima Ryoji

- 研究分野** 消化器外科学、臨床栄養、外科代謝栄養学
- 研究項目** 外科周術期の栄養管理、癌患者に対する栄養管理、胃癌に対する集学的治療
- 最終学歴** 北海道大学 医学部 医学科
- 資格** 医師、消化器外科指導医、消化器内視鏡指導医、JSPEN指導医

主な業績

【受賞歴】●日本外科代謝栄養学会賞1992 ●日本癌治療学会第54回学術集会優秀演題賞2016年【論文】●Recognizing malnutrition in adults with critical illness: Guidance statements from the Global Leadership Initiative on Malnutrition. Clin Nutr 2025, 49:202-208. 共著 ●GLIM criteria for the diagnosis of malnutrition - A consensus report from the global clinical nutrition community. Clin Nutr 2019, 38:1-9. 共著 ●Perioperative management for gastrointestinal surgery. Asian J Surg 2020 43:124-129【著書】●Enhanced Recovery After Surgery. Springer Nature Singapore Pte Ltd. 2018. 共著 ●外科侵襲の病態生理 標準外科学 第16版 医学書院 2022 共著 ●JSPENテキストブック 一般社団法人日本臨床栄養代謝学会編 南江堂 2021 共著

教授/博士(薬学)

牟田 真理子

Muta Mariko

- 研究分野** 生活科学
- 研究項目** 健康と食生活、がん予防
- 最終学歴** 共立薬科大学(慶応義塾大学薬学部)大学院 薬学研究科 博士後期課程修了
- 資格** 栄養士、管理栄養士

主な業績

●Best Poster The 4th Annual Conference of Organisation for Oncology and Translational Research (OOTR) 2007.11 ●Mechanical analysis of tumor growth regression by the cyclooxygenase-2 inhibitor, DFU, in a Walker256 rat tumor model:importance of monocyte chemoattractant protein-1modulation. Clin. Cancer Res. 2006;12(1):264-72 ●Basic fibroblast growth factor is essential to maintain endothelial progenitor cell phenotype in TR-BME2 cells. Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2014;37(4): 688-693.

教授/博士(栄養学)

野口 律奈

Noguchi Ritsuna

- 研究分野** 応用栄養学(特殊環境と栄養)、精神栄養学
- 研究項目** 災害栄養、南極の食事、リハビリテーションと調理、高齢者と栄養、うつと栄養
- 最終学歴** 女子栄養大学大学院 栄養学専攻科 博士後期課程修了
- 資格** 管理栄養士

主な業績

●災害時の栄養・食生活支援に関するガイドライン、マニュアル、ツールに関する質的調査日本災害食学会誌.2022 ●在宅高齢者が感じる加齢に伴う機能低下と食環境、および食生活の変化について-質問紙の量的解析及び質的解析-. 2021 ●Prolonged Maternal and Child Health, Food and Nutrition Problems after the Kumamoto Earthquake: Semantic Network Analysis of Interviews with Dietitians, J. Environ. Res. Public Health, 2021 ●リワークプログラムとしての「調理実習」の有用性~Kirkpatrick 4段階モデルの視点から~, 調理科学会誌. 2020

教授/博士(農学)

前田 竜郎

Maeda Tatsuro

- 研究分野** 食品メタボロミクス、食感性工学、食品科学、穀物化学
- 研究項目** ヒトの五感(味覚・聴覚・視覚・触覚・聴覚)が感じる食品の美味しさの品質特性の解明
- 最終学歴** 千葉大学大学院 園芸学研究所 農芸化学専攻 修士課程修了
- 資格** 第一種放射線取扱主任者、甲種危険物取扱主任

主な業績

【受賞歴】●2021年日本消化吸収学会 学会賞、●2021年日本食品工学会 論文賞、●2010年日本農芸化学会 BBB論文賞、●2007年日本食品工学会 優秀発表賞、●2006年日本冷凍空調学会 学術賞 【論文】●パスタの茹で工程における内部・表層の組織構造の変化. LWT,149,111611,2021. ●パスタデンプン粒の乾燥温度による影響について. LWT, 145,111171,2021. ●極低温ミクロトームイメージングとX線CT断層撮影によるアスクリームの内部構造の決定. Japan Journal of Food Engineering,21(3),113,2020. ●乾燥パスタの官能用語の構築. Journal of Sensory Studies,33,4,e12438,2018. ●パン生地中のグルテンとデンプン粒のマトリックス構造の蛍光染色イメージング法の開発. Cereal Chemistry,90(3),175,2013.

教授/博士(薬学)

丸山 奈保

Maruyama Nahou

- 研究分野** 真菌学、炎症・免疫学
- 研究項目** 植物精油・ハーブ・スパイスの抗菌・抗炎症作用の解明
- 最終学歴** 東京大学大学院 薬学系研究科 生命薬学専攻 修士課程修了
- 資格** 薬剤師

主な業績

●血管内皮細胞での炎症応答に対する植物精油の抑制作用の検討:アロマセラピー学雑誌. 22,10-16(2021) ●植物精油の嗅覚刺激を介した免疫能に及ぼす作用: Medical Mycology Research. 9, 9-16 (2018) ●Inhibition of neutrophil adhesion and antimicrobial activity by diluted hydrosol prepared from Rosa damascena. Biol. Pharm. Bull. 40, 161-168 (2017) ●アロマセラピーのための精油ハンドブック: 日本アロマセラピー学会編、丸善出版、2016、共著 ●アロマセラピー標準テキスト第2版 基礎編・実技編: 日本アロマセラピー学会編、丸善出版、2022、共著

准教授/博士(保健学)、修士(保健学)

高橋 寛子

Takahashi Hiroko

- 研究分野** 生活科学、保健情報学、臨床栄養学
- 研究項目** ICT技術を活用した栄養管理媒体の開発と利用
- 最終学歴** 女子栄養大学大学院 栄養学研究科 保健学専攻 博士後期課程修了
- 資格** 栄養士、管理栄養士、人間ドック健診情報管理指導士、TNT-D管理栄養士

主な業績

【受賞歴】●日本健康科学学会第25回学術大会学術大会賞,2009【著書】●Nブックス 臨床栄養管理,建帛社,2020【論文】Effect of Electromyostimulation Training on Intramuscular Fat Accumulation Determined by Ultrasonography in Older Adults, European Journal of Applied Physiology, 2023 ●成人を対象とした食事バランスチェックソフト「MealSelection」の開発, HealthSciences, 2014 ●小学校高学年を対象とした食育用ソフト「なにとべよう」の開発, Health Sciences, 2011

研究指導教員紹介

准教授/博士(医学)

水谷 晃子

Mizutani Akiko

研究分野 分子生物学、遺伝学

研究項目 モデル細胞を用いた遺伝子多型の機能解析

最終学歴 大学院医学研究科

主な業績

●Nucleotide alterations in the HLA-C class I gene can cause aberrant splicing and marked changes in RNA levels in a polymorphic context-dependent manner.(F.Immun.2024) ●Capturing Differential Allele-Level Expression and Genotypes of All Classical HLA Loci and Haplotypes by a New Capture RNA-Seq Method. (F.Immun.2020) ●Modified S/MAR episomal vectors for stably expressing fluorescent protein-tagged transgenes with small cell-to-cell fluctuations.(Anal.Biochem.2013)

准教授/博士(医学)

長谷川 和哉

Hasegawa Kazuya

研究分野 内分泌学、生理学、運動栄養学

研究項目 生体内で産生されるVOCの網羅的解析、機能未知の受容体の新規リガンドの探索、急速減量(水抜き減量)による生理応答

最終学歴 宮崎大学大学院 医学獣医学総合研究科 博士課程修了

資格 管理栄養士

主な業績

【論文】●Evaluation of 3β -hydroxysteroid dehydrogenase activity using progesterone and androgen receptors-mediated transactivation, *Frontiers in endocrinology*, 2024. ●Analyses of Molecular Characteristics and Enzymatic Activities of Ovine HSD17B3, *Animals*, 2021. ●Differential roles of VPS and RAAS in water homeostasis and a risk for kidney dysfunction in rats undergoing rapid fasting/dehydration with regular exercise. *Physiological Reports*, 2021.

講師/博士(栄養学)

野原 健吾

Nohara Kengo

研究分野 給食経営管理学、栄養管理学、食生活学

研究項目 給食の栄養評価・品質管理
給食施設における栄養管理最終学歴 女子栄養大学大学院 栄養学研究科
栄養学専攻 博士後期課程修了

資格 栄養士、管理栄養士

主な業績

【著書】●実力養成のための給食管理論,学建書院,2023 ●エスカパーシク 給食の運営管理論-計画と実務-,同文書院,2022 ●臨地・校外実習のための特定給食管理運営事例集,学建設書院,2018【論文】●給食の調理・盛付け工程における食品および料理の重量変動要因の検討-クックサーブシステムの特定給食施設を想定して,日給経管誌,17,85-100,2023 ●学校給食施設における栄養計算方法および調理によるビタミン類、ナトリウムの損失考慮の実態,日給経管誌,16,35-43,2022 ●特定給食施設の衛生管理を目的とした作業分類の検討,日給経管誌,7,73-83,2013

健康科学研究科 言語聴覚学専攻 (修士課程)



言語聴覚学領域における 指導的役割を担う 臨床家、研究者を養成します

言語聴覚学は、広い基礎知識を基盤とする 学際的な応用の学問です

言語聴覚学は、正常なコミュニケーション過程の科学的究明を基盤として、言語・コミュニケーションの多種多様な問題に関して、その症状の記述、評価、原因の究明を目指す、いわば基礎と臨床を統合した学問分野です。言語科学系、心理・教育・社会科学系、医学系、工学系などに及ぶ広い基礎知識を基盤とする学際的専門領域であり、これらの基礎科学で得られた知識を応用して障害の治療に当たることを目的とします。

高度の専門性を持ち指導的役割を担う臨床家、研究者を養成します

近年、社会の高齢化、医療技術の進歩・高度化に伴う疾病構造の変化や社会システムの変化などに伴い、言語聴覚療法のニーズが多様化しています。本専攻では、これらの社会状況を踏まえ、人間のコミュニケーションの発達とその障害に対する豊かな知識を備え、多様な社会的ニーズに即した支援を行う高度の専門性を持ち、言語聴覚学領域における指導的役割を担う臨床家、研究者の養成を目指します。

言語聴覚学専攻で学ぶことは(専門科目について)

開講されている専門領域科目「言語聴覚学演習」では言語・コミュニケーションを生涯発達の視点から学びます。「言語聴覚障害学演習」では言語の諸問題を多面的・分析的に評価する方法論について、「言語聴覚療法学演習」では訓練技法や包括的支援について、これまでの研究の歩みを学びつつ、内外の文献講読や症例検討から最新の知見について学びます。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	言語聴覚学専攻	2年以上4年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	修士(健康科学)

多様な支援ニーズに 応えるための 言語聴覚障害児・者が抱える 専門的学修と研究指導

Message

本専攻では、「言語聴覚学」「言語聴覚障害学」「言語聴覚療法学」の3つの研究分野について、学修と研究を行います。「言語聴覚学」は、主にコミュニケーションと言語の発達およびその障害について、生涯発達の視点から学び、言語聴覚障害研究の基礎能力を養います。「言語聴覚障害学」は、言語聴覚障害の各専門分野の諸問題を多面的視点から評価・分析するための最新の知識と研究方法を学修し、対象者の抱える問題を、包括的に解釈する力を養います。「言語聴覚療法学」は、各専門分野の訓練技法や包括的支援の方法論を研究し、臨床での実践能力の向上を目指します。本専攻では、各分野で豊富な臨床歴、研究歴を持つ教員が研究指導を行う体制が整っています。自らの明確な問いを持ち、粘り強く積極的に学修と研究を遂行できる人材を求めます。



言語聴覚学専攻長
黒田 生子
Kuroda Seiko

特色

生涯発達の視点から、 言語・コミュニケーション機能に関する 基礎研究を進めます

乳幼児期から老年期に至る言語・コミュニケーションの発達とその基礎となる認知機能、聴覚、発声・発語機能の発達、およびそれぞれの発達段階で出現する問題や障害、加齢変化について、生涯発達の視点から総合的に学び、言語聴覚障害研究の基礎能力をつけます。言語・コミュニケーションについて各発達段階の特徴を考察しながら、神経心理学的視点、言語発達心理学的視点、認知心理学的視点などから研究を深めます。

多面的視点から 評価・分析するための方法論、及び 訓練・支援法の研究を進めます

観察法、調査法、実験法、事例研究法、エピソード記述を通じた研究法など、言語・コミュニケーション障害の諸問題を評価・分析するための様々な方法論や、個人を包括的に捉える方法論を研究します。また、言語・コミュニケーション障害に対する機能訓練法、障害特性に応じたAACの適用などについて研究を深めます。生活支援、家族支援、教育支援、就労支援の視点から、臨床実践のあり方や地域社会への支援方法についても実証的な研究を行います。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 言語聴覚学専攻（修士課程）

健康科学研究科 言語聴覚学専攻（修士課程）は、言語聴覚学領域における指導的な役割を担う高度専門職業人、教育・指導者、研究者の養成を目的としている。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- ① 言語聴覚障害分野における課題を発見し、課題解決に取り組む意欲や態度、研究に必要な基礎的能力を有している。
- ② 言語聴覚学領域における課題や問題を深く研究する明確な動機と研究意欲を持ち、積極的に研究を遂行できる。
- ③ 臨床、教育、研究に必要な基本的協調性と社会性を持ち、言語聴覚士の資格を活かし、わが国と世界の持続・発展に尽くし、貢献する意欲を有している。

研究指導内容/修士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
聴覚障がい児・者および盲ろう児・者のコミュニケーションとQOL、臨床発達支援に関連する分野	聴覚障害者(あるいは盲ろう者)のwell-being(健康で幸福な生活)の視点から、より良いコミュニケーション支援のあり方について検討します。研究指導では、エピソード記述を用いて当事者と支援者、家族、社会との関係性の在りようを質的に吟味し、支援する側の在りようも対象とした検討を行います。	教授 黒田生子
言語・非言語コミュニケーション障害の脳内メカニズムに関する認知神経心理学的アプローチ	脳血管障害や神経変性疾患などにより、脳の一部あるいは脳内ネットワークが破綻をきたしたとき、どのようなコミュニケーション障害が生じるのかについて研究しています。特に、顔や表情認知とその障害をきたす脳領域、描画発達とコミュニケーション障害の関係などが関心領域です。研究指導では、研究プランの立て方や脳画像を含むデータの見方から、効果的な論文作成の方法までを指導します。	教授 永井知代子
失語症・高次脳機能障害の評価・訓練・指導に関する分野	失語症・高次脳機能障害に関する基礎的、臨床的な研究について対応します。特に失語症の会話や談話の分析方法などについて指導を行います。	教授 相馬有里
高次脳機能障害の評価・治療・介入、及び加齢による認知機能の低下に関する領域	高次脳機能障害全般について扱いますが、中でも特に認知症の神経心理学的評価の枠組みと解釈、治療・介入の技法等について取り上げます。また加齢による認知機能の低下についての基礎的研究にも対応します。	教授 植田恵
小児領域の発声発語障害の評価、訓練、指導に関する分野	小児の発声発語障害の中で、特に機能性、器質性構音障害に関する基礎的、臨床的な研究について取り上げます。音声の聴覚判定および機器を用いた鼻咽腔閉鎖機能の評価に関する基礎的研究についても指導を行います。	准教授 佐藤亜紀子
聴覚障害児の言語発達の評価に関する分野	幼児期から学童期の聴覚障害児の言語発達、特に状況文脈の理解など語用論的な側面に関する評価について指導を行います。	准教授 野原信
地域包括ケアシステムにおける言語聴覚療法の評価と多職種連携の効果判定に関する分野	地域言語聴覚療法における実践研究の手法について指導します。在宅療養支援における効果判定とチーム形成プロセスの分析を通じて、現場での実践経験を適切に言語化・構造化する手法を身につけることを目指します。	准教授 山本徹
小児期発症の失語症・高次脳機能障害の評価・訓練・支援に関する分野	小児期に発症した失語症・高次脳機能障害について対応します。当事者への評価・訓練・支援、家族支援、医療と教育・福祉との連携について指導します。	講師 廣瀬綾奈

健康科学研究科 言語聴覚学専攻(修士課程) 授業科目一覧

※「共通科目」は、全専攻で科目は共通ですが、それぞれの研究テーマに沿って指導教員のもとで 研究を進めていく科目のため、具体的な内容は各人で異なります。

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目
共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学研究法特論Ⅰ ●健康科学研究法特論Ⅱ ●医療統計学特論 ●医療教育学特論 ●保健医療管理学特論 ●健康医科学特論 ●医科学英語特論

科目区分	授業科目
専門領域科目	<ul style="list-style-type: none"> ●言語聴覚学特論 ●言語聴覚学演習 ●言語聴覚障害学特論 ●言語聴覚障害学演習 ●言語聴覚療法学特論 ●言語聴覚療法学演習
研究科目	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学特別研究

教員一覧

教授	准教授
黒田生子	山本 徹
相馬有里	佐藤 亜紀子
永井 知代子	野原 信
植田 恵	講師
川島 尊之	廣瀬 綾奈
鶴木 恵子	原田 円
	重森 知奈

研究指導教員紹介

専攻長/教授/博士(人間・環境学)

黒田 生子

Kuroda Seiko

研究分野 共生人間学、聴覚障害(および盲ろう)学、コミュニケーション障害学、人間工学(補聴器・人工聴覚器)

研究項目 聴覚障害者(および盲ろう者)のwell-being(健康で幸福な生活)とコミュニケーション、臨床・発達支援のあり方

最終学歴 京都大学大学院 人間・環境学研究所 共生人間学専攻 博士課程修了

資格 言語聴覚士、臨床発達心理士

主な業績

【著書】●(編著)『聴覚障害学』メジカルビュー社2025 ●(共著)『言語聴覚士国家試験マスターノート』メジカルビュー社2023 ●(編著)『聴こえの障がいと補聴器・人工内耳入門』学苑社2022 ●(共著)『接面を生きたる人間学』『盲ろう者とコミュニケーション』ミネルヴァ書房2021 ●(編著・監修)『聴覚障がい児・盲ろう児の発達支援テキスト 実践編DVD付』、『同 左 基礎編』エスコアール2020 ●(研究代表)『聴覚障がい児・盲ろう児の発達支援テキスト』DVD付 厚生労働科学研究費補助事業報告書2019年 ●(共著)『聴覚障害教育の歴史と展望』風間書房2012 ●(単著)『人工内耳とコミュニケーション』ミネルヴァ書房2008

教授/博士(保健医療学)

相馬 有里

Soma Yuri

研究分野 脳血管障害による言語聴覚障害(主に臨床に関する分野)

研究項目 脳血管障害による失語症、高次脳機能障害などの言語聴覚障害の評価、訓練、指導といった臨床に関する研究

最終学歴 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 保健医療学 博士課程専攻修了

資格 言語聴覚士、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士、公認心理師

主な業績

●いまを生きたる言語聴覚士と当事者の記録 東京都言語聴覚士会編 共著 2013 ●気になるコミュニケーション障害の診かた 医歯薬出版 共著 2015 ●急性期における言語聴覚リハビリテーションに関する研究調査 言語聴覚研究 1巻1号:46-53 共著 2004.11 ●脳病変による談話障害へのアプローチ 失語症 患者の会話に対する語用論的アプローチ-役割交替からの分析 言語聴覚研究 6巻1号:14-21 2009

教授/博士(医学)

永井 知代子

Nagai Chiyoko

研究分野 認知神経心理学

研究項目 神経変性疾患による高次脳機能障害、認知機能の生涯発達と障害

最終学歴 東京大学大学院 医学系研究所 脳神経医学専攻 博士課程修了

資格 医師、神経内科専門医・指導医、内科認定医

主な業績

●ビジュアル臨床神経学 医歯薬出版 単著 2021 ●対象認知・空間認知・病態理解の障害 新興医学出版 共著 2021 ●現代心理学辞典 有斐閣 共著 2021 ●失語症学第3版(標準言語聴覚障害学) 共著 2021 ●神経心理学への誘い 高次脳機能障害の評価 共著 2020 ●高次脳機能障害ビジュアル事典 共著 2020 ●高次脳機能障害用語事典(ばーそん書房 共著 2019 ●言語聴覚士テキスト第3版 医歯薬出版 編著 2018 ●発話障害へのアプローチ インテルナ出版 共著 2015 ●言語脳アトラス インテルナ出版 単著 2015 ●Crosslink 言語聴覚療法学テキスト 発声発語・摂食嚥下の解剖・生理学 メジカルビュー社 共著 2022 ●オンライン・アクティブラーニング 医歯薬出版 共訳 2023

教授/博士(老年学)

植田 惠

Ueda Megumi

研究分野 神経心理学、老年学、老年心理学

研究項目 MCIおよび認知症の評価とリハビリテーション、原発性進行性失語、高齢者の認知機能

最終学歴 桜美林大学 老年学研究所 博士後期課程修了

資格 言語聴覚士、公認心理師

主な業績

【著書】●言語聴覚障害学概論 医歯薬出版 編著 2023 ●標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学第3版 医学書院 共著 2021 ●標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法学 評価・診断学 医学書院 編著 2020 【論文】●ごく軽度アルツハイマー病およびMCIにおける手段的日常生活活動の低下の特徴;もの忘れ外来問診表への回答の分析-老年社会科学 29, 2008 ●原発性進行性失語の評価 高次脳機能障害研究 330-338, 33, 2013 ●認知症に対する言語聴覚士のかかわりに関するアンケート(第1報) 評価と介入の現状 言語聴覚研究 162-170, 17, 2020

准教授/専門職修士(福祉マネジメント)

山本 徹

Yamamoto Tetsu

研究分野 地域言語聴覚療法、多職種連携

研究項目 地域包括ケアシステムにおける多職種連携の実践、在宅支援における専門職チームの形成過程とその効果的な手法の開発

最終学歴 日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究所

資格 言語聴覚士、社会福祉士、精神保健福祉士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

主な業績

●クリア言語聴覚療法11 地域言語聴覚療法 建帛社 共著 2025 ●言語聴覚士がいるまちづくり 言語聴覚研究21(1)11-21, 2024 ●失語症がある人の地域支援 知っておきたい失語症のリハビリテーション診療マニュアル 全日本病院出版会 共著 2024 ●クリア言語聴覚療法9 摂食嚥下障害 建帛社 共著 2024 ●在宅における摂食嚥下リハビリテーション在宅におけるリハビリテーション診療マニュアル 全日本病院出版会 共著 2024 ●実践力を高める成人言語聴覚療法ハンドブック 建帛社 共著 2021 ●言語聴覚士リスク管理ハンドブック ヒューマン・プレス 編著 2017

准教授/博士(医学)

佐藤 亜紀子

Sato Akiko

研究分野 発声発語障害学、コミュニケーション障害学

研究項目 音声の聴覚判定や機器を用いた鼻咽腔閉鎖機能の評価に関する研究

最終学歴 東京女子大学 文理学部 心理学科

資格 言語聴覚士、認定言語聴覚士(吃音・小児構音障害領域)、公認心理師、日本口蓋裂学会認定師

主な業績

●わが国における小児構音障害に対する言語聴覚療法のエビデンス-システムティックレビューによる検討- 共著 言語聴覚研究22(5) 123-137, 2025 ●クリア言語聴覚療法5 小児発声発語障害 建帛社 編著 2024 ●構音障害の治療病態に応じた対応-機能性構音障害(特集 手術をしない音声・構音・言語の治療) JOHNS39(5) 521-523, 2023 ●標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第3版 医学書院 共著 2021 ●わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価と指導 学苑社 編著 2020 ●こどもの口唇裂・口蓋裂の治療とケア メディカ出版 共著 2014 ●口蓋裂言語検査による鼻咽腔閉鎖機能評価-内視鏡検査、側方頭部X線規格写真との関連- 単著 日本口蓋裂学会雑誌40(1) 30-37, 2015 ●口唇裂・口蓋裂児の親の関心に関する調査 共著 日本口蓋裂学会雑誌 36(3)174-182, 2011

研究指導教員紹介

准教授／博士（リハビリテーション科学）

野原 信

Nohara Akira

研究分野 聴覚障害学、コミュニケーション障害学

研究項目 難聴児の言語発達に関する研究

最終学歴 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 生涯発達科学専攻

資格 言語聴覚士、認定言語聴覚士（聴覚障害領域）、
公認心理師、臨床発達心理士

主な業績

【著書】●III語発達の個別ニーズと指導Dコミュニケーションの発達E-3 廣田米子編著『特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援』共著 学苑社 2021
●聴覚障がい児・盲ろう児の発達支援テキスト 0歳からの発達支援 基礎編 第1章 聴覚障害の評価・診断の基礎 共著 エスコアール 2020 【論文】●就学前後期における軽中等度難聴児の言語発達と他者感情の推測能力の検討共著 Audiology Japan 2022 ●聴覚障害児における会話時の感情認知・感情説明の発達と、関連要因の検討共著Audiology Japan2021 ●聴覚障害児における会話時の意図理解に関する検討：社会的知識の使用 共著 Audiology Japan 2019

講師／博士（リハビリテーション科学）

廣瀬 綾奈

Hirose Ayana

研究分野 コミュニケーション障害学

研究項目 小児失語・小児高次脳機能障害のリハビリテーション、
医療と教育の連携

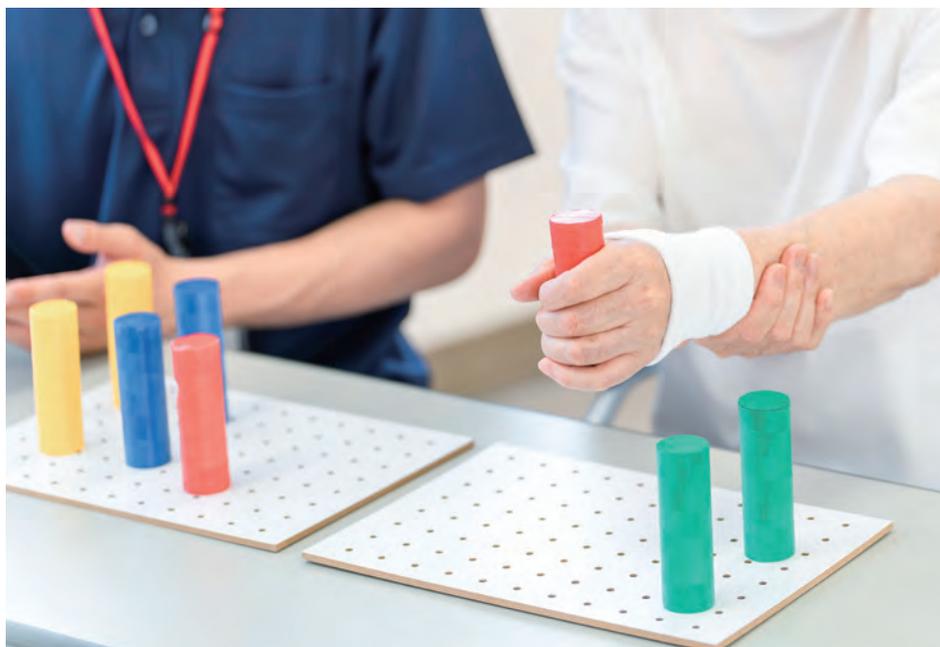
最終学歴 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 生涯発達科学専攻

資格 言語聴覚士、認定言語聴覚士（言語発達障害領域、
小児構音・吃音領域）

主な業績

●CrossLink言語聴覚療法テキスト言語学・言語発達学，メジカルビュー社，共著，2022. ●私たち働いています。事例から見る小児期発症高次脳機能障害の発症から就労まで，エスコアール，共著，2022. ●わかってくれるかな 子どもの高次脳機能障害発達からみた支援，クリエイツかもがわ，共著，2014. ●失語のある子どもたちの健康関連QOL：自験4例のPedsQLによる検討，リハビリテーション科学，18（2）152-157，2017. ●小児期の高次脳機能障害リハビリテーション 親への理解促進と指導，Journal of Clinical Rehabilitation，24（9）877-874，2015.

健康科学研究科 作業療法学専攻 (修士課程)



作業療法学領域の 指導者、研究者として、 生涯研鑽し続ける人材を養成します

病気や障がいのある人々の自立(律)的な生活を支援するための作業療法は、いわゆる実践科学として、人の誕生から死に至るまでを守備範囲としています。作業療法士が働く領域は、身体障害をはじめ、精神障害、老年期、発達障害そして在宅地域と多岐にわたりますが、研究分野も今日では、それらの領域における作業療法学固有の視点に加え、医学、教育、職業、社会、およびリハビリテーション工学等と連携しながら、学際的な広がりの中で実施されています。

本専攻では、急性期から地域で在宅生活を送る障がいのある人々や障害及び介護予備軍を対象に、彼らの作業(occupation)の獲得や遂行を支援するための理論や手法に関する基礎研究をはじめ、病気や障害の有無にかかわらず、すべての生活者の「健康の維持増進」や「障害予防」および「介護予防」に寄与、貢献する応用研究を通して、最新の作業療法学の構築に向けた研究を行います。

具体的な基礎研究としては、手指機能と日常生活動作の分析や心身諸機能と作業活動の解析について、また応用研究では、例えば、高齢者の心身の健康と生活の質(Quality of Life)の維持に必要な環境調整、地域コミュニティの仕組みづくり、余暇社会活動への参加・貢献に関する研究になります。さらに本専攻のカリキュラムポリシーでもある教育者の養成として、作業療法教育とその教育方法に関する研究も奨励いたします。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	作業療法学専攻	2年以上4年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	修士(健康科学)

新しく総合的な作業療法学を 探究していきます

Message

リハビリテーションを推進する国際モデルであるICF（国際生活機能分類）は、病気や障がいのある人々の心身機能や活動、および社会参加を促進する要因として、健康状態はもとより環境因子や個人因子のすべてが双方向に影響し合っています。作業療法士は、そのいずれの場面でも、対象者の自立（律）的で満足のいく生活を遂行できるよう支援する専門職として、病気や障害により生じた様々な喪失の回復や、障害予防および介護予防に貢献することを目的とした基礎的および応用的研究を行います。

本専攻は、交通至便な池袋キャンパスに開設されていることから、キャリアを中断することなく学修を深化させ、実践的研究能力を修得することが可能です。チャレンジ精神のある研究意欲あふれる方々の入学を歓迎いたします。



作業療法学専攻長
根本 悟子
Nemoto Satoko

特色

実験研究から作業療法介入の手法まで 総合的な力を養成します

障がい者や高齢者の作業遂行能力について、主に身体機能面に関する生体力学的手法による分析を基に、機能回復の方法や生活支援機器、および住環境整備による作業療法介入の手法について研究指導を行います。また、上肢機能障害については、運動学的視点を加味した実験研究も行います。

幼児期から老年期にわたる生活障害の 課題解決能力を養成します

幼児期から老年期までを対象に、人々の生活障害を明らかにし、作業療法士の視点による分析と環境調整による生活の再構築、地域生活支援のあり方に関する研究を行います。研究に際しては、学内にとどまらず、臨地・臨床の場でデータを集めることやフィールドワークを推進していきたいと思っております。

健康科学研究科 作業療法学専攻（修士課程）では、「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細はP.12をご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 作業療法学専攻（修士課程）

健康科学研究科 作業療法学専攻（修士課程）では、作業療法分野における高度専門職業人、教育・指導者、研究者を養成するという教育目的に基づき、以下の入学者を求めます。

- ① 作業療法領域における教育と研究に対する意欲と情熱を有している。
- ② 研究に必要な基礎的能力を有している。学部において卒業研究を行っていることが望ましい。
- ③ 主体的に研究を進める意欲と同時に、他者との協調性および指導を受け入れる姿勢や態度を有している。
- ④ 研究を行う過程で困難に遭遇してもめげない強い意志を有している。

研究指導内容/修士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
障がい者等の動作・活動時の主として身体機能の分析と介入分析に基づく生活支援機器、などを用いた環境調整による作業療法	障がい者・高齢者の作業遂行能力障害とその予防について、主として身体機能面の運動学・生体力学的手法による分析と機能改善、障害に応じた生活支援機器や住環境などの生活環境調整による作業療法について研究指導を行います。	教授 根本 悟子
障がい者等の感覚と外部環境、認知機能に対する他覚的調査・分析・介入について	ADLやIADLの維持・向上に関係する外部環境や五感の状態、障害のプロフィールを踏まえた作業療法プログラムの設計や生活上の注意・支援を分析し、ICFやQOLを意識しながら介入できるよう指導を行います。特に、神経変性疾患領域では、記憶、感情、情動と深く関係する嗅覚障害や、パーソン・センタード・ケア的な視点、五感のバランスの状態と意義などから考えられるよう指導します。	教授 関 一彦
発達障害児および保護者への生活支援に関わる作業療法	障害があっても人は発達していくという前提のもとに、障害児の早期発見や二次障害の予防につながる評価やアプローチを踏まえながら、子どもやその保護者たちが自己効力感や自己肯定感、自尊心を育んでいけるような支援を作業療法の視点から指導します。	教授 坂本 美香
高齢者のWell-being、超高齢社会における地域リハビリテーションに関わる作業療法	障がいの有無にかかわらず高齢者を含むすべての地域に暮らす人に関わるリハビリテーション、心身の健康とQOLに必要な介入や環境調整、家族支援、日常生活・生活関連活動の維持、余暇社会活動への参加・地域貢献や自己実現の機会の提供、さらに地域コミュニティの仕組みづくり等に関わる作業療法の現状分析と支援法について研究指導を行います。	教授 菊池 和美
障がい者の運動および身体機能と複合的疾患関連の評価	障がい者・高齢者の直面する様々な生活活動局面に必要なとされる身体機能・運動機能評価について、複合的な合併疾患の関連を考慮しつつ、より良い治療計画を可能とする基本的評価法の提案を目指します。	教授 江面 陽一
認知症高齢者とその家族に対する作業療法、作業療法士のキャリア教育	認知症高齢者(特に重度認知症)とその家族に対する心理的援助、作業療法の介入方法について研究指導を行います。また、作業療法士養成課程ならびに卒後における、臨床教育の現状分析と教育方法について研究指導を行います。	准教授 伊藤 剛
認知行動療法の作業療法への応用、回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の役割、多職種連携	認知行動療法を作業療法へ応用した支援方法ならびに認知作業療法を用いた支援方法について研究指導を行います。また、回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の役割、多職種連携について研究指導を行います。	准教授 下岡 隆之

健康科学研究科 作業療法学専攻(修士課程) 授業科目一覧

※「共通科目」は、全専攻で科目は共通ですが、それぞれの研究テーマに沿って指導教員のもとで 研究を進めていく科目のため、具体的な内容は各人で異なります。

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目
共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学研究法特論Ⅰ ●健康科学研究法特論Ⅱ ●医療統計学特論 ●医療教育学特論 ●保健医療管理学特論 ●健康医科学特論 ●医科学英語特論

科目区分	授業科目
専門領域科目	<ul style="list-style-type: none"> ●身体障害作業療法学特論 ●身体障害作業療法学演習 ●作業活動分析学特論 ●作業活動分析学演習 ●生活障害作業療法学特論 ●生活障害作業療法学演習 ●リハビリテーション専門職教育学特論
研究科目	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学特別研究

教員一覧

教授	講師
根本 悟子	池田 浩二
関 一彦	原口 晋一
坂本 美香	栗原 良子
江面 陽一	宇佐美 好洋
菊池 和美	中本 久之
樋口 正勝	助教
准教授	西尾 香織
伊藤 剛	
盛田 路子	
下岡 隆之	

研究指導教員紹介

専攻長/教授/博士(作業療法学)

根本 悟子

Nemoto Satoko

- 研究分野** 人間工芸学、リハビリテーション科学、作業療法学、生活支援工学
- 研究項目** 作業療法における作環境整備、上肢機能評価に関する基礎的研究、生活支援工学
- 最終学歴** 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 理学療法・作業療法専攻 博士課程修了
- 資格** 作業療法士

主な業績

【著書】●標準作業療法学地域作業療法第4版医学書院2023:22-27,55-59,81-89,109-122 編著 ●改訂6版 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト 東京商工会議所編 2022:127-131,173-180 共著 ●動画で学ぶ関節可動域測定法 ROM ナビ 増補改訂第3版 ラウンドフラット 2020 共著 ●改訂第2版 OT臨床実習ルートマップ メジカルビュー社 2019:5-9 共著 ●作業療法学全書 改訂第3版 基礎作業療法学 協同医学出版社2009: 138-144,186-188共著

教授/博士(作業療法学)

関 一彦

Seki Kazuhiko

- 研究分野** 神経変性疾患(アルツハイマー病やパーキンソン病など)の嗅覚障害と作業療法
- 研究項目** 障がい者等の感覚(五感)と外部環境、認知機能に対する他覚的調査・分析・介入
- 最終学歴** 九州保健福祉大学大学院 保健科学部 保健科学研究科 博士後期課程満期退学 首都大学東京(現:東京都市大学) 大学院 人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 作業療法科学域(研究生) 博士学位取得
- 資格** 作業療法士、博士(作業療法学)

主な業績

●一般社団法人日本作業療法士協会表彰/2013.6 ●(筆頭)アルツハイマー病の嗅覚障害-標準的病理ステージであるBraak仮説などの文献研究から-/帝京平成大学紀要第33巻/単著/2022.03 ●(筆頭)アルツハイマー型認知症の嗅覚障害-同定困難な三種の嗅素、脳活性化が顕著な四種の嗅素の臨床応用への期待-/機能性香料医学会誌第1巻/共著/2021.12 ●(筆頭)アルツハイマー病における嗅覚障害-アルツハイマー病における嗅覚障害の病態と診断における意義について-/Clinical Neuroscience34(12)/共著/2016.12

教授/博士(保健科学)

坂本 美香

Sakamoto Mika

- 研究分野** 発達障害作業療法学、地域作業療法学
- 研究項目** 発達障害児の眼球運動に関する研究、特別支援教育、地域における生活支援
- 最終学歴** 首都大学東京大学院(現東京都市大学) 保健科学研究科 作業療法学専攻 博士後期課程修了
- 資格** 作業療法士、公認心理師

主な業績

●2007年度日本リハビリテーション医学最優秀論文賞次点●療育における作業療法での眼球運動への取り組みの報告 帝京平成大学紀要.2021.●ペアレントトレーニングの地域療育現場における実践への発展に向けて-文献レビューからの提案- 作業療法.2016.●小児科医によるペアレントトレーニングへの参加報告-作業療法士による実践を目指してのpilot study- 作業療法.2015.●「発達障害児療育モデル事業」への取り組みについて-JSI-Rより効果分析 作業療法. 2014.

教授/博士(医学)

江面 陽一

Ezura Yoichi

- 研究分野** 骨代謝学、骨疾患学、骨生理学、基礎整形外科学
- 研究項目** 先天性骨系統疾患と骨格系難病の病態解明および予防治療法の開発
- 最終学歴** 東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科 外科学専攻 医学博士課程修了
- 資格** 医師

主な業績

●Profilin 1 Negatively Regulates Osteoclast Migration in Postnatal Skeletal Growth, Remodeling, and Homeostasis in Mice. /JBMR Plus.2019 Jan 17;3(6):e10130./共著/2019.01 ●The long noncoding RNA Crnd regulates osteoblast proliferation through the Wnt/ β -catenin signaling pathway in mice. /Bone. 2020 Jan;130:115076./共著/2020.01 ●A novel PAI-1inhibitor prevents ageing- related muscle fiber atrophy/Biochem Biophys Res Commun. 2021 Jan 1;534:849-856./共著/2021.01

教授/博士(老年学)

菊池 和美

Kikuchi Kazumi

- 研究分野** 老年期作業療法学、地域リハビリテーション学、人間環境学、ヒトと動物の関係学
- 研究項目** ペット飼育の作業分析と予防的支援の検討、高齢者の余暇活動を通した健康増進策の検討
- 最終学歴** 桜美林大学大学院 国際学研究科 老年学専攻
- 資格** 作業療法士

主な業績

【著書】●SAGE質的研究キット、質的研究のためのフォーカスグループ、新福祉社、2024 共著 ●作業療法ゴールドマスターテキスト2作業学、メジカルビュー社、2021共著 【論文】●Associations of social networking service use with subjective health, depression, and social isolation in community-dwelling older adults, J of human environmental studies21(1)47-52,2023共著 ●Should the Elderly Own Dogs, What We Know and Don't Know from a 15-year Review of Dog Ownership, ICP,2024 ●「犬の飼育」の何が大変で何が不安なのか飼育者への支援の課題、ヒトと動物の関係学会誌70(1),60,2025 ●高齢社会における身近な地域のペット飼育とは、飼い主および非飼い主の視点から、老年社会科学47(2)218,2025

准教授/修士(医科学)

伊藤 剛

Ito Takeshi

- 研究分野** 作業療法学、教育心理学
- 研究項目** (1) 認知症高齢者の作業療法
(2) 作業療法士養成教育における学生の動機付け
- 最終学歴** 北里大学大学院 医療系研究科 感覚・統御医学群言語聴覚情報科学専攻 修士課程修了
- 資格** 作業療法士

主な業績

●標準作業療法学専門分野 作業療法臨床実習とケーススタディー第2版 医学書院 共著 2011年3月 ●Effect of Care Manager Support on Health-Related Quality of Life Caregivers of Impaired Elderly, One-Year Longitudinal Study. Industrial Health 45:402-408, 共著, 2007. ●内部障害に対する訪問作業療法の実施状況. 日本保健科学学会誌25(4): 228-239,共著,2023

研究指導教員紹介

准教授／修士（健康科学）

下岡 隆之

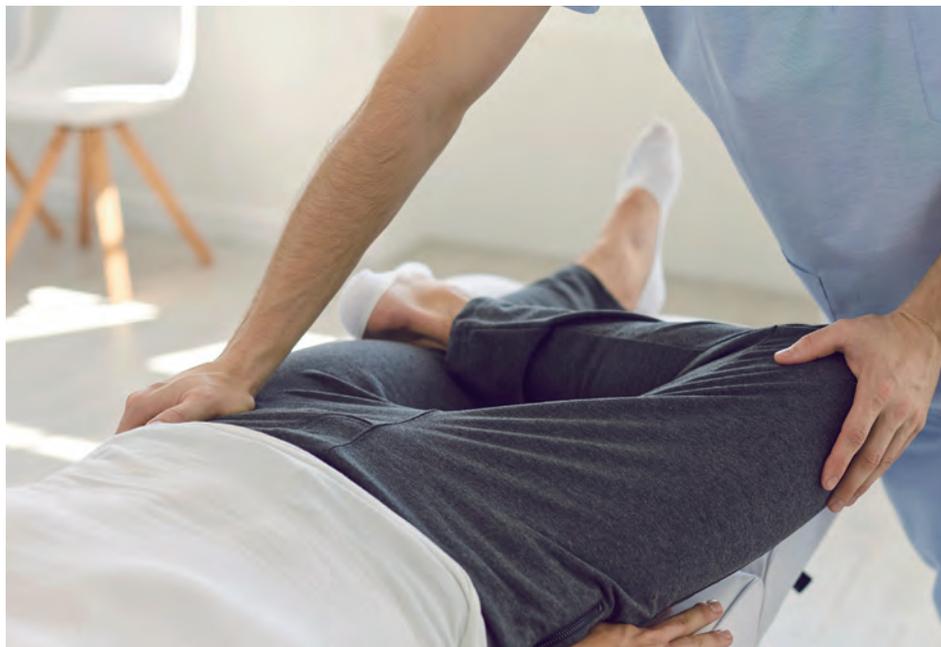
Shimooka Takayuki

- 研究分野** 作業療法学（身体領域）、多職種連携
- 研究項目** 身体領域作業療法士の役割、多職種連携、
身体領域作業療法士の心理的アプローチの技法
- 最終学歴** 首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 人間健康科学専攻
作業療法科学系 博士前期課程修了
- 資格** 作業療法士

主な業績

●第9回日本リハビリテーション連携科学学会研究奨励賞(平成20年3月) ●(筆頭)回復期リハビリテーション病棟における作業療法目標とプログラム立案に関する研究/作業行動研究 第22巻 第1号/共著/2018.06 ●臨床実習施設訪問における教員の役割—実習施設訪問記録の分析から—/帝京平成大学紀要 第28巻/共著/2017.03 ●脳損傷例に対する認知行動療法/理学療法ジャーナル/共著/2014.12 ●作業療法カウンセリング三輪書店2020:187-199、234-238 ●臨地実習ルートマップ改訂第2版.メジカルビュー 2019:41-46

健康科学研究科 理学療法学専攻 (修士課程)



高度専門職業人として、 医療現場、教育現場で活躍できる 人材を養成します

現在の日本は、医学の進歩により平均寿命が延び超高齢社会になっていますが、一方で、生活習慣病などの慢性疾患の増加や少子化問題、地域医療の格差が問題になっています。これらの問題を解決するためには、医療・保健・福祉の連携が重要であり、「生活の質 (Quality of Life)」に視点を置いた医療、医療技術の発展や予防医学、介護予防「健康日本 21」による健康増進などが推進されています。

本専攻の目的は、これらの状況を踏まえて、理学療法分野における研究能力や医療技術者に必要な知識・技術を養うことにあります。リハビリテーション分野の高度な理論・技術を修得するとともに課題を探究し解決する能力を身につけ、指導的な医療技術者や理学療法学における研究者・教育者を養成します。本専攻の研究テーマは、基礎研究として「介護予防を含めたSuccessful Agingに関する研究」と「運動機能に関する研究」、応用研究としては「スポーツバイオメカニクスに関する研究」などがあります。さらに、理学療法教育に関する研究も推奨します。

本専攻では、自ら課題を決め、課題を探究し解決する能力を身につけ、指導的な医療技術者になるための協調性及びリーダーシップを備えた人材を求めます。将来、高度専門職業人として、医療現場、教育現場で活躍できる熱意のある医療技術者を求め、養成します。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	理学療法学専攻	2年以上4年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	修士 (健康科学)

「高度な専門性」と
「横断的な広い視野」を持った
独創性豊かな研究者を養成します

最新の医療に即応する

Message

本専攻では、臨床場面での疑問を科学的に解明するために必要な基礎知識と技法を身につけ、論理的な展開が図れる高度な保健・医療の実践者、研究者、教育者を養成することを目的とします。研究論文指導を担当する教員は、十分な現場での臨床経験を経て、教育経験や研究業績を有しています。池袋キャンパスは、交通のアクセスが良い点とフレックスな時間割を設定しているので、在職したまま大学院の課程が学べます。首都圏で勤務している理学療法士及び理学療法領域に関心のある方々の入学を期待しています。



理学療法学専攻長
加藤 勝行
Kato Katsuyuki

特色

最新の身体計測機器による 研究が可能です

3次元動作解析装置 (VICON)、脳機能計測装置 (fNIRS)、骨密度計、重心動揺計、足底圧分布測定装置、超音波、筋電図などの測定機器を使用した研究、臨床研究、新しい治療技術の開発の基礎研究が可能です。

基礎領域から応用領域まで自らの興味、 関心に合う研究が可能です

理学療法学の基礎である「障害の評価・分析」に関する研究領域から「スポーツ理学療法」「高齢者の理学療法」「高次脳機能障害」などの応用理学療法領域までカバーしており、自らの興味、関心領域から研究テーマを選択できます。2年間で選択したテーマに関して計測・調査・実験を行い、院内発表や学会発表を通じて修士論文を完成させていきます。

健康科学研究科 理学療法学専攻（修士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細はP.12をご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 理学療法学専攻（修士課程）

健康科学研究科 理学療法学専攻（修士課程）は、理学療法学領域またはスポーツ医科学領域における専門技術を高めるとともに、様々な分野との連携を通して、学術的な発展を目指す高度専門職業人、教育・指導者、研究者を養成するため、以下の入学者を求めます。

- ① 明確な研究意識を持ち、意欲的に情報収集して問題解決にあたることができる。
- ② リハビリテーション医療チームまたはスポーツ医科学領域の高度専門職業人、教育・指導者、研究者の一員として、協調性を有している。
- ③ コミュニケーション能力と、国際的な視点に立って、社会に貢献する意欲を有している。

研究指導内容/修士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
傷害予防の理学療法およびその実態調査	中高齢者の健康増進、転倒予防での調査、そして健常者スポーツでは、愛好家・競技選手(ユース～代表レベル)への実態調査並びに傷害予防への運動動作の研究を行います。	教授 加藤 勝行
地域リハビリテーション運動学習	「地域リハビリテーション」では、超高齢社会、小児療育等の領域における地域リハビリテーションのシステムと公共政策についてのテーマを取り上げます。「運動学習」では、脳可塑性を背景とする運動学習についての課題を捉えます。	教授 阪井 康友
リハビリテーション工学および生活環境支援に関する評価・分析	1. リハビリテーションの工学的な評価・分析を行います。 2. バリアフリー・ユニバーサルデザインの評価・分析、ハウスアダプテーションの評価・分析、共生を目指したまちづくりに関する研究などを通じて、生活環境支援のあり方を探究します。	教授 徳田 良英
アスレティックトレーニング	スポーツ現場をテーマとし、傷害予防、救急対応、アスレティックリハビリテーションなどについて科学的根拠に基づいた調査・研究を行います。	教授 砂川 憲彦
運動器系の理学療法	運動や様々な疾患で生じる心身の変化を、理学療法やその周辺領域の分野を活用することにより多角的に分析し、問題提起することや課題に対する解決プログラムを検討することを目的とします。	教授 窪川 徹
運動機能障害診断、理学療法予後予測	臨床データから運動機能の疾病特異型基準値などの検査特性値を抽出し、運動機能障害の有無や程度を同定するための基礎データづくりを行います。また理学療法の適用や予後を予測するための臨床予測式を構築します。	教授 玉利 光太郎
健康増進、運動生理学、内部疾患のリハビリテーション	EBM(科学的根拠に基づく医療)が提唱されて大分経つが、運動をしない人はしないという現状は変わっていない。人々を健康行為へ導くアプローチを運動生理学や行動科学など多視点で検討します。	准教授 景山 剛
医療者教育学・理学療法教育	理学療法士の卒前教育・臨床実習教育・卒後教育に関する調査・分析の研究を行います。研究の手法としては、インタビューによる質的研究および評価尺度・調査票を用いた研究を行います。	准教授 芳野 純
地域在住高齢者の健康就業継続の分析	地域在住高齢者の健康に寄与する因子について、2次データや、調査データを用いて分析を行います。	准教授 知脇 希
神経系の理学療法	脳卒中の理学療法、先端機器(ロボット、VRなど)を使用したリハビリテーション、機能的近赤外分光法を使用した脳機能計測など、神経系の理学療法全般の研究を行います。	准教授 飯田 修平

健康科学研究科 理学療法学専攻（修士課程）授業科目一覧

※「共通科目」は、全専攻で科目は共通ですが、それぞれの研究テーマに沿って指導教員のもとで 研究を進めていく科目のため、具体的な内容は各人で異なります。

※授業科目等に変更になる場合があります。

科目区分	授業科目	科目区分	授業科目
共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学研究法特論Ⅰ ●健康科学研究法特論Ⅱ ●医療統計学特論 ●医療教育学特論 ●保健医療管理学特論 ●健康医科学特論 ●医科学英語特論 	専門領域科目	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎理学療法学特論 ●臨床理学療法学特論 ●生活支援学特論 ●理学療法研究方法特論Ⅰ ●理学療法研究方法特論Ⅱ ●リハビリテーション専門職教育学特論 ●アスレティックリハビリテーション特論 ●スポーツと理学療法
		研究科目	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学特別研究
		自由科目	<ul style="list-style-type: none"> ●認定理学療法士カリキュラムⅠ（スポーツ） ●認定理学療法士カリキュラムⅡ（スポーツ） ●認定理学療法士カリキュラムⅠ（呼吸） ●認定理学療法士カリキュラムⅡ（呼吸）

教員一覧

教授

加藤 勝行
 阪井 康友
 徳田 良英
 砂川 憲彦
 窪川 徹
 玉利 光太郎
 五日市 克利

准教授

景山 剛
 森川 亘
 芳野 純
 知脇 希
 飯田 修平
 田中 直樹
 原田 長
 大垣 亮

講師

土屋 篤生
 吉本 真純
 宮本 浩樹
 泉 美帆子
 平山 哲郎
 吉岡 学
 佐藤 正司
 宮崎 学
 川北 大
 森山 義尚

研究指導教員紹介

専攻長/教授/博士(保健医療学)

加藤 勝行

Kato Katsuyuki

研究分野 総合領域 - 人間工学、健康・スポーツ科学**研究項目** リハビリテーション科学、地域理学療法、スポーツリハビリテーション学、健康科学**最終学歴** 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 理学療法学分野保健医療学運動・動作学専攻 博士課程修了**資格** 理学療法士・鍼灸指圧按摩マッサージ師

主な業績

●臨床実習サブノート;文光堂 2009 ●実用新案申請「リハビリ用セルフケアベルト」(株)セルフケアインク ●On the necessity of practical athlete education as seen from learning effect. (査読付き) ●The need for strengthening motor learning in athlete climbers 2017 (査読付き) ●慢性疼痛に対する理学療法の有効性: Pain VisionとVASによる痛みの評価 共著 2019 (査読付き) ●Effects of peripheral vision training on postural control and attention function 共著 2024 (査読付き) ●「スポーツクライミングによるスポーツ外傷(傷害)・障害の実態と現状」の調査結果からの考察;消費者委員会デジタル技術専門調査会;内閣府 消費者調査委員会本会議 2025

教授/博士(工学)

阪井 康友

Sakai Yasutomo

研究分野 運動学習・サルコペニア・地域理学療法・理学療法教育・専門職連携教育/IPE**研究項目** 介護予防とサルコペニア、ピア・エデュケーション、専門職連携とピア・レビュー**最終学歴** 日本大学大学院 理工学研究科 医療・福祉工学専攻 博士後期課程修了**資格** 理学療法士

主な業績

●Acute Exercise Causes Mitochondrial DNA Deletion in Rat Skeletal Muscle/Muscle&Nerve 22共著/1999 ●サルコペニア(加齢性筋肉減弱症)と筋力強化/理学療法ジャーナル43(7)共著/2009 ●筋機能改善の理学療法とそのメカニズム—理学療法の科学的基礎を求めて第3版共著/ナッパ/2014 ●理学療法領域における臨床技能の評価と学習支援の試み/理学療法ジャーナル 46(4), 2012 ●外傷性脳損傷による高次脳機能障害を呈した事例;多職種を交えたりハビリ事例検討会/作業療法ジャーナル50(12) 共著, 2016

教授/博士(工学)

徳田 良英

Tokuda Yoshihide

研究分野 理学療法学・リハビリテーション工学・建築計画学**研究項目** バリアフリー、高齢者・障害者の生活環境に関する研究、姿勢と動作に関する研究**最終学歴** 東京都立大学大学院 工学研究科 建築学専攻 博士課程**資格** 理学療法士・介護支援専門員

主な業績

●リハビリテーション医療を学ぶ学生の教養書リハビリテーションと工学, 編著, DTP出版 ●生活環境論入門 第3版, 編著, DTP出版 ●基礎から確認 PT臨床実習チェックリスト 共著, メディカルビュー ●シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト, 共著, 南江堂 ●Motion Analysis of Impact Absorption during Jumping: A Comparative Study of Verbal Instructions in Health Young Adults. 単著, Journal of Teikyo Hesei University Vol. 35, 2024 (査読付き) ●車いすの下り勾配における身体負担に関する実験研究. 単著, 福祉のまちづくり研究, 11(1), 2009 (査読付き)

教授/博士(スポーツ科学)

砂川 憲彦

Sunagawa Norihiko

研究分野 アスレティックトレーニング**研究項目** スポーツ外傷・障害予防、スポーツ現場における救急対応、スポーツ外傷・障害調査**最終学歴** 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科 博士後期課程 単位取得退学**資格** 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー

主な業績

●スポーツ現場の傷害調査-ケガの予防につなげるための取り組み- /ブックハウスエイチ・ディ/単著 ●Sports Injuries and Prevention / Springer Link / 共著 ●本邦における学校現場のスポーツ活動を対象とした外傷・障害調査研究の現状と課題 / 日本アスレティックトレーニング学会誌 第5巻 第2号83-91 2020 / 共著 ●スポーツ外傷・障害および疾病調査に関する提言書: 日本臨床スポーツ医学会・日本アスレティックトレーニング学会共同声明 / 日本アスレティックトレーニング学会誌 第7巻 2号155-171 2022 / 共著

教授/博士(障害科学)

窪川 徹

Kubokawa Toru

研究分野 運動器系、心肺系の理学療法**研究項目** (1) 運動器系 (2) 心肺系**最終学歴** 東北大学大学院 医学系研究科 障害科学専攻 博士後期課程修了**資格** 理学療法士、呼吸療法認定士

主な業績

●リハビリテーション機能評価に関する研究日本医療機能評価機構p.14-33, p.74-109 共著 1995.04 ●ケアプラン立案状況と患者・家族の満足度からみた退院計画の有効性 日本在宅ケア学会誌 第5巻 第3号 p.75-81 共著 2002.12 ●「リハビリテーション医療事典」朝倉書店 共著 2007.04 ●「運動器系疾患理学療法」アイベック 共著 2006.07 ●Blood pressure change and its mechanism caused by abdominal massage like stroking of anesthetized rats. The 13th International Congress of the World Confederation for Physical Therapy, Proceedings:p.310 共著 1999.04

教授/ Doctor of Philosophy

玉利 光太郎

Tamari Kotaro

研究分野 人間工学、健康・スポーツ科学、子ども学**研究項目** 変形性膝関節症、子どもの体力、理学療法診断、国際リハビリテーション**最終学歴** Curtin University Health Science 博士課程修了**資格** 理学療法士

主な業績

●Determination of reference intervals for knee motor functions specific to patients undergoing knee arthroplasty. PlosOne.2021(共) ●Cross-validation of a screening tool to distinguish between fallers and non-fallers in community-dwelling older adults with knee osteoarthritis. Arch. Phys. Med. Rehab. 2020(共) ●Validez de contenido y confiabilidad inter-observadores de Escala Integral Calidad de Vida. Revista de Psicología.2017(共) ●理学療法診断学構築の方法と意義. 理学療法学. 2013(共)

研究指導教員紹介

准教授/修士(スポーツ科学)

景山 剛

Kageyama Tsuyoshi

- 研究分野** 健康科学、運動生理学
- 研究項目** 健康増進、内部疾患のリハビリテーション
- 最終学歴** 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科 修士課程修了
- 資格** 理学療法士

主な業績

●主観的運動強度に合わせた呼吸筋トレーニングの効果/日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌29(2),311-316,2020/共著 ●足関節背屈可動域および骨盤可動性がしゃがみこみ動作に及ぼす影響について/日本臨床スポーツ医学会誌 24(2),213-219,2016/共著 ●Autogenous control of heart rate taking Deep Slow Breaths during exercise/International Journal of Applied Exercise Physiology, 7(2),56-63,2018/単著

准教授/博士(保健学)

芳野 純

Yoshino Jun

- 研究分野** 医療者教育学、理学療法学
- 研究項目** 理学療法士の卒前卒後教育、協働学習の効果、インタビュー調査による質的研究
- 最終学歴** 群馬大学大学院保健学研究科 保健学専攻 博士後期課程修了
- 資格** 理学療法士

主な業績

【受賞】●第48回日本理学療法学会大会、優秀賞
【著書】●ケースで学ぶ理学療法臨床思考、文光堂、共著、2019年
【論文】●The Reliability and Validity of the Clinical Competence Evaluation Scale in Physical Therapy, Journal of Physical Therapy Science, 共著、2013年 ●理学療法士の臨床能力の難易度と経年的変化に関する研究:一多施設調査による縦断研究-理学療法科学, 単著、2021年 ●理学療法教育領域で活かす質的研究の方法とその魅力、理学療法教育, 単著、2023年

准教授/博士(社会科学)

知脇 希

Chiwaki Nozomi

- 研究分野** リハビリテーション科学(理学療法学)、ジェンダー(経済・労働)
- 研究項目** 就業継続の分析、在宅生活継続に寄与する要因の分析、地域在住高齢者の健康
- 最終学歴** お茶の水女子大学大学院 人間文化創生科学研究科 ジェンダー学際研究専攻 博士後期課程修了
- 資格** 理学療法士、介護支援専門員

主な業績

【著書】●PT・OTビジュアルテキスト国際リハビリテーション学共著【論文】●介護職の仕事の満足度と離職意向-介護福祉士資格とサービス類型に注目して-/国立社会保障・人口問題研究所、季刊社会保障研究45(4)p444-457/単著/2010.03 ●独居多系統萎縮症男性の在宅生活継続の要因-病状の進行に伴う生活環境の対応/医学書院、訪問看護と介護 16(12)p1026-1031/共著/2011.12 ●未婚の子の就業と親介護/生活社会科学研究/単著/2016.11

准教授/博士(健康科学)

飯田 修平

Iida Shuhei

- 研究分野** 神経系理学療法学・リハビリテーション工学・脳神経科学
- 研究項目** ハイテクノロジー分野(ロボット、VRなど)のリハビリテーション、機能的近赤外分光法(fNIRS)による脳機能研究
- 最終学歴** 帝京平成大学大学院 健康科学研究科 理学療法学専攻 博士課程修了
- 資格** 理学療法士

主な業績

【著書】●リハビリテーション義肢装具学/メジカルビュー/2016.12.P374-379 ●基礎から確認!PT臨床実習チェックリスト(編集)/メジカルビュー社/2018.03【原著論文】●ロボット型膝装具のリハビリテーション介入効果の検討/日本義肢装具学会誌/2019.35(3)、被殻出血片麻痺患者の短下肢装具の有無による脳血流動態の比較/日本義肢装具学会誌/2015.31(2).P120-125

健康科学研究科 病院前救急医療学専攻 (修士課程)



病院前救急医療学の基礎を築き、 新たな時代を創る 指導的な人材を養成します

救急救命士制度の誕生から30年以上が経過した昨今、高齢化による重症傷病者の搬送件数が増加し、医学的処置を行いながら搬送する救急救命士が注目されています。これまで救急救命士の働く職場は消防機関に限定されておりましたが、2021年の救急救命士法の改正により、病院内でも救急救命処置が行えるようになりました。近年、救急救命士による処置範囲拡大の議論が進む中、医学的知識や技術を深めた救急救命士が救急搬送に関わるようになり、病院前救急医療に関心が集まっています。

病院で行われている医療とは大きく異なる病院前救急医療では、学問体系が未だ確立されていない現状にあります。このような状況にあって本専攻では、日本救急医学会の救急専門医として救急医療の最前線である救命救急センターなどで活躍してきた教授陣を中心に、病院前救急医療学の基礎を築き、新たな時代を創る指導的な人材の養成を目指しています。

具体的には、蘇生学、外傷学、災害医学、急性中毒学、救急医療システム学などについて専門の教員から指導を受けます。救急医療システム学については、日本の現状を知るばかりではなく、欧米のシステムの現状を学んで今後のわが国のシステム改善に向けた議論を深めることを目標としています。また、東日本大震災後に注目されている災害医学についても「救急救命士に何ができるのか」を問い直すことから検討しているところです。

ハードルはまだまだ高いものの、救急救命士の活躍の場は今後さらに拡大するものと期待されます。そのときにすぐ役に立つ人材を育てていくのが本専攻の責務と考えています。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	病院前救急医療学専攻	2年以上4年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	修士(健康科学)

国際的な視野を持ち、
後輩救急救命士を教育・
指導できる人材を養成します

Message

本専攻は、指導的な救急救命士を養成するために生まれた専攻です。救急救命士が誕生して30年以上が経過した今日、専門職として先輩救急救命士が自分たちの後輩を育てていく時代が来たと思われています。そのためには国際的な視野を持ち、科学的思考力を身につけて、高等教育機関で教育職に就く学識と能力を持った指導的な救急救命士が求められます。病院前救急医療に関わる幅広い領域に問題点を見つけ、科学的な思考で解決していく能力を身につけた人材を養成します。



病院前救急医療学専攻長

斧 康雄

Ono Yasuo

特色

充実した教授陣により 指導的救急救命士を養成します

本専攻では、救命救急センターで長年経験を積んだ日本救急医学会専門医等が教授陣として救急救命士の指導者となるべき人材の養成に努めています。病院前救急医療には医療の視点を持った指導的救急救命士の存在が求められています。そのため、関連する救命救急センターで研修を行うなど、医療の現場との接点を大切にするとともに、国際的視野を持った研究者として、また優れた指導者として自立できるよう指導しています。

多様な医療関連の学問を学び、多彩な医療職と コミュニケーションを取れる能力を身につけます

今、医療界ではチーム医療が大切なキーワードになっています。医療に関わる多くの職種の人たちがコミュニケーションを通じて関わり合い、医療の質の向上を目指しています。

健康科学研究科は、本専攻を含む9つもの医療に関する専攻があります。院生同士あるいは院生と教員の交流により、多様な医療関連の学問に接するとともに、他職種とのコミュニケーションを通して医療人としての幅広い人間性を育むことができます。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 病院前救急医療学専攻（修士課程）

健康科学研究科 病院前救急医療学専攻（修士課程）は、病院前救急医療学分野における高度専門職業人、教育・指導者、研究者を養成するという教育目的に基づき、以下の入学者を求める。

- ① 病院前救急医療学領域における研究と教育に対する意欲と情熱を有している。
- ② 自ら学ぶことができ、物事を論理的に考えることができる能力を有している。
- ③ 倫理的な問題に真摯に向き合い、その解決に向けて取り組む意欲を有している。
- ④ 社会的関心を持ち、国際的な視野に立ってものごとを捉え、考える力を有している。

研究指導内容／修士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
病院前救急医療システム学	病院前救急医療の発展の経緯、救急救命士制度の現状と問題点について研究指導を行います。	教授 藤田 尚
外傷・感染と生体侵襲	外傷・感染の疫学、外傷・感染の病態、外傷・感染に対する生体反応などについて研究指導を行います。	教授 斧 康雄 教授 藤田 尚
急性中毒学	病院前救急医療に必要な急性中毒について研究指導を行います。	教授 阪本 奈美子
レーザー医療応用	治療に用いるレーザー装置について、治療メカニズムと効果および安全性について研究指導を行います。	教授 大森 繁
解剖学	救急隊員に求められる解剖学的知見について研究指導を行います。	教授 濱田 剛
臨床法医学	病院前医療における法医学的事項について学び、調査研究の計画、立案、実行について指導します。	教授 阪本 奈美子
災害医学	災害時における病院前救急医療に関する研究指導を行います。	教授 矢島 務子 准教授 染谷 泰
免疫・アレルギー学	免疫・アレルギーの病態と対応について学び、研究指導を行います。	教授 斧 康雄 教授 永川 茂
細胞組織学	細胞内小器官、細胞骨格における機能分子局在について、研究指導を行います。	教授 萩原 治夫

健康科学研究科 病院前救急医療学専攻（修士課程）授業科目一覧

※「共通科目」は、全専攻で科目は共通ですが、それぞれの研究テーマに沿って指導教員のもとで研究を進めていく科目のため、具体的な内容は各人で異なります。

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目	科目区分	授業科目
共通科目	●健康科学研究法特論Ⅰ	専門領域科目	●病院前救急医療学特論
	●健康科学研究法特論Ⅱ		●蘇生学特論
	●医療統計学特論		●外傷学特論
	●医療教育学特論		●災害医学特論
	●保健医療管理学特論	研究科目	●健康科学特別研究
	●健康医科学特論		
●医科学英語特論			

教員一覧

教授

斧 康雄
永川 茂
萩原 治夫
大森 繁
矢島 務
深谷 博子
藤田 尚
濱田 剛
阪本 奈美子

准教授

染谷 泰子

講師
鶴本 一成
椎名 猛美

研究指導教員紹介

専攻長/教授/博士(医学)

斧 康雄

Ono Yasuo

- 研究分野** 感染症学、免疫学、臨床微生物学、感染制御学
- 研究項目** 好中球の感染防御機構の解析、薬剤耐性菌の病原性と耐性機構の解析、感染対策
- 最終学歴** 徳島大学 医学部 医学科 卒業
- 資格** 総合内科専門医、感染症専門医、消化器病専門医

主な業績

●平成5年度上田記念感染症・化学療法研究奨励賞 ●シンプル内科学共著 ●感染症クリニカルガイドライン共著 ●Cefmetazole, flomoxef, and meropenem are effective against planktonic cells but not biofilms of extended-spectrum β -lactamase-producing *Escherichia coli*. BMC Microbiol. 2025. ●Genomic plasticity of extensively drug-resistant and multidrug-resistant *Acinetobacter baumannii* ST208 isolates from a fatal outbreak. J Infect Public Health. 2025. ●Identification and characterisation of colistin-resistant *Acinetobacter colistiniresistens* co-producing IMP-1 and OXA-58 carbapenemases. New Microbes New Infect. 2024.

教授/博士(医学)

永川 茂

Nagakawa Shigeru

- 研究分野** 免疫学、感染免疫学、真菌学
- 研究項目** 肺炎における病原性微生物の病原性解析
腸内細菌叢の免疫に及ぼす影響
アレルギーに対する免疫応答
- 最終学歴** 順天堂大学大学院 医学研究科
- 資格** 薬剤師

主な業績

Histopathological Analysis of *Acinetobacter baumannii* Lung Infection in a Mouse Mod. Pol J Microbiol. 2021. Analysis of membrane antigens on neutrophils from patients with sepsis. J Infect Chemother. 2012. Efficacy of intravenous itraconazole against invasive pulmonary aspergillosis in neutropenic mice. J Infect Chemother. 2006. Production of anti-*Candida* antibodies in mice with gut colonization of *Candida albicans*. Mediators Inflamm. 2004.

教授/博士(医学)

萩原 治夫

Hagiwara Haruo

- 研究分野** 細胞生物学、解剖学
- 研究項目** 細胞機能調節機構
- 最終学歴** 群馬大学大学院 医学研究科
- 資格** 医師

主な業績

【受賞】●奨励賞, 日本臨床顕微鏡学会, 1998 【著書】●実験卵管学, 中外医学社, 2021 ●病気の分子形態学, 学際企画, 2011 【論文】●Fibronectin-integrin signaling regulates PLVAP localization at endothelial fenestrae by microtubule stabilization, Cell Tissue Res, 2021 ● Dynamic localization of α -tubulin acetyltransferase ATAT1 through the cell cycle in human fibroblastic KD cells, Med Mol Morphol, 2017

教授/博士(医学)

大森 繁

Omori Shigeru

- 研究分野** 医用生体工学、レーザー医学
- 研究項目** 治療用レーザーの開発とその応用研究、
手術用マニピュレータの研究
- 最終学歴** 東京女子医科大学大学院
医学研究科 先端生命医科学系専攻 博士課程修了

主な業績

●Improving the strength of sutureless laser-assisted vessel repair using preloaded longitudinal compression on tissue edge/Lasers in Surgery and Medicine,49(5)/共著/2017.07 ●治療用を目的とした光ファイバ先端共振型中赤外線レーザーのレンズレスヘッド開発/電気学会論文誌C(電子・情報・システム部門誌),137(4)/単著/2017.04 ●Robotic Laser Surgery with $\lambda=2.8\mu\text{m}$ Microlaser in Neurosurgery/ Journal of Robotics and Mechatronics,16(2)/共著/2004.04 ●バイオメディカルフォトニクス-生体医用光学の基礎と応用-/電気学会/共著/2009.04

教授/修士(健康科学)

矢島 務

Yajima Tsutomu

- 研究分野** 救急医療学、災害救急医療学
- 研究項目** 救急災害医療
- 最終学歴** 帝京平成大学大学院 病院前救急医療学専攻
修士課程
- 資格** 救急救命士

主な業績

●一次救命処置における行動意識と教育効果について/日本臨床救急医学会雑誌(1345-0581) 25巻2号 ●元東京消防庁救急指導課長、元東京消防庁丸の内消防署長

教授/博士(医学)

藤田 尚

Fujita Takashi

- 研究分野** 外科学、救急医学、外傷学
- 最終学歴** 群馬大学 医学部
- 資格** 外科専門医、救急専門医、消化器外科専門医、消化器科専門医、
外傷専門医、Fellow of American College of Surgeons

主な業績

●PinPinKorori or NenNenKorori: the historical and socioeconomic background of geriatric trauma care in Japan. Fujita T. Trauma Surg Acute Care Open. 2019 Mar 20;4(1):e000254. ●M-study from an urban trauma center in Tokyo. T Fujita, N Morimura, Y Uchida, I Kaneko, H Ikeda, T Sakamoto, J Trauma 2010 Oct;69(4):934-7.

研究指導教員紹介

教授／博士（理学）

濱田 剛

Hamada Tsuyoshi

研究分野 脳神経科学、ゲノム科学、基礎医学**研究項目** 神経系で発現する細胞増殖因子の解析、及び神経保護薬剤の研究**最終学歴** 九州大学大学院 医学系研究科 分子生命科学専攻 博士課程**資格** スポーツライミング コーチ2

主な業績

- Neuroprotection by JM-1232(-) against oxygen-glucose deprivat ion-induced injury in rat hippocampal slice culture. Brain Resarch1594 p52-p60. Ogura, T., Hamada, T., Matsui, T., Tanaka, S., Okabe, S., Kazama, T., Kobayashi, Y.
- Gene expression of Spag6 in chick central nervous system. ANATOMIA, HISTOLOGIA, EMBRYOLOGIA 39 p227-p232 Hamada, T., Teraoka, M., Imaki, J., Ui-Tei, K., Radher, RK., Asahara, T.

教授／博士（医学）

阪本 奈美子

Sakamoto Namiko

研究分野 外傷学、法医学、救急医学**研究項目** 法医病理学、法医画像診断学**最終学歴** 筑波大学大学院博士課程医学研究科**資格** 医師、救急専門医、救急指導医

主な業績

- Feasibility of resuscitation contrast-enhanced postmortem computed tomography using cardiopulmonary resuscitation technique with chest compression immediately after death./Springerplus 2013;2(1)/共著 ●全国救命救急センターにおける死後画像取得の現状と課題についてのアンケート調査結果報告書./救急医学,2009,33巻8号

健康科学研究科 臨床心理学専攻 (博士課程)



臨床心理学実践と 研究の発展に貢献できる 臨床心理学者を養成します

本専攻では、本学の建学の精神である「実学の精神」に則り、臨床心理学の実践方法の開発・発展に寄与する研究課題について、高い倫理観と旺盛な探求心を持ち、科学的で実証的な視点から問題解明に取り組み、有意義な研究成果を上げるとともに、臨床活動の専門性を高め、将来臨床心理学領域の指導者として活躍できる臨床心理学の専門家を養成することを目的としています。

博士課程に応募するためには、大学院修士課程修了程度の学力を有し、臨床心理学の高度専門職業人として認められる実践能力と実績を有することが条件になります。これらの方のうち、①人と心に対する深い理解力とともに臨床心理学の実践方法を改善しようとする問題意識を持ち、②臨床心理領域における科学的検討の方法論を身につけることに意欲を持ち、③心理的問題を抱える人々への支援方法の改善を通して社会への貢献を希望する方を求めています。

博士課程では、臨床心理の専門家としての知識や理論の修得と、人間の心に関わる幅広い問題に対して真摯に研鑽を積み、将来、独立した研究者あるいは臨床心理領域の指導者として活躍できる専門家を養成するため、体系的で専門的なカリキュラムを組んで教育を実施しています。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	臨床心理学専攻	3年以上6年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	博士（健康科学）

心理の世界を探索し
臨床研究の発展に
貢献できる研究者を養成します

Message

近年、我が国では様々な領域で心の問題が発生し、臨床心理の立場からの問題説明や支援が求められています。学校ではいじめ、家庭では虐待やDV、職場では様々な人間関係が問題となり、地域では引きこもりや孤立の問題があります。以前の日本社会に備わっていた家族や地域の支援力が弱まる中で、現代人の孤立化と生きづらさが進行していると言えるのではないのでしょうか。こうした中で臨床心理学の役割はますます大きくなっています。

本専攻は、高度専門職業人としての実践経験を持つ方が、さらに深く臨床心理学を学び、臨床心理学の実践方法の開発・発展に寄与する課題を研究するために設けられました。臨床心理学の実践の中から生じた問題意識を発展させ、研究を企画し推進していく意欲のある方々が本専攻で学ばれることを期待します。



臨床心理学専攻長
馬場 洋介
Baba Hirotsugu

特色

心理臨床の幅広い領域を学び、
問題を実証的に捉えて
研究する能力を養成します

本専攻では、臨床心理の専門家としての知識や理論を修得し、人間の心に関わる幅広い問題に対して真摯に研鑽を積み、将来、独立した研究者あるいは臨床心理領域の指導者として活躍できる専門家を養成します。そのため、精神医学や脳・神経科学はもとより、基礎心理学や人間を取り巻く様々な問題に取り組み、問題を実証的に捉えて研究していけるようなカリキュラムを組んでいます。

現代的な問題に積極的に関わり、
未来への展望を切り開く指導的人材を
養成します

東京都豊島区という都市部にある大学院として、都市が直面する様々な現代的課題に積極的に関わり、現代社会と地域に根差した実学的な研究を進められるように指導していきます。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 臨床心理学専攻（博士課程）

健康科学研究科 臨床心理学専攻（博士課程）の教育目的は、本学の建学の精神「実学の精神」に則り、臨床心理学の実践方法の開発・発展に寄与する研究課題について、高い倫理観と旺盛な探求心を持ち、科学的で実証的な方法論を身につけ、創造的に問題説明に取り組んで研究成果をあげることである。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求めらる。

- ① 人と心に対する深い関心と理解力を持ち、臨床心理学の実践方法を改善するための問題意識を有している。
- ② 関連領域の研究成果の学習につとめ、自らの問題意識をその中で発展させていくことができる。
- ③ 臨床心理領域における問題解決のための科学的方法論に関心を持ち、それを体得していく意欲と能力を有している。

研究指導内容／博士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
産業メンタルヘルス	産業・労働領域におけるメンタルヘルスに関するアセスメントや面接方法、多職種連携の方法等を幅広く修得し、働く個人と職場環境を広い視野で捉え、メンタルヘルス問題に対する複合的な視点で柔軟に対応していく方法を修得します。そして、これらの産業メンタルヘルスの実践活動について、研究活動を行い、その成果として学会および論文発表を目標とします。	教授 博士(人間科学) 馬場 洋介
臨床心理学面接法	臨床心理学における様々なアセスメントの方法や面接法・治療法を学修し、これらを来談者がかかえる課題やニーズに対応して柔軟に適用していく方法を学びます。臨床活動や、ケースカンファレンスへの参加・スーパービジョンなどにより、来談者の意向や希望を尊重しつつ適切にアセスメントを行い、計画的に介入・支援を行い、その結果を自ら客観的に評価してその後の臨床活動の改善に活かすことの出来る能力を養成します。	教授 博士(保健学) 長田 洋和
臨床心理学	臨床心理センターでの臨床活動やケースカンファレンス参加を基に、面接、アセスメント、質問紙等を用いて、観察研究、介入研究、事例研究を行います。研究倫理指針を遵守しながら科学的手法に則った研究活動を行い、成果として学会および論文発表を目標とします。	教授 博士(医学) 管 心

健康科学研究科 臨床心理学専攻（博士課程） 授業科目一覧

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目
専門領域科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床心理学特講 ● 臨床心理学面接特講 ● 認知・行動心理学特講 ● 認知情報システム特講

科目区分	授業科目
研究科目	● 健康科学特別研究

教員一覧

教授

馬場 洋介
安西 信雄
森 美加
管 心
長田 洋和

研究指導教員紹介

専攻長/教授/博士(人間科学)

馬場 洋介

Baba Hirosuke

最終学歴 神奈川大学大学院 人間科学研究科 人間科学専攻
博士後期課程

資格 臨床心理士・公認心理師・キャリアコンサルタント・
中小企業診断士

専門領域 【専門領域[地域保健・産業]】
産業メンタルヘルス(職場復帰支援)、就労支援(精神障害等)
【専門相談】産業メンタルヘルス(職場復帰支援)、
就労支援(中高年、精神障害)、キャリア発達

主な業績

●このころの科学 増刊号 公認心理師への期待(共著)日本評論社 2016 ●心理職の組織への関わり方 産業心理臨床モデルの構築に向けて(共著)誠信書房 2016 ●キャリア心理学 ライフデザイン・ワークブック(共著)ナカニシヤ出版2018 ●公認心理師の基礎と実践20 産業・組織心理学(共著)遠見書房2019 第11章:就職・障害者就労における心理支援 ●心理職の専門性20-公認心理師の職責-(共著)NHK出版 2020 第9章:産業・労働分野における心理専門職のはたらき

臨床心理センター長/教授/博士(医学)

管 心

Suga Motomu

最終学歴 東京大学大学院 医学系研究科 脳神経医学専攻
精神医学分野 単位取得退学

資格 医師・精神保健指定医・精神科専門医・産業医

専門領域 統合失調症脳基盤研究、若年精神疾患当事者の社会復帰支援、
産業メンタルヘルス

主な業績

●Motomu Suga et al. Reduced gray matter volume of Brodmann's Area 45 is associated with severe psychotic symptoms in patients with schizophrenia. Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci, 2010, 260(6):465-473 ●Motomu Suga et al. Lack of correlation between phonetic magnetic mismatch field and plasma D-serine levels in humans. ClinicalNeurophysiology, 2018, 129(7):1444-1448 ●管心、講座・精神疾患の臨床2、統合失調症、就労支援、中山書店、p.208-214

教授/博士(保健学)

長田 洋和

Osada Hirokazu

最終学歴 東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻
精神保健学分野博士課程

資格 公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士

専門領域 神経発達症における心理臨床、心理査定のための指標の開発、
ユニバーサルかつサステナブルな
子育て支援法の開発・社会実装

主な業績

●Translation and validation of the Family-Focused Mental Health Practice Questionnaire-Japanese version. International J Ment Health Promot, 22, 59-69. 2020. ●Depression risks in mothers of children with developmental disabilities: a cross-cultural comparison of Brazil, Colombia, Malaysia and Thailand. Int J Soc Psychiatry, 59, 398-400. 2013. ●Longitudinal developmental courses in Japanese children with autism spectrum disorder. Child Psychiatry Hum Dev, 43, 895-908. 2012.

健康科学研究科 健康科学専攻 (博士課程)



修士課程の各専攻に対応した
7つの分野で知識や研究能力を
さらに高めていきます

博士課程は2専攻(健康科学専攻、臨床心理学専攻)で構成されています。本専攻の教育目標は、「医療専門職の指導や教育に携わる人材を養成する」とともに、「保健、医療、福祉、介護の各分野、健康科学及び学際的分野の研究者を養成する」ことです。本専攻の中には修士課程の7専攻に対応した7つの分野が設置されており、修士課程から博士課程へと続く専門分野の連続性が保たれています。「修士課程」と「博士課程」を「博士前期課程」と「博士後期課程」と呼称する大学院もあるように、修士課程と博士課程を連続して捉え、修士課程での研究課題を続けて探求し、知識や経験をさらに発展・深化させることができます。過去に修士課程を修了した人が、関連する別の研究課題や学際的分野の研究を志すことも可能です。

医療専門職の指導者・教育者や臨床研究者は、知識に加え、実践能力・応用能力、問題解決能力、そして高い倫理観を身につける必要があります。受講する講義科目は限られますので、研究を進める過程でこれらを修得することになります。

研究科	専攻	分野	在学期間	修得単位及び条件	学位
健康科学研究科	健康科学専攻	鍼灸学分野 柔道整復学分野 健康栄養学分野 言語聴覚学分野 作業療法学分野 理学療法学分野 病院前救急医療学分野	3年以上6年以下	●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者	博士 (健康科学)

医療現場で直面した壁を乗り越え 道を拓き発信する それが博士課程の研究

Message

世界に冠たる長寿国、日本。その日本で、誰も経験したことのない未曾有の超高齢社会が進行しています。健康寿命の延伸はもはや、医療のみならずこの国の未来を左右する大命題です。健康科学関連分野はまさにこの時代のニーズに直結する領域であり、本研究科も社会の様々な要請に応える存在でありたいと思っています。

現場での臨床経験を積み、さらに修士課程を終えた医療人であれば、誰もが一度は「目に見えない医療の壁」を感じたことがあるでしょう。壁に沿って横に進むしかない諦めてしまう人もいます。その一方で、壁を乗り越え、新たな道を拓きたいと努力を惜しまない人がいます。私たちは後者の医療人を待っています。

共に歩み、実学を極め、そして貴君の成果を社会に発信してください。



健康科学専攻長
和泉 孝志
Izumi Takashi

健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）では、「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細はP.12をご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）

健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）の教育目的は、健康に関わる諸問題に対し複眼的な視点から研究を行うことができる各専門分野の高度専門職業人、教育・指導者、および研究者を養成することである。この教育目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- ① 本専攻の研究分野に含まれている保健、医療、福祉、介護の各専門領域、および関連する学際的分野の諸課題に関心を持ち、研究を行う意欲と能力を有している。
- ② 修士課程修了レベルの学力や研究経験があり、研究に必要な基礎的・応用的能力を有し、倫理的側面を含む研究関連の基本的事項を理解している。

鍼灸学分野

鍼灸学分野の目的は、修士課程までに修得した鍼灸学領域の知識をさらに発展させ、将来独創性の高い基礎研究を遂行できる研究者または高度な専門性を有した医療人となるための能力を培うことです。そのために様々な知見を修得する講義と演習からなる本専攻の専門科目に加え、鍼灸医学領域の研究者または医療人になるために必須となる「健康科学特別研究」によって構成されるカリキュラムが用意されています。

教員一覧

教授

和泉 孝志
久島 達也
宮崎 彰吾
玉井 秀明

准教授

今井 賢治
渡邊 大祐
皆川 陽一
恒松 美香子

柔道整復学分野

柔道整復学分野では、柔道整復学分野及び関連領域の研究者や教育者の養成を目的としています。修士課程の主な教育目標は、経験に基づく柔道整復の施術を科学的に検証し、得られた知見を臨床現場の活動にフィードバックすることでしたが、博士課程では、自立した臨床研究者として必要な基礎的能力を養います。研究したい課題を明確にし、関連する文献を検索・読解し、研究計画を策定・実行する過程を通して、研究者の視点と臨床研究の思考法を身につけた研究者や教育者・研究指導者を養成します。

教員一覧

教授

樽本 修和
展 広智
掛川 晃

講師

湯浅 有希子

健康栄養学分野

健康栄養学分野では、修士課程で修得した“栄養・食に関する課題設定・問題解決・成果発表能力”をより高度なレベルに高める教育を行います。また、このような問題解決には関連職種との協力が不可欠です。関連の専門家と協力して研究を行う経験を積んで、真のコミュニケーション能力を培います。さらに、英語論文を積極的に読む習慣を修得し、英語の読解力・発表能力を身につけ、国際的に活躍できるように支援します。これらを通して、栄養・食の領域で指導者として活躍できる能力を養成します。

教員一覧

教授

福島 亮治
児玉 浩子
牟田 真理子
野口 律奈
前田 竜郎
丸山 奈保

准教授

永井 亜矢子
水谷 晃子
高橋 寛子
長谷川 和哉

言語聴覚学分野

言語聴覚学分野では、修士課程での教育研究をさらに深化させ、広く社会に貢献できる問題解決能力を持ち、言語聴覚領域の先駆的な研究を推進できる研究者、教育者、臨床家の養成を目指します。広い研究視野の形成のために、言語・コミュニケーションを生涯発達の視点から研究する「言語聴覚学」、言語の諸問題を多面的・分析的に評価するための方法論を研究する「言語聴覚障害学」、訓練技法や包括的支援について研究する「言語聴覚療法学」を教育の大きな3つの柱としています。

教員一覧

教授

黒田 生子
相馬 有里
永井 知代子
植田 恵

作業療法学分野

作業療法学分野では、修士課程で修得した研究能力をさらに高め、作業療法固有の視点に基づく研究を奨励いたします。例えば、病気や障がいのある人々が意味のある作業役割を遂行できるよう、新しい能力評価や支援の手法を開発研究できる人材の養成を目指しています。さらにまた、高齢者をはじめ人々の健康維持や増進、および障害予防や介護予防に向けて、他領域とも連携した学際的かつ新規性に富んだ研究を通し、人々の自立(自律)生活支援に貢献できる教育・研究者を養成します。

教員一覧

教授

根本 悟子
関 一彦
江面 陽一
坂本 美香
菊池 和美

理学療法学分野

保健、医療、福祉、介護分野における高度な専門職業人の養成は重要かつ緊急な課題です。この課題を解決すべき理学療法士を含めたコメディカル専門職の研究・教育能力を高めるとともに他のコメディカルスタッフとのチームワーク、連携できる能力が求められています。修士課程において修得した分析能力、問題解決能力、研究能力をさらに高度化し、創造的・開発的研究を通して新しい総合保健医療を創造・実践、教育できる独創性、創造性豊かな教育・研究者を養成、また、医療・社会情勢変化に対応できる能力と後輩の指導ができることを目的とします。

教員一覧

教授

加藤 勝行
阪井 康友
徳田 良英
窪川 徹
玉利 光太郎

准教授

芳野 純
知脇 希
飯田 修平

講師

吉本 真純
宮本 浩樹
宮崎 学

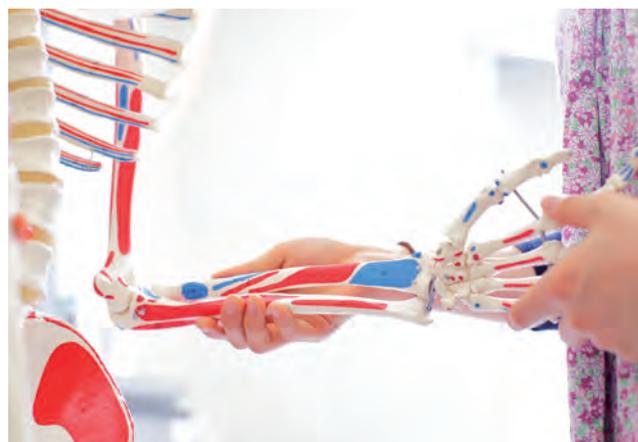
病院前救急医療学分野

病院前救急医療は、国民の生活に直結する重要な社会インフラです。救急搬送サービスに医療の視点を取り込んだ救急救命士制度において指導者としての資質を有する人材が求められています。博士課程では、病院前救急医療学の知識を蓄積し、拡大・精選・伝達し得る能力を養い、自立して病院前救急医療学の研究・開発ができる専門家を養成することを目的としています。

教員一覧

教授

斧 康雄
永川 茂
萩原 治夫
藤田 尚
阪本 奈美子



臨床心理学専攻(専門職学位課程)

臨床心理学研究科



臨床現場で求められるものに対応できる 高度な専門性を備えた 臨床心理士・公認心理師を養成します

本研究科は、2011年4月に東日本で最初の臨床心理専門職大学院として開設されました。

近年、様々な領域で心の問題が発生し、専門性の高い心理的支援への期待が高まっています。こうした中で、臨床心理士・公認心理師には、心の問題に的確に対応できる、より高度な専門性が求められています。本研究科では、このような社会のニーズに対応し、臨床心理の理論教育をきちんと行った上で、提携機関での豊富な外部実習、附属臨床心理センターでの臨床事例担当、きめ細かい指導による事例研究などを通じて、様々な現場の問題に的確に対応できる即戦力の実践家の養成を目指しています。

本研究科修了者には、「臨床心理修士(専門職)」の学位が授与されます。また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士受験資格が与えられ、受験科目のうち小論文が免除されます。さらに、本大学院の「健康科学研究科臨床心理学専攻(博士課程)」への進学が可能です。

2018年度から公認心理師試験受験資格にも対応した授業を行っています。大学院入学前に公認心理師法に定められた所定の科目を履修し要件を満たした方は、本大学院を修了すると公認心理師の受験資格が与えられます。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	2年以上4年以下	●50単位以上	臨床心理修士(専門職)

多様なキャリアの基礎づくりを支援します—
 入り口は資格取得、
 その先は心理臨床の実践家へ

Message

心の問題を抱える人のお役に立ちたい、その出発点は資格取得です。私たちは、これまで蓄積したノウハウを活かして、臨床心理士と公認心理師の資格取得への充実した支援を提供し、直近の修了生の合格率は、臨床心理士100%、公認心理師100%であり、高い合格率の実績があります。

即戦力としての臨床心理士・公認心理師の養成は、本学の建学の精神である「実学」の趣旨に沿うものです。この目的を達成するため、本研究科では、附属の臨床心理センターにおいては多彩で豊富な事例担当を手厚いスーパービジョンを受けながら経験し、学外の実習機関においては豊富に実践経験する機会を提供しています。

2025年度は、専任教員12名と臨床心理センターカウンセラー4名を配置し、院生一人ひとりにアドバイザーを付け、きめ細かな指導を行います。アドバイザーは、臨床家としての一步を踏み出すための、力強いサポーターとなります。

就職活動についても、学内の就職支援室と連携しながらきめ細かくサポートしています。修了生の就職先は、医療機関をはじめ、自治体、子ども家庭支援センター、教育相談センター、および、大学の学生相談室など、多岐にわたります。

心理臨床の初心者が次第に心理臨床のプロフェッショナルとして成長していく姿を見るのは、私たちのやりがいでもあります。私たちは臨床心理の実践家の志と意欲を持つ方々を院生として迎え、心の問題を抱える人々への適切な支援と一緒に考えることを楽しみにしています。



臨床心理学研究科長

馬場 洋介

Baba Hirotsugu

特色

理論だけではなく、多彩で豊富な 実習により実践的能力を鍛えます

学内実習は、充実したスタッフと設備を備えた臨床心理センターで行います。学生は教員等による丁寧な指導を受けながら、十分な数の面接や心理検査を担当します。

外部実習は、医療・福祉、地域保健・産業、学校・教育の3領域のうち、1年次に専攻領域以外の2領域で各々2ヵ月、2年次に専攻領域で8ヵ月、それぞれ週1日参加し、様々な現場を経験し指導を受けます。

少人数による きめ細かな指導を行います

2学年で33名の大学院生に対し、12名の専任教員と4名の臨床心理センターカウンセラーを配置し、院生一人ひとりに指導教員をつけ、きめ細かな指導を行います。

また、臨床心理士資格取得のために、独自の模擬試験、少人数指導、ITを活用した学修などの手厚い支援を行います。なお、2018年度から公認心理師試験受験資格にも対応した授業を実施しています。

臨床心理学研究科 臨床心理学専攻（専門職学位課程）では、「専門実践教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細はP.12をご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

臨床心理学研究科 臨床心理学専攻（専門職学位課程）

臨床心理学研究科 臨床心理学専攻（専門職学位課程）の「実学の精神を基として、豊かな人間性を持ち、多様で複雑な心の問題に創造的で柔軟に対応できる臨床心理分野の高度専門職業人を養成する」という教育理念と目的を達成するため、以下の入学者を求める。

- ① 人と心に対する深い関心と理解力を有している。
- ② 柔軟で安定した対人関係能力を有している。
- ③ 社会人としての良識と対人援助を行う専門家としての高い倫理観を有している。
- ④ 臨床心理学の高度専門職業人を目指す強い意欲を有している。

専門領域及び指導内容／専門職学位課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

専門領域	指導内容	担当教員
医療・福祉	医療現場で臨床心理の専門性を活かしながら、チーム医療の一員として信頼される心理職となるための指導を行います。精神疾患への対応だけでなく、身体疾患に伴う心理的課題に関しても、的確にアセスメントを行い効果的に介入することができるのはもちろん、医療制度や医療従事者の役割を理解し、チーム医療の一員として多様な職種と連携して協働できる多角的な視野と柔軟な思考力をあわせ持つ専門家を養成します。	教授 安西 信雄 教授 長田 洋和 教授 管 心 教授 森 美加 講師 江口 聡
地域保健・産業	地域住民や職場における労働者の精神的健康の向上を図り、精神的健康問題に取り組むことのできる心理職を目指します。精神的健康問題の把握方法やアセスメント、精神病理、組織への働きかけ、さらには関連する法令・制度等について理論と事例を基に学びます。個人の能力だけでなく、関連する専門家等と連携しながら現場の資源や制度を活用し、組織の改善を行うなど実践力を柔軟に発揮できる専門家を養成します。	教授 馬場 洋介 准教授 杉浦 貴代子 講師 大久保 智紗
学校・教育	教育現場や家庭、地域社会において、子どもの心の問題の理解や取り組みだけでなく、それぞれの力を発揮できる環境を構築するために必要な知識、技能、倫理、態度等を学びます。また、教育施設での実習で経験し学んだことを全員で共有し、子ども個人のみならず、取り巻く環境に目を向けてディスカッションを行い、豊富な知識と実践的で高いスキルをそなえた専門家を養成します。	教授 谷田 征子 教授 鈴木 明美 准教授 岩藤 裕美 講師 軽部 雄輝

臨床心理学研究科 臨床心理学専攻(専門職学位課程) 授業科目一覧

※授業科目等は変更になる場合があります。

臨床心理学基本科目	共通基本科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床心理学原論Ⅰ ● 臨床心理学原論Ⅱ
	臨床心理査定系	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践) ● 臨床心理査定演習Ⅱ ● 臨床心理査定実習Ⅰ ● 臨床心理査定実習Ⅱ
	臨床心理面接系	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床心理面接演習Ⅰ (心理支援に関する理論と実践) ● 臨床心理面接演習Ⅱ ● 臨床心理面接実習Ⅰ ● 臨床心理面接実習Ⅱ (心理実践実習) ● 臨床心理面接実習Ⅲ (心理実践実習)
臨床心理地域援助系	臨床心理地域援助系	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床心理地域援助演習Ⅰ ● 臨床心理地域援助演習Ⅱ ● 学校・教育臨床心理地域援助実習Ⅰ (心理実践実習) ● 学校・教育臨床心理地域援助実習Ⅱ (心理実践実習) ● 医療・福祉臨床心理地域援助実習Ⅰ (心理実践実習) ● 医療・福祉臨床心理地域援助実習Ⅱ (心理実践実習) ● 地域保健・産業臨床心理地域援助実習Ⅰ (心理実践実習) ● 地域保健・産業臨床心理地域援助実習Ⅱ (心理実践実習)
	事例研究系	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床心理学研究法 ● 事例研究実習Ⅰ ● 事例研究実習Ⅱ ● 総合的事例研究演習Ⅰ ● 総合的事例研究演習Ⅱ

臨床心理学応用・隣接科目	臨床基礎系	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療・健康心理学 (心の健康教育に関する理論と実践) ● 力動的心理療法特論 ● 認知行動療法特論 ● 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践
	学校・教育系	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開) ● 児童心理療法特論 ● 思春期・青年期特論
	医療・福祉系	<ul style="list-style-type: none"> ● 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) ● 神経心理学特論 ● ソーシャルワーク特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) ● 発達心理学特論
	産業・保健系	<ul style="list-style-type: none"> ● 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 ● 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 ● 家族心理学特論
総合		<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床心理学特別演習

研究指導教員紹介

研究科長/教授/博士(人間科学)

馬場 洋介

Baba Hirotsuke

最終学歴 神奈川県立大学 人間科学研究科
人間科学専攻 博士後期課程

資格 臨床心理士・公認心理師・キャリアコンサルタント・
中小企業診断士

専門領域 【専門領域[地域保健・産業]】
産業メンタルヘルス(職場復帰支援)、就労支援(精神障害等)
【専門相談】産業メンタルヘルス(職場復帰支援)、
就労支援(中高年、精神障害)、キャリア発達

主な業績

●このころの科学 増刊号 公認心理師への期待(共著)日本評論社 2016 ●心理職の組織への関わり方 産業心理臨床モデルの構築に向けて(共著)誠信書房 2016 ●キャリア心理学 ライフデザイン・ワークブック(共著)ナカニシヤ出版2018 ●公認心理師の基礎と実践20 産業・組織心理学(共著)遠見書房2019 第11章:就職・障害者就労における心理支援 ●心理職の専門性20-公認心理師の職責-(共著)NHK出版 2020 第9章:産業・労働分野における心理専門職のはたらき

教授/医学博士

安西 信雄

Anzai Nobuo

最終学歴 東京大学 医学部 医学科

資格 医師、精神保健指定医、精神科専門医・指導医

専門領域 精神障害者の退院と地域生活支援、
精神科リハビリテーション、SST

主な業績

●安西信雄:統合失調症の治療ゴールをめぐる心理社会的治療の視点から.精神医学 61(4):375-381, 2019 ●安西信雄:精神障害リハビリテーションの研究と実践を展望する-病院臨床の役割と課題を中心に、精神障害とリハビリテーション23(1):24-27, 2019 ●安西信雄:治療抵抗性統合失調症への包括的支援を考える-長期入院を作らないためのクロザピン、mECT、LAIを含めた治療戦略 精神神経学雑誌 2018特別号:S610, 2018

教授/修士(教育学)

鈴木 明美

Suzuki Akemi

最終学歴 東京学芸大学 教育学研究科 学校教育専攻 修士課程

資格 臨床心理士、公認心理師

専門領域 思春期の心理臨床、保護者支援、教員のメンタルヘルス

主な業績

●非行少年グループへのスクールカウンセラーの介入～学校での居場所作りを中心に～(単著)カウンセリング研究、36,154-162,2003 ●教育相談による理解と対応(共著)ぎょうせい,2003 ●カウンセリングプロセスハンドブック(共著)金子書房、2004 ●学校臨床(共著)金子書房、2012 ●虚栄心や劣等感の強い子(単著)児童心理1月号(金子書房)、2014 ●相談機関の実際-教育センター、児童相談所、ことばの教室等(単著)児童心理12月号(金子書房)、2014 ●反社会的行動を示す中学生へのスクールカウンセラーによる支援-テキストマイニングによる自由記述分析から- (共著)足利大学研究集録53,105-118,2019

教授/博士(保健学)

森 美加

Mori Mika

最終学歴 東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻
精神保健学分野 博士課程修了

資格 臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士

専門領域 臨床心理学、精神保健学、女性のメンタルヘルス、
弁証法的行動療法

主な業績

●ジェンダー・アイデンティティ、学校メンタルヘルスハンドブック(共著)、大修館書店、pp.174-180,2017. ●森美加、境界性パーソナリティ障害への弁証法的行動療法(DBT)-個人サイコセラピーにおける試み-.保健の科学2014; 56(2): 96-100. ●森美加他、関節リウマチ患者の心理支援ニーズに関する研究-包括的プログラムの提案-.女性心身医学2013;18(1):132-145. ●Mori,M.et al. Sex-role orientation, marital status and mental health in working women. Archives of Women's Mental Health 2002; 5: 161-176.

臨床心理センター長/教授/博士(医学)

管 心

Suga Motomu

最終学歴 東京大学大学院 医学系研究科 脳神経医学専攻
精神医学分野 単位取得退学

資格 医師・精神保健指定医・精神科専門医・産業医

専門領域 統合失調症脳基盤研究、若年精神疾患当事者の社会復帰支援、
産業メンタルヘルス

主な業績

●Motomu Suga et al. Reduced gray matter volume of Brodmann's Area 45 is associated with severe psychotic symptoms in patients with schizophrenia. Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci. 2010, 260(6):465-473 ●Motomu Suga et al. Lack of correlation between phonetic magnetic mismatch field and plasma D-serine levels in humans. ClinicalNeurophysiology, 2018, 129(7):1444-1448 ●管心、講座・精神疾患の臨床2、統合失調症、就労支援、中山書店、p.208-214

教授/博士(人文科学)

谷田 征子

Yatsuda Masako

最終学歴 お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科
人間発達科学専攻 発達臨床論講座 博士後期課程修了

資格 臨床心理士・公認心理師

専門領域 発達臨床心理学・力動的心理療法・子どものカウンセリング・
家族面接

主な業績

●児童・生徒の精神的発達①児童期/児童・生徒の精神的発達②思春期、部活動指導員ハンドブック[基礎編]、ミネルヴァ書房、2020年(共著) ●ひきこもり支援の実践、精神科、2019年(共著) ●出産・育児をめぐる一第2子の出産をきっかけに抑うつになった母親一、くらしの中の心理臨床①うつ、福村出版、2015年(共著) ●就学に向けた支援(就学支援・教育相談)、子どもとかわる力を培う実践-発達心理学ワークブック、みらい、2013年(共著)

研究指導教員紹介

教授/博士(保健学)

長田 洋和

Osada Hirokazu

最終学歴 東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻
精神保健学分野博士課程

資格 公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士

専門領域 臨床心理学、精神保健学、臨床疫学、医療人類学

主な業績

●Translation and validation of the Family-Focused Mental Health Practice Questionnaire-Japanese version. International J Ment Health Promot, 22, 59-69. 2020. ●Depression risks in mothers of children with developmental disabilities: a cross-cultural comparison of Brazil, Colombia, Malaysia and Thailand. Int J Soc Psychiatry, 59, 398-400. 2013. ●Longitudinal developmental courses in Japanese children with autism spectrum disorder. Child Psychiatry Hum Dev, 43, 895-908. 2012.

准教授/修士(人文科学)

岩藤 裕美

Iwafuji Hiromi

最終学歴 お茶の水女子大学 人間文化研究科 発達科学専攻
博士後期課程 単位取得退学

資格 臨床心理士、公認心理師

専門領域 【専門領域】発達心理学、臨床心理学【専門相談】発達支援、保護者支援、子どものカウンセリング、家族面接

主な業績

●くらしの中の心理臨床不安, 共著, 2017, 福村出版 ●実践・保育相談支援, 共著, 2015, みらい ●保育相談支援, 共著, 2011, 北大路書房 ●第一子誕生をめぐる夫婦の抑うつ状態と愛情関係, 単著, 2009, 『発達』30(120), pp.13-20, ミネルヴァ書房 ●産前・産後における夫婦の抑うつ性と親密性の因果関係-第1子出産の夫婦を対象とした縦断研究から, 共著, 2007, 家族心理学研究, 21(2), pp.134-145

准教授/博士(人文科学)

杉浦 貴代子

Sugiura Kiyoko

最終学歴 お茶の水女子大学 人間文化研究科 発達科学専攻
博士後期課程 単位取得退学

資格 臨床心理士、公認心理師

専門領域 臨床心理学、発達心理学、発達相談、保護者支援、
保育コンサルテーション

主な業績

【学位論文】フィリピンにおける幼児への心理臨床的支援に関する研究— 就学前教育支援プログラムの構築を通して—【論文】途上国におけるEarly Childhood Developmentプログラムの効果—教師から見た子どもの社会的情緒面での学校適応, コミュニティ心理学, 14(2), p115-131. 2011(共著)
【著書・分担執筆】ハイリスク傾向にある親子への支援『いっしょに考える 家族支援』(青木紀久代編著) p144-162, 明石出版. 2010 (共著) 【著書・分担執筆】地域子育て支援における親のメンタルヘルス-各所の機能から-『親のメンタルヘルス』(青木紀久代編著) p48-60, ぎょうせい. (共著)

講師/博士(心理学)

大久保 智紗

Okubo Chisa

最終学歴 筑波大学大学院 人間総合科学研究科
ヒューマン・ケア科学専攻 修士課程修了

資格 臨床心理士、公認心理師

専門領域 臨床心理学、感情心理学、心理査定、感情体験に関する研究、感情調整のための心理的介入に関する研究

主な業績

●Unconscious and conscious processing of negative emotions examined through affective priming. / Psychological Reports 112/ 共著/ 2014 ●感情調整が困難な青年に対する「感情予測と問題解決のためのシステムズトレーニング(STEPPS)」短縮版の予備的検討/臨床心理学, 19/ 2019

講師/博士(心理学)

江口 聡

Eguchi Satoshi

最終学歴 専修大学大学院 文学研究科 心理学専攻 修士課程修了

資格 臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士

専門領域 認知行動療法、心理査定、地域援助、統合失調症、発達障害

主な業績

●第9回不安症学会若手優秀演題賞「東大病院における発達障害検査入院の試み」
●統合失調症/精神症の認知行動療法マニュアル。一共著, 日本医療開発研究機構 2023年 ●成人の発達障害の評価と診断—多職種チームで行う診断から支援まで—共著 岩崎学術出版 2022年 ●江口聡他 (2023), 統合失調症患者を対象としたメタ認知トレーニング効果の予備的検討. 精神科治療学, 38, 1463-1470. ●江口聡他. (2020). 東京大学医学部附属病院における発達障害検査入院の試み①. 精神医学, 62(6), 929-935. ●Satoshi Eguchi, Shinsuke Koike, Motomu Suga, Ryu Takizawa and Kiyoto Kasai. Psychological symptom and social functioning subscales of the modified Global Assessment of Functioning scale: Reliability and validity of the Japanese version, psychiatry and clinical neurosciences, 69(2), p126-127, 2015.

講師/博士(心理学)

軽部 雄輝

Karube Yuki

最終学歴 筑波大学大学院 人間総合科学研究科
ヒューマン・ケア科学専攻 博士課程修了

資格 臨床心理士・公認心理師

専門領域 臨床心理学、キャリア教育、認知行動療法

主な業績

●軽部雄輝, 田中佑樹, 川崎由貴, 村田美樹, 永作稔, 嶋田洋徳(2018)大学生の就職活動の遂行に影響を与える不安の機能的側面に関する検討 早稲田大学臨床心理学研究, 18(1), 91-97. ●新目真紀・梅村慶嗣・榎野潤・軽部雄輝・下村英雄・高橋浩・永作稔・松田侑子・水野雅之・渡部昌平(2016)新時代のキャリアコンサルティング—キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来—独立行政法人労働政策・研修機構. ●軽部雄輝, 佐藤純. 杉江征(2015)大学生の就職活動維持過程尺度の作成 教育心理学研究, 63(4), 386-400.

看護学研究科

看護学専攻(修士課程) / 看護学専攻(博士課程)



高度専門職業人として、専門性の高い看護実践能力と看護教育・研究能力を有する人材を養成します

帝京平成大学の学是である「建学の精神」は、「実学の精神を基とし幅広い知識と専門分野における実践能力を身につけ創造力豊かな逞しい人間愛にあふれた人材を養成する」です。この学是のもとに設置された看護学研究科 看護学専攻の目的は、「本学の建学の精神に則り、高度専門職業人として、複雑化・高度化する医療保健福祉分野における課題を広く理解し、専門性の高い看護実践能力と看護教育・研究能力を有する人材を養成する」ことです(帝京平成大学大学院学則)。

昨今の世界的な感染症の蔓延、多発する自然災害、急速な少子高齢化などは、医療・看護・保健活動の場においても種々様々な問題を私たちに突きつけています。これら山積する課題を、学際的な視点から探求・分析し、解決に導くためには「専門性の高い看護実践能力」が必要不可欠です。

本研究科の修士課程では、8つの基幹看護領域(基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学[現在非開講]、母性看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学)を、博士課程では3つの研究領域(基盤看護学:看護教育・キャリア開発/看護倫理学、ケア実証看護学:成人・高齢者看護実践開発/小児看護実践開発、地域包括看護学:地域・在宅支援看護学/地域保健看護学)を配置し、徹底した実学教育のもと、社会に貢献できる人材を養成いたします。

研究科	専攻	在学期間	修得単位及び条件	学位
看護学研究科	看護学専攻	2年以上4年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	修士(看護学)
		3年以上6年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●16単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	博士(看護学)

学際的な視野から、
現代社会における看護課題を自ら考究し、
その成果を看護実践に生かすことができる
研究者を養成します

「看護「学」という学問を通して、
「考える力」を一緒に鍛えませんか！！」

Message

さて、私が大学院在学時に恩師から頂戴した、次の「ことば」は「考える力」を鍛える原動力になりました。

- 「考える力」のない人は、実社会では淘汰されます。大学院では教えてもらったことを鵜呑みにするのではなく自分なりに反芻してみなさい。人は「考える力」によって育てられ、鍛えられ、「人財」になっていきます。
- 問題（研究テーマ）は何か、問題はなぜ存在するのか、問題に対して何ができ、何をすべきなのかという「明確な問題意識」こそが研究に取り組むためのスタートです。

研究に真摯に取り組み、学際的な視点から看護課題について考究し、その研究成果を実践につなげていくことができる意欲のある方、「考える力」を一緒に鍛えませんか！！



看護学研究科長
吉澤 千登勢
Yoshizawa Chitose

特色

個々の研究課題について、
学際的な視野から深く掘り下げるための高度な専門知識や技術を修得するとともに、
学術研究を自ら推進することができる能力を修得することができます

修士・博士課程とも、自身が関心のある研究領域において、高度な専門知識や技術を系統的に学び、研究が推進できるよう、カリキュラムを配置しています。また、研究の推進・論文の完成に向けては、ゼミ（研究科目：看護学特別研究）の他、集団ゼミ（他学年や他領域の院生との合同ゼミ、副指導教員による助言）の機会も提供し、学生が広い視点から自身の研究内容をリフレクションできるよう支援いたします。

講義・ゼミなどは、中野キャンパス（中野）・千葉キャンパス（千葉※）で開講します

入学時に自身が関心のある看護領域を選択し、当該領域が属するキャンパスにて講義やゼミを受講することができます。自身が通学しやすいキャンパスで学修することが可能です。

※2027年度より、千葉キャンパスからちはら台キャンパスに移転することを予定しております。計画は予定であり、今後変更の可能性がります。

看護学研究科 看護学専攻（修士課程・博士課程）では、
「一般教育訓練給付制度」の対象として、指定を受けています。

▶ 詳細はP.12をご参照ください。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

看護学研究科は、その教育・研究目的を達成するために、建学の精神に則り、以下の入学者を求める。

- ① 各専攻が求めている入学要件を満たす能力を有している。
- ② 医療・看護・保健の実践・教育分野において、高度な専門職業人として、自ら見出した研究課題について意欲的に学修・研究することができる意志を有している。
- ③ 高い倫理観のもと、責任感をもって研究を遂行できる能力を備えている。

看護学研究科 看護学専攻（修士課程）

看護学研究科 看護学専攻（修士課程）は、その教育・研究目的を達成するために、建学の精神に則り、以下の入学者を求める。

- ① 自ら見いだした看護課題について具体的な問題意識をもち、当該課題の関連分野において熱意をもって学び探究することができる。
- ② 生命倫理や医療・看護の倫理を尊重しながら看護研究とその実践に取り組む積極性と行動力を備えている。

看護学研究科 看護学専攻（博士課程）

看護学研究科 看護学専攻（博士課程）は、その教育・研究目的を達成するために、建学の精神に則り、以下の入学者を求める。

- ① 専門的知識や技術に関する看護実践能力および基礎的な研究能力を有し、大学院で学修・研究する明確な意志を有している。
- ② 医療・看護・保健の実践・教育分野で活躍しており、博士論文の作成につながる独創性のある具体的な看護課題を提起し、その解決に向けて探究することができる論理的な思考力を有している。
- ③ 高い倫理観のもと、責任感をもって、主体的に研究を遂行できる能力を有している。

研究指導内容/修士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
看護倫理学・医療倫理学/看護教育学/ 基礎看護学/専門職連携教育	<ul style="list-style-type: none"> ◆看護倫理学・医療倫理学：ジレンマ(分析、調整、評価)・倫理教育・ハンセン病 ◆看護教育学：学士力/教育力の育成 ◆基礎看護学：看護の歴史、理論、初年次教育 ◆連携教育：チーム医療、連携実践 	教授 吉澤 千登勢
高齢者看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者看護学 ◆認知症高齢者のケア ◆高齢者施設における多職種連携 	教授 上野 公子
小児看護学/小児保健	<ul style="list-style-type: none"> ◆小児がん経験者・家族へのサポートグループ ◆子どもを亡くした家族のグリーフケア ◆発達障害および育児支援に関する検討 	教授 井上 ひとみ
公衆衛生看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域看護/地域ケアシステム ◆保健事業の計画立案や評価に関すること ◆保健師の現任教育に関わること ◆在宅生活支援や多職種連携 	教授 工藤 恵子
成人看護学/老年看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆慢性疾患看護 ◆終末期ケア ◆看護基礎教育方法 ◆老年看護学 ◆家族看護学 	教授 平川 美和子
保健学/公衆衛生看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆保健行動の変容 ◆職場の健康問題 ◆学校保健 	教授 善福 正夫
小児看護学/成育看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆小児がん患児及びその家族に関する研究 ◆小児がん経験者及びその家族に関する研究 ◆小児看護学に関する研究 	教授 下山 京子
在宅看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆在宅看護、訪問看護 ◆重症心身障害児のケア ◆認知症ケア ◆訪問看護師の教育プログラム ◆地域包括ケアシステムを担う住民ボランティア育成支援 	教授 益田 育子
公衆衛生看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆公衆衛生看護活動に関すること ◆感染対策における保健所の役割 ◆保健師教育に関わること 	教授 高橋 郁子
看護理論・哲学/看護技術学/看護教育学/ 専門職連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆看護理論・哲学：看護における概念・尺度開発と理論構築 ◆看護技術学：睡眠・休息支援技術、食(栄養)支援技術 ◆看護教育学：看護基礎教育、看護継続教育、患者教育 ◆専門職連携：チーム医療、連携実践 	教授 稲垣 順子
臨床医学：内科診断学	<ul style="list-style-type: none"> ◆看護学の対象となる患者のフィジカルアセスメント(身体的評価)解析の際に必須となる基本概念に関する内科診断学の知識について ◆健康歴および病歴の聴取を通じて、それぞれの場合に至適と考えられるフィジカルアセスメントの技法について 	教授 小林 ひとみ
内科系臨床医学、境界医学、基礎医学	<ul style="list-style-type: none"> ◆神経内科学 ◆病態検査学 ◆生理学一般 	教授 榎本 雪
高齢者看護学/リハビリテーション看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆更年期と加齢 ◆女性障害者のリプロダクティブヘルス ◆セクシュアリティ 	教授 道木 恭子
在宅看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆訪問看護 ◆被虐待気づきの指標 ◆難病看護 ◆重症心身障がい児・医療的ケア児の看護 	准教授 西 留美子
成人看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆看護師のわざ ◆看護技術の習得 ◆周術期看護 ◆成人看護学における看護 	准教授 河合 桃代
公衆衛生看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆産業保健・産業看護(労働者の健康支援・職場環境改善・健康づくり) 	准教授 猪股 久美
小児科学、小児血液学、小児腫瘍学	<ul style="list-style-type: none"> ◆小児看護における倫理：小児患者及び家族に関わる倫理 ◆疾患をもつ小児及び家族への援助：トータルケア ◆小児看護における多職種連携・地域連携 	准教授 中村 こずえ

看護学研究科 看護学専攻 授業科目一覧／修士課程

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目
共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ●看護学研究方法特論 ●保健統計学特論 ●看護倫理学特論 ●看護管理学特論 ●看護教育学特論 ●フィジカルアセスメント特論 ●遺伝・感染学特論 ●病態生理学特論
専門領域科目	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎看護学実践特論Ⅰ ●基礎看護学実践特論Ⅱ ●基礎看護学実践演習 ●成人看護学実践特論Ⅰ ●成人看護学実践特論Ⅱ ●成人看護学実践演習

科目区分	授業科目
専門領域科目	<ul style="list-style-type: none"> ●老年看護学実践特論Ⅰ ●老年看護学実践特論Ⅱ ●老年看護学実践演習 ●小児看護学実践特論Ⅰ ●小児看護学実践特論Ⅱ ●小児看護学実践演習 ●在宅看護学実践特論Ⅰ ●在宅看護学実践特論Ⅱ ●在宅看護学実践演習 ●精神看護学実践特論Ⅰ ●公衆衛生看護学実践特論Ⅰ ●公衆衛生看護学実践特論Ⅱ ●公衆衛生看護学実践演習
研究科目	<ul style="list-style-type: none"> ●看護学特別研究

教員一覧

教授

吉澤 千登勢
 上野 公子
 小林 ひとみ
 井上 ひとみ
 下山 京子
 工藤 恵子
 平川 美和子
 善福 正夫
 益田 育子
 榎本 雪
 高橋 郁子
 稲垣 順子
 道木 恭子

准教授

中村 こずえ
 西 留美子
 猪股 久美
 河合 桃代



研究指導内容/博士課程

※研究指導内容等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
基盤看護学 (看護教育/キャリア開発、看護倫理学)	<ul style="list-style-type: none"> ◆看護倫理学・医療倫理学：ジレンマ(分析、調整、評価)・倫理教育・ハンセン病 ◆看護教育学：学士力/教育力の育成 ◆基礎看護学：看護の歴史、理論、初年次教育 ◆連携教育：チーム医療、連携実践 	教授 博士(医科学) 吉澤 千登勢
高齢者看護学	<ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者看護学 ◆認知症高齢者のケア ◆高齢者施設における多職種連携 	教授 博士(医学) 上野 公子
ケア実証看護学(小児看護実践開発)	<ul style="list-style-type: none"> ◆小児がん経験者・家族へのサポートグループ ◆子どもを亡くした家族のグリーフケア ◆発達障害および育児支援に関する検討 	教授 博士(保健学) 井上 ひとみ
地域包括看護学(地域・在宅支援看護学)	<ul style="list-style-type: none"> ◆保健事業の計画立案や評価に関すること ◆保健師の現任教育に関わること ◆在宅生活支援や多職種連携 	教授 博士(保健学) 工藤 恵子
ケア実証看護学 (成人・高齢者看護実践開発)	<ul style="list-style-type: none"> ◆慢性病看護学 ◆ターミナルケア ◆老年看護学 ◆家族看護学 	教授 博士(医学) 平川 美和子
地域包括看護学(地域保健看護学)	<ul style="list-style-type: none"> ◆保健行動の変容 ◆職場の健康問題 ◆学校保健 	教授 博士(医学) 善福 正夫
リウマチ膠原病内科 (成人・高齢者看護実践開発)	<ul style="list-style-type: none"> ◆臨床医学：内科学一般アセスメントと看護ケア ◆膠原病疾患・循環器疾患における臨床診断・治療：病態生理及び病因 ◆膠原病疾患と循環器疾患の関連：慢性炎症による心血管病変の発症 ◆最新モダリティ・人工知能を活用した診断及び治療 	教授 博士(医学) 小林 ひとみ
内科系臨床医学、境界医学、基礎医学 (成人・高齢者看護実践開発) (地域・在宅支援看護学)	<ul style="list-style-type: none"> ◆高次脳機能障害、運動機能障害、認知症など、神経内科領域の各疾患について 	教授 博士(医学) 榎本 雪
小児血液腫瘍学、小児慢性特定疾病 (小児看護実践開発)	<ul style="list-style-type: none"> ◆小児看護における倫理：小児患者及び家族に関わる倫理 ◆疾患をもつ小児及び家族への援助：トータルケア ◆小児看護における多職種連携・地域連携 	准教授 博士(医学) 中村 こずえ

看護学研究科 看護学専攻 授業科目一覧／博士課程

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分		授業科目
共通科目		<ul style="list-style-type: none"> ●看護研究特講 ●高度実践病態生理学特講 ●応用統計学特講 ●看護哲学・理論特講 ●学際的看護ケア特講
専門科目	基盤看護学領域	<ul style="list-style-type: none"> ●看護教育・キャリア開発特講 ●看護教育・キャリア開発演習 ●看護倫理学特講 ●看護倫理学演習

科目区分		授業科目
専門科目	ケア実証看護学領域	<ul style="list-style-type: none"> ●成人・高齢者看護実践開発特講 ●成人・高齢者看護実践開発演習 ●小児看護学実践開発特講 ●小児看護学実践開発演習
	地域包括看護学領域	<ul style="list-style-type: none"> ●地域・在宅支援看護学特講 ●地域・在宅支援看護学演習 ●地域保健看護学特講 ●地域保健看護学演習
研究科目		<ul style="list-style-type: none"> ●看護学特別研究

教員一覧

教授

- 吉澤 千登勢
- 上野 公子
- 小林 ひとみ
- 井上 ひとみ
- 工藤 恵子
- 平川 美和子
- 善福 正夫
- 榎本 雪
- 下山 京子
- 大野 哲生
- 益田 育子
- 高橋 郁子
- 稲垣 順子

准教授

- 中村 こずえ
- 西 留美子
- 猪股 久美
- 河合 桃代

●：研究指導教員



研究指導教員紹介

研究科長/教授/博士(医科学)

吉澤 千登勢

Yoshizawa Chitose

研究分野 看護倫理学/医療倫理学、看護教育学、基礎看護学、専門職連携教育

研究項目 看護職の倫理的責務、倫理教育プログラム、教育力・学術力、専門職連携実践

最終学歴 山梨大学大学院 人間環境医工学専攻 博士課程(医学部:臨床倫理学講座)修了

資格 保健師、看護師、看護教諭第一種免許

主な業績

●主観的QOLと死を選ぶ自己決定権の倫理的正当性～医師/看護職の積極的安楽死への視座(科研基盤C:研究代表者)、2023～2025。●Behavior of medical professionals threatening human rights and dignity of patients: Findings from interviews with nursing students. /The 22th EAFONS, Singapore. /共著(科研費報告:研究分担者),2019。●多職種倫理連携研修プログラムの開発:地域ケアリング、Vol.20(5)、p60-62、北隆館、共著(科研費報告:研究代表者)、2018。

教授/博士(医学)

上野 公子

Ueno Kimiko

研究分野 高齢者看護学、予防医学、衛生学

研究項目 高齢者看護、認知症高齢者のケア、高齢者施設における多職種連携

最終学歴 新潟大学大学院 歯学総合研究科 博士課程修了

資格 看護師

主な業績

●Cognitive function is maintained in noninstitutionalized elderly Japanese requiring care with high levels of health-related quality of life. Environmental health and preventive medicine 21(6) 585-590,2016。●高齢者看護学実習における認知症高齢者との関りの中で抱いた感情の分析、第40回日本看護科学学会学術集会(2020) ●新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会生活の変化が看護大学生の睡眠に及ぼす影響、第40回日本看護科学学会学術集会(2020)

教授/医学博士

小林 ひとみ

Kobayashi Hitomi

研究分野 リウマチ膠原病内科

研究項目 リウマチ膠原病における心血管病変病態生理の解明 臨床研究

最終学歴 帝京大学医学部大学院 基礎第1医学研究科 博士課程

資格 総合内科専門医・リウマチ学会専門医/指導医

主な業績

【受賞歴】●Asia and Pacific Area League Against Rheumatism, Award (2011), (2020) 【原著論文】●Magnetic Resonance Imaging-Detected Myocardial Inflammation and Fibrosis in Rheumatoid Arthritis: Associations With Disease Characteristics and N-Terminal Pro-Brain Natriuretic Peptide Levels. Arthritis Care Res. (2017) ●Heart Rate-corrected QT Interval Duration in Rheumatoid Arthritis and Its Reduction with Treatment with the Interleukin-6 Inhibitor Tocilizumab. Journal of Rheumatology. (2018)

教授/博士(保健学)

井上 ひとみ

Inoue Hitomi

研究分野 小児看護学、小児保健

研究項目 小児がん経験者・家族へのサポートグループ 子どもを亡くした家族のグリーフケアについて 発達障害および育児支援に関する検討

最終学歴 金沢大学大学院 医学系研究科 博士後期課程保健学専攻

資格 保健師、看護師

主な業績

【論文】The Reintegration into Daily Life of Parents Who Have Experienced the Loss of a Child, Starting from Building Another Lifestyle with Their Deceased Child, 金沢大学つるま保健学会誌33:1, p1-10, 2009 【著書】家族を失うこと、家族看護学第2版、中央法規p191-197,2016 【学会発表】病気の子どもと家族のサポートグループ「つばみの会」の活動報告 第18回日本小児がん看護学会2020

教授/博士(保健学)

下山 京子

Shimoyama Kyoko

研究分野 小児看護学/育成看護学

研究項目 小児がん患児及びその家族に関する研究 小児がん経験者及びその家族に関する研究 小児看護学に関する研究 小児看護学におけるシミュレーター教育

最終学歴 新潟大学大学院保健学研究科 看護学分野専攻博士後期課程修了

資格 看護師

主な業績

【論文】●Rethinking Support for Pediatric Cancer Survivors Provided by Pediatric Specialty Hospital Outpatient Nurses. International Journal of Caring Sciences,16(2), 2023.08。●Problems Faced by Mothers of whose Children have Survived Cancer that Appeared During the Life Stages of the Children and the Process and Guidance for Self-Care. International Journal of Caring Sciences,16(2), 2023.08。

教授/博士(保健学)

工藤 恵子

Kudo Keiko

研究分野 公衆衛生看護学

研究項目 地域看護、地域ケアシステム

最終学歴 女子栄養大学大学院 栄養学研究科 保健学専攻 博士後期課程修了

資格 保健師、看護師

主な業績

●公衆衛生看護学論 技術演習第3版 クオリティケア 共著 ●地域ケア会議を想定した多職種による仮想事例検討会での住まいの見取り図活用効果、日本公衆衛生雑誌、第64巻9号 P556-566

研究指導教員紹介

教授/博士(医学)

平川 美和子

Hirakawa Miwako

研究分野 成人看護学/老年看護学

研究項目 慢性疾患看護、終末期ケア、看護基礎教育方法

最終学歴 弘前大学大学院 医学研究科 社会医学専攻
博士課程修了

資格 看護師

主な業績

●第39回三島賞:体力栄養免疫学会学術賞(2019):中学生における血清レプチン値と動脈硬化関連指標との関係,体力栄養免疫学会誌,28(1),18-26 ●第19回日本ケアマネジメント学会研究発表優秀賞(2020) ●看護学入門11巻老年看護第6版(2021)メヂカルフレンド社 ●A Survey of Towards the Utilization of Volunteers as a Preventive Measure for Cognitive Decline in the Elderly; Nursing Care Scenes in an Acute Care Hospital Setting. AJHS.26,165-181(2024) ●Awareness of Care Staff who participated in Bowel Dysfunction Care Training and the Actual State of Care-in the Tsugaru area of Japan-AJHS.22,88-100(2022)

教授/博士(医学)

善福 正夫

Zenfuku Masao

研究分野 公衆衛生看護学、保健学

研究項目 学校保健、産業保健、多職種協働

最終学歴 東京大学大学院 医学系研究科 社会医学専攻
第3種博士課程満期退学

資格 保健師、看護師

主な業績

●「介護老人保健施設における薬剤管理に関する多職種協働について」:帝京平成大学紀要, 29, 239-244 ●「看護系女子短大新入生の主観的健康度の変化—入試形態および志望の動機の違いによる比較—」:学校保健研究, 55(3), 214-218 ●「介護老人保健施設における看護職と介護職の協働の類型と職務満足度に関する研究」:第43回日本看護学会論文集-看護総合, 179-181 ●「運動部に所属する男子大学生の栄養教育の試み」:日本健康教育学会誌, 1(1), 57-68 ●「体育を専攻する大学生の食生活に関する研究」:学校保健研究, 35(12), 586-597

教授/博士(健康科学)

益田 育子

Masuda Ikuko

研究分野 在宅看護学

研究項目 在宅看護、訪問看護、重症心身障害児のケア、
認知症ケア、地域包括ケアシステムを担う住民
ボランティア育成支援、訪問看護師の教育プログラム

最終学歴 帝京平成大学大学院 健康科学研究科 博士課程単位取得退学

資格 看護師

主な業績

●在宅重症心身障害児の被虐待を訪問看護師が認知するための「被虐待気づきの指標」の信頼性、第40回日本看護科学学会学術集会、2020 ●市民が感じるホームホスピスの魅力—講座参加者のアンケートの分析—ホスピスケアと在宅ケア第28巻1号p.57-61、2020 ●児童発達支援・放課後等デイサービスを通じて看護職が感じる重症心身障害児の成長発達第12回日本在宅看護学会学術集会P19、(2022年)

教授/博士(医学)

榎本 雪

Enomoto Setsu

研究分野 内科系臨床医学、境界医学、基礎医学

研究項目 神経内科学、病態検査学、生理学一般

最終学歴 福島県立医科大学大学院 医学研究科
病態神経学専攻 博士課程修了

資格 医師

主な業績

●国立医療学会 塩田賞(1997) ●福島医学会 学術奨励賞(2013) ●日本臨床神経生理学会学術大会 優秀演題賞(2019) ●Nakatani-Enomoto S, et al. Somatosensory evoked potential modulation by quadripulse transcranial magnetic stimulation in patients with benign myoclonus epilepsy. 2016. Clin Neurophysiol. 127, 1560-1567 ●Nakatani-Enomoto S, et al. Effects of electromagnetic fields from long-term evolution on awake electroencephalogram in healthy humans. 2020. Neurosci Res. 156, 102-107.

教授/博士(医学)

高橋 郁子

Takahashi Ikuko

研究分野 公衆衛生看護学

研究項目 保健師活動、地域における感染症対策

最終学歴 鳥取大学大学院 医学系研究科 医学専攻 博士課程修了

資格 保健師、看護師

主な業績

●新看護学4 保健医療福祉のしくみ看護と法律 医学書院 共著 ●高齢者施設職員の感染予防の態度に関する研究、日本地域看護学会誌、12(2)、p15-21、2010 ●高齢者施設における介護職員の手洗いにに関する意識調査、感染予防のための手洗いの促進に向けて訪問看護と介護、18(4)、p320-324、2013

教授/博士(医学)

稲垣 順子

Inagaki Junko

研究分野 看護理論・哲学、看護技術学、看護教育学、専門職連携

研究項目 看護における概念・尺度開発と理論構築、看護技術
(睡眠・休息・食支援技術)、看護教育、在宅で看取りを
支える家族の介護力量を高める包括的エンパワメント
プログラムの開発

最終学歴 山口大学大学院医学系研究科 博士課程 環境情報系 修了

資格 看護師 社会福祉士

主な業績

●Development of a comprehensive empowerment program to enhance the ability of family caregivers to provide care for end of life at home. / The 27th EAFONS, Hong Kong, 2024.(科研基盤C:研究代表者) ●Exploration of the Factor Structure of Burden Experienced by Individual Providing End-of-Life Care at Home. Nursing Research and Practice, ID: 1659040, 2018.(科研基盤C:研究代表者)

研究指導教員紹介

教授/博士(保健医療学)

道木 恭子

Doki Kyoko

- 研究分野** 老年看護学、リハビリテーション看護学
- 研究項目** 認知症の看護、障害者の加齢、高齢者のセクシュアリティ、障害者のセクシュアリティ
- 最終学歴** 国際医療福祉大学 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程修了
- 資格** 看護師

主な業績

【賞】●総合リハビリテーション賞受賞
 【著者】●医学書院系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 ●セックス・セラピー入門 ●頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第3版 ●脊髄損傷理学療法マニュアル第3版 ●私もママになる
 【論文】●女性脊髄障害者の更年期と加齢に関する調査報告、日脊障医誌34(1)120
 ●成人期にある二分脊椎男性の性的経験に関する研究、日本性科学会誌36(1)21-19 ●脊髄損傷者の妊娠・出産に関する保健指導、日脊障医誌(16)182-183

准教授/博士(医学)

中村 こずえ

Nakamura Kozue

- 研究分野** 小児科学、小児血液学、小児腫瘍学
- 研究項目** 小児がん多施設共同研究
- 最終学歴** 千葉大学医学部
- 資格** 医師 小児科専門医 血液専門医 がん治療認定医 小児血液・がん学会専門医

主な業績

【担執筆】好酸球・好中球・好塩基球増加症 小児血液疾患診療マニュアル 中外医学書 東京 2025 【論文】自己免疫性溶血性貧血の診断11年後にプロラクチノーマを発症した1例 日本小児血液・がん学会雑誌2024 免疫性血小板減少症との鑑別診断を必要とした先天性血小板減少症の1例 日本小児血液・がん学会雑誌2023、小児の救急・搬送医療 溶血性貧血 小児内科増刊号2019 低親和性自己抗体の関連が疑われたクームス陰性自己免疫性溶血性貧血の1例 日本小児血液・がん学会雑誌2017、小児科と関連領域における臨床の常識を見直そう! 慢性ITP患者への第一選択薬はステロイド?(Q&A) 小児内科2015

准教授/博士(看護学)

西 留美子

Nishi Rubiko

- 研究分野** 在宅看護学
- 研究項目** 訪問看護、被虐待気づきの指標、難病看護、重症心身障がい児・医療的ケア児の看護
- 最終学歴** 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科博士課程 保健医療学専攻(看護学分野) 博士課程 修了(看護学博士)
- 資格** 看護師

主な業績

●在宅重症心身障害児虐待に対する訪問看護介入の実態と課題 共立女子大学看護学雑誌第1巻Vol.1p9-16、2014.2 ●日本地域看護学会第18回学術集会「訪問看護師が把握する在宅療養児の被虐待状況」最優秀ポスター賞学会学術集会講演集p174 ●小児保健奨励賞、在宅重症心身障害児の被虐待様場面に対して訪問看護師が情報提供ケースとして判断する実態と関連要因、小児保健研究第79巻1号p36-45 ●在宅重症心身障害児の被虐待を訪問看護師が認知するための「被虐待気づきの指標」の妥当性、第40回日本看護科学学会学術集会抄録集p151

准教授/博士(保健学)

猪股 久美

Inomata Kumi

- 研究分野** 公衆衛生看護学
- 研究項目** 産業保健、産業看護
- 最終学歴** 女子栄養大学大学院 栄養学研究科 保健学専攻 博士後期課程修了
- 資格** 保健師、看護師

主な業績

●新版 すぐに役立つ産業看護アセスメントツール(法研)共著 ●保健の実践科学シリーズ 産業看護学(講談社)共著 ●公衆衛生看護活動論 技術演習第3版(クオリアケア)共著 ●VDT作業における静的及び動的作業休止による疲労回復の比較 お茶の水看護学雑誌 第2巻第1号 p23-31 ●産業保健・看護実習において実習指導者が大学に望むこと 日本地域看護学会誌 第17巻第3号 p78-83 ●地域高齢者の咀嚼力スケールの開発-信頼性・妥当性の検討-日本健康教育学会誌 第26巻第4号 p342-352

准教授/博士(看護学)

河合 桃代

Kawai Momoyo

- 研究分野** 成人看護学
- 研究項目** 看護師のわざ、看護技術の習得、周術期看護、成人看護学における看護
- 最終学歴** 日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科 看護管理学専攻 博士後期課程単位取得退学
- 資格** 看護師、保健師

主な業績

●日本看護技術学会第12回学術集会大会賞:嚥下障害者への食事介助における看護師のわざの研究-身体を介した相互作用に焦点をあてて-/単著/2015 ●第15回日本クリティカルケア看護学会学術集会優秀演題:急性期領域における専門看護師に求められるコンピテンシーに関する検討/共著/2019 ●第41回日本看護科学学会学術集会 優秀演題口頭発表賞:熱布バックケアを体感する反復練習により編み出された看護学生の工夫/共著/2021 ●手術室看護師のエキスパート性:身体化された“ハビトゥス”



情報科学と社会人の経験知を 融合させた研究を 実践する人材を養成します

情報技術革新の急速な進歩は、社会の高度情報化と経済のグローバル化をもたらしました。それらは産業構造や職業・技能の分野のみならず、日常社会のあらゆる分野に大きく影響を及ぼしています。

教育・研究の世界も、このような変化に対応することが求められています。とりわけ、既に社会人として活躍する方が新たな知識を身につけ知的レベルアップの機会が得られるよう、社会に開かれた大学院にその役割が期待されています。しかしながら、仕事を持っている方が大学院に通うことは容易なことではありません。それを可能にする選択肢として、通信制大学院があります。

通信制大学院情報科学研究科は、変革と発展を続ける現代社会で発生する多様な社会問題を、情報科学を活用して解決しようとする熱意と探求心を持って研究を遂行する意志のある方を求めています。社会人生活と研究を両立させながら高度の教育・研究の道に進める本学の通信制大学院で、人生の新しい可能性を見つけてください。

情報科学専攻／社会情報学分野・健康情報学分野（修士課程）
通信制大学院
情報科学研究科
Graduate School of Information Sciences (Correspondence Course) / Master's Program in Information Sciences

研究科	専攻	分野	在学期間	修得単位及び条件	学位
情報科学研究科 (通信制)	情報科学専攻	社会情報学分野 健康情報学分野	2年以上4年以下	<ul style="list-style-type: none"> ●30単位以上 ●学位論文の審査及び試験に合格した者 	修士 (情報学)

社会と医療の動きに
情報科学を結びつける
専門教育と研究

Message

科学技術の発展とともに情報技術が飛躍的に発展しました。自然環境の変化、生活環境の複雑化など、人間が生きていくための環境も大きく変化してきています。大規模データベースの構築と解析により、自然環境や生活環境の改善に資する多くの情報がもたらされるようになりました。人が健康を維持し、豊かで充実した生活を送るためにも、あふれる情報からの確に必要な情報を選択し、人間と自然環境・生活環境が共生した持続可能な社会を構築しなければなりません。情報科学の知識と技術を修得し、人類の幸福と福祉に貢献するための熱意を持ち、探究心と実行力のある方々の入学を期待しております。



情報科学研究科長
矢ノ下 良平
Yanoshita Ryohei

特色

情報技術の革新に対応し、
社会的課題を解決する研究

■ 社会情報学分野

情報工学技術の基礎から応用に至る幅広い教育と研究を行っています。例えば、情報工学技術の分野では画像認識や情報の表現法に関する研究、応用的分野では防災を目的とした環境問題や都市計画による生活環境の改善に関する研究を行っています。個々の専門分野の知識・技術を深めることにより、専門を超えた幅広い分野にも対応できる人材の養成を目指します。

情報科学を活用し、
健康と福祉の質の向上を目指す研究

■ 健康情報学分野

理学療法、作業療法、言語聴覚、臨床心理、鍼灸、柔道整復など幅広い医療関連分野において、情報技術分野との融合を図りながら、情報科学の視点から学際的研究を行っています。個人の健康増進のみならず、公衆衛生の視点から健康と福祉の質の向上に取り組む人材の養成を目指します。

入学者受入れの方針(アドミッションポリシー)

通信制大学院 情報科学研究科 情報科学専攻(修士課程)

通信制大学院 情報科学研究科 情報科学専攻(修士課程)は、人間の健康や社会生活に影響を及ぼす自然と生活環境の要因を対象に、情報学・情報工学を含めた多様な学術領域の知識や技術を用いて、的確に分析、評価、予測することにより、人間が健全でより良い生活を送ることができる社会環境と生活環境を構築できる人材の養成のため、以下の入学者を求める。

- ① 多角的・学際的視野と各専門分野における高度な専門的実践能力を身につけ、現代社会の発展と変革にもなう種々の問題に応えるために、実社会において活躍・貢献したいと志している。
- ② 探究心をもって地道な努力をいとわず研究に励む決意がある。
- ③ 人間の健康および幸福と福祉に貢献する志をもっている。
- ④ 学部卒業後、社会人としての実社会での活動を通して、さらなる専門能力のステップアップ、研究活動の必要性を認識している。

研究指導内容

※研究テーマ等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
データサイエンス	データサイエンスとは、データを扱うための統計的・数理的な技術とその応用の研究で、従来の伝統的理論や手法とは異なる観点から、データによって真実を明らかにするものです。その中で、Webデータやセンシングデータなどの実データを分析し、ビジネスや社会での現実問題に貢献する技術について研究します。	教授 村川 賀彦
知識情報処理	センサーや人工知能技術を応用して、電子機器の故障や、人間の疾病、自然災害の発生など、異常の予兆や発生を自動的に検出する方法を研究します。研究テーマの例としては「エッジAIエージェントによる電動車いすの運転支援」「電子回路生成AI」が挙げられます。	教授 蜂屋 孝太郎
センシング工学	感染症拡大など様々な場面で人の流れの把握が社会的重要性を増しています。無線技術を応用したセンシングと、AI・機械学習などを応用したデータ分析手法を組み合わせ、プライバシー保護を考慮した高精度な人の動きの推定方法を研究します。	教授 鈴木 昭浩
並列分散処理及び分散コンピューティング	インターネットを代表とするコンピューター・ネットワークが多く利用されています。最近ではIoTと呼ばれる「物をインターネットに接続」し、得られたデータの活用がされています。これらに関する課題を選定し、最新の技術情報の分析を通して研究を進め専門的知識を修得します。必要に応じてIoTシステムを構築し実用的な技術を修得し研究を深めていきます。	教授 藤井 慎裕
データ駆動型数理学	現象をモデル化する理論科学的手法やコンピューター・シミュレーションによる計算科学的手法に加え、応用機械学習やデータ駆動型モデリングによる解析・予測を取り入れ、現象の理解と構造の解明に活用します。これらを統合し、数理モデルとデータ科学の融合を通じて、自然現象や社会現象の背後にある構造やメカニズムの解明を目指します。	教授 吉岡 剛志
地球環境科学(気候変動学)	地球環境科学に関する課題を選定して研究を行い、その成果を修士論文にまとめることで、修士課程修了者として要求される専門的知識と研究能力を修得します。研究テーマとしては「山岳地域の気候・環境の変遷史の解明」が挙げられます。	教授 小森 次郎
都市・建築学(計画学)	都市・建築学に関する課題を選定し、国内外でのフィールドワークと調査・分析を通して、地域に提案をします。研究テーマとしては「文化遺産と防災」、「レジリエントな空間とコミュニティ」、「伝統住居群の住環境」などが挙げられます。	教授 狩野 朋子
画像認識	コンピューターを用いて、デジタル画像の分類や物体検出を行う画像認識に関する研究開発を行います。具体的には、ノイズや圧縮のある静止画を入力する深層学習ネットワークの性能向上に関連する研究を行います。	教授 遠藤 和紀
情報の表現とビジュアライゼーション	ネットワーク技術やデジタル化技術が発達し、多種多様なデジタルコンテンツを入手できるようになりました。氾濫するコンテンツ間の多様な関係を構造で表すことを軸として、多面性、多様性が感じられるようなグラフの可視化手法、人が楽しめるインタラクション方法(関連するモノとの出会いを提供)を探求し、新たな知見や、新しい関係の発見を目指します。	准教授 石川 尋代
並列処理	世界的に計算需要が増加する中で、より短い時間で計算を完了する並列処理方式が注目されています。並列計算システムの提案・設計・構築を通じた実験的な研究、あるいはプログラムの振る舞いモデルの解析を用いる理論的な研究によって、実用的な知見を得られるように指導します。	准教授 米澤 直記
数値解析	自然現象や社会現象の振る舞いを解析するために様々な数値モデルが研究されています。これらの数値モデルをコンピューターを用いて計算する方法を研究します。特に、連立一次方程式や数値積分・最適化問題に対する数値計算誤差を考慮した計算方法について既存研究を紹介し、そこから新しい理論やより効率的な方法を開発できるように研究指導を行います。	准教授 小林 領

社会情報学

※研究テーマ等は変更になる場合があります。

研究指導分野	研究指導内容	担当教員
生体分子情報学	生体では、ホルモンや低分子物質が細胞間で情報伝達することによって多細胞社会が形成されています。遺伝子など多様な物質を含んでいる新規の細胞間情報伝達体である小胞を中心に、分子情報によって生体システムが制御されるしくみについて研究を行います。	教授 矢ノ下 良 平
医薬統計学	医学、薬学、公衆衛生などを対象に、数学と広範な科学的見地からデータ収集、研究設計、データ分析とその手法開発をデータサイエンスとして研究し、健康科学に貢献します。	教授 高 橋 秀 人
作業療法治療学	疾病や障害を有していても可能な限り住み慣れた環境(地域)で生き生きと暮らしていくためには、地域リハビリテーションの視点を展開していく必要があります。生活障害に対して、より早期の発見と介入を目指した作業療法評価及び治療的介入の研究を行います。	教授 坂 本 美 香
保健医療(教育) 運動器外傷	保健医療分野の教育に関する研究をします。大学生のジェネリックスキル低下について問題点をまとめ、その対策として医療専門知識と技術の向上について効果的な手法や評価方法などを研究します。テーマは主に運動器の外傷および障害の機序を解析し、予防に役立てる研究とします。	教授 田 宮 慎 二
人工臓器学	人工臓器のなかでも、人工腎臓である血液透析膜の生体適合性の解明を行います。	教授 東 郷 好 美
医療・健康AI	時系列データを処理できるAIを、臨床診断の支援、救急救命処置の遠隔支援(エッジAI)、高精度の姿勢推定やリハビリテーション等に活用する研究を行います。また、認知と言語の関係等をAIを使って分析し、人の知能そのものに関する知見を蓄積します。	教授 後 藤 哲 史
臨床心理学分野	臨床心理学では、対象者の状態を把握するアセスメントと、それに基づく心理的支援が中心となります。研究では、こうした支援の方法や効果について実証的に検討することが求められます。心理支援と情報技術の連携をテーマとした実践的な研究について指導を行います。	教授 松 浦 正 一
健康支援・増進	地域在住高齢者の健康に寄与する因子について、2次データや、調査データを用いて分析を行います。	准教授 知 脇 希
理学療法治療学	理学療法における対象者への介入は評価および治療が中心となる。対象者に対して適切な検査を実施し、その結果から適切な問題点を抽出する評価を行い、それに対して適切な治療方法を選択する必要がある。研究テーマに関しては理学療法評価および治療的介入に関して行う。	准教授 芳 野 純
生体情報計測	非侵襲的な生体情報計測手法により得られた情報から、生理機能変化に伴う生体情報の抽出を行います。特に、脳波、筋電図、心電図からの生体リズム情報と機能的変化との比較をして疾患推定手法と医用診断補助システムへの応用も行います。	准教授 松 崎 晴 康
東洋医学(鍼灸)	筋の痛みを中心とした疼痛疾患に対する鍼灸治療の作用メカニズムや、その臨床的役割に関する研究指導を行います。	准教授 皆 川 陽 一

健康情報学

教育研究の方法

通信制大学院の教育・研究指導は、大きく分けて次の3つの方法で行われます。

1. 通信科目	<p>院生は指定のテキストや参考文献・資料などを利用し在宅で学修します。レポートを提出し、科目担当教員より添削、採点、講評を受けます。レポートと科目修得試験に合格すれば単位修得となります。</p>
2. 研究実習(スクーリング)	<p>原則として1年次の夏期(7～8月)または春期(2～3月)期間中、本学の施設・設備を使用し研究実習を行います。この期間に指導教員から実習課題について直接指導を受けます。その成果を研究実習報告会で報告し、審査に合格すると単位が認められます。</p>
3. 特別研究	<p>指導教員のもとで特別研究(研究・修士論文の作成)を行います。指導教員が提示した複数の課題、あるいは院生が提案した課題の中から、指導教員と協議して一つを選びます。中間発表会・最終発表会を開催し、研究報告および修士論文の評価を行います。なお、企業などに勤務している、あるいは勤務経験のある院生は、妥当な範囲で実務経験を研究成果の一部として取り入れることができます。</p>

通信制大学院 情報科学研究科 情報科学専攻(修士課程) 授業科目一覧

※授業科目等は変更になる場合があります。

科目区分	授業科目	科目区分	授業科目	科目区分	授業科目
基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究倫理学特論 ● 情報科学特論 ● 情報システム特論 ● データサイエンス特論 ● システム設計学特論 ● 地球環境情報特論 ● 生体構造機能情報特論 ● 人工知能特論 ● アルゴリズム特論 	専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 機械学習特論 ● 健康リスク分析特論 ● 環境変遷学特論 ● 都市空間情報特論 ● 医療情報特論 ● 理学療法治療学特論 ● 作業療法治療学特論 ● 臨床心理学特論 ● 地域ケアシステム特論 ● 言語聴覚障害学特論 ● 柔道整復学特論 ● 健康支援特論 	専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活環境学特論 ● 疫学分析特論
	専門科目		<ul style="list-style-type: none"> ● 統計解析特論 ● 医療系データ解析特論 	研究科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報科学特別研究 ● 情報科学研究実習

教員一覧

教授

矢ノ下 良平
藤井 慎裕
村川 賀彦
高橋 秀人
鈴木 昭浩
坂本 美香
松浦 正一
蜂屋 孝太郎
小森 次郎

田宮 慎二
後藤 哲史
遠藤 和紀
東郷 好美
狩野 朋子
吉岡 剛志

准教授

松崎 晴康
石川 尋代
米澤 直記
知脇 希
芳野 純
小林 領
皆川 陽一

研究指導教員紹介

研究科長/教授/薬学博士

矢ノ下 良平

Yanoshita Ryohei

- 研究分野** 生体分子情報学
- 研究項目** 分泌小胞エキソソームによる生体システムの制御に関する研究
- 最終学歴** 東京大学大学院 薬学系研究科 博士課程修了

主な業績

【論文】●Characterization of membrane integrity and morphological stability of human salivary exosomes. Biol. Pharm. Bull.;40, 1183-1191, 2017. ●Stability of human salivary extracellular vesicles containing dipeptidyl peptidase IV under simulated gastrointestinal tract conditions. Biochem Biophys Rep. 27, 101034, 2021. ●Distinguishing two distinct types of salivary extracellular vesicles: a potential tool for understanding their pathophysiological roles. Frontiers in molecular biosciences, 2024.

教授/博士(理学)

藤井 慎裕

Fujii Norihiro

- 研究分野** 情報科学
- 研究項目** 並列分散処理及び分散コンピューティング
- 最終学歴** 法政大学大学院 情報科学研究科 博士課程

主な業績

①IoT Remote Group Experiments in the Cyber Laboratory: FPGA-based Remote Laboratory in the Hybrid Cloud 単著 "IEEE Press, 2017 International Conference on Cyberworlds, PP. 162-166, 20-22nd September, 2017, University of Chester, Chester, United Kingdom" 2017/10
②スマートフォンによる運動(歩行)の解析(第22回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 学術集会)
③3軸加速度計を使用した呼吸量の簡易計測の検討(第23回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 学術集会)

教授/博士(情報科学)

村川 賀彦

Murakawa Yoshihiko

- 研究分野** 情報学基礎、人間情報学、統計科学
- 研究項目** 情報学基礎理論、知能情報学、ヒューマンインターフェース・インタラクション
- 最終学歴** 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 情報処理学専攻 博士後期課程
- 資格** 第一種情報処理技術者試験合格

主な業績

●Reliable Cloud-based Robot Services 共著 IECON2013 2013/11 ●インターネットサービスプラットフォームにおける ロボットサービス提供手法 共著 情報処理学会論文誌 2013/02 ●Verification of the Effectiveness of Robots for Sales Promotion in Commercial Facilities 共著 Proceedings of 2011 IEEE/SICE International Symposium on System Integration 2011/12 ●インターネットを活用したロボットサービスの実現と開発を支援するRSI(Robot Service Initiative)の取り組み 共著 日本ロボット学会誌 2010/09

教授/博士(学術)

高橋 秀人

Takahashi Hideto

- 研究分野** 医学統計学
- 研究項目** 公的bigdataを用いた研究、数理シミュレーションを用いた研究
- 最終学歴** 筑波大学大学院数学研究科
- 資格** 公衆衛生学会認定専門家、日本疫学会認定上級専門家

主な業績

【論文】Factors Associated with Attrition: Analysis of an HIV Clinic in Japan. J Immigr Minor Health. 2021 Apr;23(2):250-256. (共著) Nested matched case control study for the Japan Fukushima Health Management Survey's first full-scale (second-round) thyroid examination, Medicine (Baltimore). 2020 Jul 2,99(27)(共著)【著書】基礎医学統計学第7版(2020) 南江堂(共著), 疫学概論(2000) 朝倉書店(共著)【受賞】川合記念賞(2013年), 日本疫学会奨励賞(2003)

教授/修士(工学)

鈴木 昭浩

Suzuki Akihiro

- 研究分野** ソフトウェア工学、通信工学
- 研究項目** 大規模情報システムの開発および導入方法論、電波利用システム
- 最終学歴** 東北大学大学院 工学研究科 情報工学専攻 博士前期課程修了
- 資格** 情報処理技術者試験(システム監査・システムアナリスト)、第一級陸上無線技術士、電気通信主任技術者(伝送交換)

主な業績

●電気通信事業に関連するシステムの設計・開発・運用、大規模企業経営システム導入におけるプロジェクトマネジメント、エキスパートシステムの開発・事業導入

教授/博士(保健科学)

坂本 美香

Sakamoto Mika

- 研究分野** 発達障害作業療法学、地域作業療法学
- 研究項目** 発達障害児の眼球運動に関する研究、特別支援教育、地域における生活支援
- 最終学歴** 首都大学東京大学院(現東京都立大学)保健科学研究科 作業療法学専攻 博士後期課程修了
- 資格** 作業療法士、公認心理師

主な業績

●2007年度日本リハビリテーション医学最優秀論文賞次点●療育における作業療法での眼球運動への取り組みの報告.帝京平成大学紀要.2021.●ペアレントトレーニングの地域療育現場における実践への発展に向けて-文献レビューからの提案- 作業療法.2016.●小児科医によるペアレントトレーニングへの参加報告-作業療法士による実践を目指してのpilot study-.作業療法.2015.●「発達障害児療育モデル事業」への取り組みについて-JSI-Rより効果分析.作業療法. 2014.

研究指導教員紹介

教授/博士(心理学)

松浦 正一

Matsuura Shoichi

- 研究分野** 学校心理学、臨床心理学、心理学の介入、トラウマケア、学校危機における緊急支援
- 研究項目** 学校危機における緊急支援の研修プログラム、教育問題における支援方法の検討
- 最終学歴** 東京成徳大学大学院 心理学研究科 博士後期課程
- 資格** 公認心理師、臨床心理士

主な業績

【受賞】●学校心理学会大会発表賞, 第25回大会, 2023【学会発表】●学校現場における子どものトラウマの理解とチーム学校としての心理支援のあり方について, 日本トラウマティック・ストレス学会第17回大会, 2018【論文】●学校危機における安全教育の促進のための研修プログラムの開発, 安全教育学研究, 2019, 18(1)共著 ●学校危機においてチーム学校が機能するための課題, 聖マリアンナ医学研究誌, 20(95), 2020【著書】●学校心理学事典, 第5巻24項 3段階のチーム援助による校内体制づくり, 第10巻24項プログラム評価(予防), 丸善出版, 2022, 分担執筆

教授/博士(工学)

蜂屋 孝太郎

Hachiya Koutaro

- 研究分野** 情報学、電子工学、診断工学
- 研究項目** 集積回路の設計自動化、乳幼児の発達障害リスク予測、電動車いすの運転支援システム、エッジAIエージェント
- 最終学歴** 早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 博士後期課程修了

主な業績

●Success Rate Improvement of Analog Circuit Topology Generation by Large Reasoning Models (IEEE ASICON '25) ●Acceleration Methods for Finding Measurement Points for Testing Power TSVs in Stacked 3D-IC (ICICT '25) ●Evaluation of Vertical 2D Ranging Sensor in Detecting Steps in Front of Electric Wheelchairs Using Reinforcement Learning (IEEE ICCR '24) ●Harnessing the power of child development records to detect early neurodevelopmental disorders using Bayesian analysis (Acta Paediatr. '24)

教授/博士(理学)

小森 次郎

Komori Jiro

- 研究分野** 地学・地学教育学・地理学・自然災害科学
- 研究項目** 地学・地理教育の手法研究と実践、山岳地域の環境変動、山岳地域の自然災害と防災
- 最終学歴** 東京都立大学大学院 理学研究科 地理科学専攻 博士課程修了

主な業績

【著書】●100万人のフィールドワーカーシリーズ(古今書院・分担執筆) ●実践 統合自然地理学(古今書院・分担執筆) ●気候変動の事典(朝倉書店・分担執筆) ●極圏・雪氷圏と地球環境(二宮書店・分担執筆)【論文】●令和元年東日本台風による多摩川下流の浸水被害(2020.帝京平成大学紀要.単著) ●岩絵の具づくりを通じた子供向けの第四紀学の普及活動(2017.第四紀研究.単著) ●Reconstruction of a phreatic eruption on 27 September 2014 at Ontake volcano, central Japan, based on proximal pyroclastic dens(2016. EPS, 共著)

教授/博士(健康科学)

田宮 慎二

Tamiya Shinji

- 研究分野** 柔道整復学、保健医療教育
- 研究項目** 外傷における整復・固定、保健医療職における初年次教育
- 最終学歴** 帝京平成大学大学院 健康科学研究科 博士課程修了
- 資格** 柔道整復師、はり師、きゅう師

主な業績

●運動器疾患ワークブック/医歯薬出版株式会社/2012年4月/共著 ●柔道整復師イノベーション臨床編/メジカルビュー /2013年7月/共著 ●東洋医学整復・手技の教科書/新星出版社/2017年4月/共著 ●柔道整復学科における初年次のキャリア教育アンケート調査の分析を通して-/日本柔道整復接骨医学会(原著)/2015年3月/共著(筆頭) ●クリニカルレクチャー柔道整復実践技術/メジカルビュー社/2019年3月/共著

教授/博士(情報科学)

後藤 哲史

Goto Tetsuji

- 研究分野** 知能情報学、健康・医療情報学
- 研究項目** 人工知能、診断と推論、認知と言語
- 最終学歴** 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科博士課程
- 資格** 電気通信主任技術者(第一種伝送交換)、情報処理技術者(第一種、ネットワークスペシャリスト、データベース、システムアナリスト)

主な業績

【論文】●ニューラルネットワークの可視化による 軽度認知障害者の言語特性の解明, 生体医工学, vol. 63, 2025. 単著 ●A hierarchical neural network model for Japanese toward detecting mild cognitive impairment, Electronics and Communications in Japan, vol. 106, Wiley, 2023. 単著 ●軽度認知障害者のスクリーニングに向けた階層型ニューラルネットワークモデルの提案, 電気学会論文誌, vol. 143, 2023. 単著 ●Dynamic Epistemic Reasoning with Awareness and Its Legal Application, Vietnam Journal of Computer Science, vol. 6, 2019. 共著

教授/博士(工学)

遠藤 和紀

Endo Kazuki

- 研究分野** 画像認識
- 研究項目** 劣化のあるデジタル画像の認識性能向上
- 最終学歴** 東京工業大学 工学院 システム制御系 システム制御コース 博士後期課程修了
- 資格** 宅地建物取引士、応用情報技術者試験合格

主な業績

【受賞】●インタラクティブセッション・オーディエンス賞, 画像センシング技術研究会 第26回画像センシングシンポジウム, 2020【論文】●Data augmentation technique for degraded images without losing the classification ability of clean images, Journal of Electronic Imaging 33(2), 2024(単著) ●Semantic Segmentation of Degraded Images Using Layer-Wise Feature Adjustor, IEEE/CVF Winter Conference on Applications of Computer Vision (WACV2023) 3205-3213, 2023(共著)

研究指導教員紹介

教授/博士(理工学)、博士(医学)

東郷 好美

Togo Konomi

- 研究分野** 外科学一般(人工臓器学)、腎臓内科学(人工透析学)
- 研究項目** 血液透析膜の生体適合性
- 最終学歴** 法政大学 理工学研究科 応用化学専攻 博士後期課程
- 資格** 臨床工学技士、看護師

主な業績

【賞】●日本体外循環技術医学会論文賞, 2017:成人ECMO用ダブルルーメンカテーテルの大動物モデルにおける酸素化と脱炭酸ガス化評価【著書】●ダイアライザ, ヘモダイアフィルタの生体適合性/クリニカルエンジニアリング/2021
【論文】●Blood Compatibility in Various Hemodialysis Membrane Materials: A Review/2021 ●Comparison of blood compatibility in various membrane materials for continuous renal replacement therapy/2020

教授/博士(工学)

狩野 朋子

Kano Tomoko

- 研究分野** 建築学、観光学
- 研究項目** 世界遺産と防災、レジリエントな観光まちづくり、アジアの歴史地区における防災計画
- 最終学歴** 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 博士課程修了

主な業績

【受賞】●14th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA) 「ISAIA Academic Oral Session Award」2024 ●都市住宅学会全国博士論文コンテスト「優秀賞」2008 ●第20回すまい・まちづくり設計競技「国土交通大臣賞」2003【著書】●文化遺産と防災のレッスン:レジリエントな観光のために(編著)新曜社2022 ●Investing in disaster risk reduction for resilience(共著)ELSEVIER, 2022【論文】●Simulating the Disaster Imagination Game (DIG) and Developing the Application in the Firuzaga Neighborhood, Istanbul - A Workshop with Local Volunteers(共著)立命館大学歴史都市防災論文集Vol.17, 2023【作品】●Letters from Matsu, 馬祖国際藝術島-Matsu Biennial 2025(参加アーティスト)

教授/博士(工学)

吉岡 剛志

Yoshioka Tsuyoshi

- 研究分野** 数理科学、知能情報学
- 研究項目** データ駆動型数理科学、応用機械学習
- 最終学歴** 早稲田大学大学院 先進理工学研究科 ナノ理工学専攻 博士後期課程修了

主な業績

【論文】●Valuation of Intangible Fixed Assets Using Generative Artificial Intelligence and Machine Learning, Journal of Management Science, 13, 2024. ●Proposal to Integrate Data Science into Management Accounting Using Generative AI, Journal of Management Science, 14, 2025. ●Artificial Intelligence Decision Support Framework Integrating Explainable AI, Fairness, and Optimization Technologies, Business Management Studies, 21, 2025. ●Sustainable Data-driven Framework and Policy Recommendations for Enhancing Sports Promotion Using Generative and Explainable Artificial Intelligence, Journal of Physical Education and Sports, 25(3), 2025. 【受賞】●Incentive Award for Poster Presentation, International Conference on Mathematical Modeling and Applications 2016. ●日本経営学会連合賞, 日本経営学会連合, 2017.

准教授/博士(情報学)

松崎 晴康

Matsuzaki Haruyasu

- 研究分野** 人間情報学、人間医工学、脳科学
- 研究項目** 生体情報、医療情報、脳機能計測・非侵襲的脳活動計測、運動情報
- 最終学歴** 帝京平成大学大学院 情報学研究科 情報学専攻 博士課程

主な業績

【受賞】●第5回日本認知症予防学会学術集会「浦上賞」, 2015 ●「日本臨床神経生理学会第18回優秀論文賞」, 2016【著書】●Dementia with Lewy Bodies「Electroencephalography in DLB」, Springer, 2016【論文】●Static γ -motoneurons couple group Ia and II afferents of single muscle spindles in anaesthetized and decerebrate cats., 2002. ●EEG Markers for Characterizing Anomalous Activities of Cerebral Neurons in NAT (Neuronal Activity Topography) Method., 2013.

准教授/博士(工学)

石川 尋代

Ishikawa Hiroyo

- 研究分野** 情報の表現、ビジュアライゼーション、ヒューマンインターフェース・インタラクション
- 研究項目** デジタルコンテンツ間の関係記述とその可視化
- 最終学歴** 慶應義塾大学大学院 理工学研究科開放環境科学専攻
- 資格** 第一種情報処理技術者試験
色彩検定協会認定 色彩講師

主な業績

●多面体認識における心理量と物体像エントロピーの関係について, 電子情報通信学会論文誌, 2003 ●レーザブラズマ式3Dディスプレイにおける点列を用いた物体表現, 映像情報メディア学会会誌, 2009 ●Polymorphic Cataloguing and Interactive 3D Visualization for Multiple Context of Digital Content: MoSaLC, Lecture Notes in Computer Science, 2018 ●図書展示データの多様性を可視化するMoSaLCの提案, 記録管理学会誌, 2019 ●コンピュータビジョン最先端ガイド2 共著, アドコムメディア株式会社, 2010

准教授/博士(理学)

米澤 直記

Yonezawa Naoki

- 研究分野** 情報学
- 研究項目** 並列処理
- 最終学歴** 筑波大学 工学研究科 電子・情報工学専攻 博士課程 中途退学

主な業績

●PROBABILISTIC ANALYSIS OF LOAD-IMBALANCED PARALLEL APPLICATIONS WITH PARTIALLY ELIMINATED BARRIERS/Journal of the Operations Research Society of Japan, 58-2, 149-164/共著/2015.04

研究指導教員紹介

准教授/博士(社会科学)

知脇 希

Chiwaki Nozomi

- 研究分野** リハビリテーション科学(理学療法学)、ジェンダー(経済・労働)
- 研究項目** 就業継続の分析、在宅生活継続に寄与する要因の分析、地域在住高齢者の健康
- 最終学歴** お茶の水女子大学大学院 人間文化創生科学研究科 ジェンダー学際研究専攻 博士後期課程修了
- 資格** 理学療法士、介護支援専門員

主な業績

【著書】●PT・OTビジュアルテキスト国際リハビリテーション学共著【論文】●介護職の仕事の満足度と離職意向-介護福祉士資格とサービス類型に注目して-/国立社会保障・人口問題研究所、季刊社会保障研究45(4)p444-457/単著/2010.03 ●独居多系統萎縮症男性の在宅生活継続の要因-病状の進行に伴う生活環境の対応/医学書院、訪問看護と介護 16(12)p1026-1031/共著/2011.12 ●未婚の子の就業と親介護/生活社会科学研究/単著/2016.11

准教授/博士(保健学)

芳野 純

Yoshino Jun

- 研究分野** 医療者教育学、理学療法学
- 研究項目** 理学療法士の卒前卒後教育、協働学習の効果、インタビュー調査による質的研究
- 最終学歴** 群馬大学大学院保健学研究科 保健学専攻 博士後期課程修了
- 資格** 理学療法士

主な業績

【受賞】●第48回日本理学療法学会大会、優秀賞
【著書】●ケースで学ぶ理学療法臨床思考、文光堂、共著、2019年
【論文】●The Reliability and Validity of the Clinical Competence Evaluation Scale in Physical Therapy, Journal of Physical Therapy Science, 共著、2013年 ●理学療法士の臨床能力の難易度と経年的変化に関する研究:一多施設調査による縦断研究-理学療法科学, 単著、2021年 ●理学療法教育領域で活かす質的研究の方法とその魅力、理学療法教育, 単著、2023年

准教授/博士(工学)

小林 領

Kobayashi Ryo

- 研究分野** 数値解析
- 研究項目** 精度保証付き数値計算
- 最終学歴** 早稲田大学 大学院基幹理工学研究科 数学応用数理専攻 博士後期課程修了

主な業績

【論文】●A method for verifying the accuracy of numerical solutions of symmetric saddle point linear systems, Numerical Algorithms, Volume.76, Issue.1, pp.33--51, November 2016. ● Verified Inclusion of a Basis of the Null space, Reliable Computing, Vol.27, pp. 26-41, 23 July, 2020.
【著書】●AIデータサイエンスリテラシー入門, 株式会社技術評論社, 2022/10/01.

准教授/博士(鍼灸学)

皆川 陽一

Minakawa Yoichi

- 研究分野** 東洋医学(鍼灸)
- 研究項目** 筋痛疾患に対する鍼灸治療の効果、トリガーポイントに関する研究
- 最終学歴** 明治国際医療大学大学院 鍼灸学研究科 博士後期課程修了
- 資格** はり師、きゅう師

主な業績

●Trigger Point Acupuncture and Exercise for Chronic Low Back Pain in Older Adult: a Preliminary Randomized Clinical Trial. J Acupunct Meridian Stud. 2022. ●Effects of Acupuncture Therapy on Drug-Resistant Fibromyalgia: An Exploratory Single-Arm Nonrandomized Trial. Med Acupunct. 2022. ● Managing office worker presenteeism by providing financial aid for acupuncture therapy: a pragmatic multicenter randomized comparative study. Ind Health. 2022. ●Clinical effectiveness of trigger point acupuncture on chronic neck and shoulder pain (katakori) with work productivity loss in office workers: a randomized clinical trial. J Occup Health. 2024.

学費

■2026年度 納付金

(単位:円)

区分			通学 キャンパス	入学金	授業料	施設設備整備費	学生傷害保険料	合計(入学手続時)	
				入学時のみ	半期分 (年額)	半期分 (年額)	入学時のみ	半期分 納付の場合	年額 納付の場合
薬学研究科	博士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	3,300	683,300	1,163,300
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	3,300	483,300	963,300
情報科学研究科	修士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	681,750	1,161,750
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	481,750	961,750
	博士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	682,600	1,162,600
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	482,600	962,600
経営学研究科*	修士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	681,750	1,161,750
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	481,750	961,750
健康科学研究科	修士課程	学外出身者	池袋	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	681,750	1,161,750
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	481,750	961,750
	博士課程	学外出身者	池袋	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	682,600	1,162,600
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	482,600	962,600
臨床心理学 研究科	専門職 学位課程	学外出身者	池袋	200,000	380,000 (760,000)	210,000 (420,000)	1,750	791,750	1,381,750
		学内出身者			380,000 (760,000)	210,000 (420,000)	1,750	591,750	1,181,750
看護学 研究科	修士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	681,750	1,161,750
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	1,750	481,750	961,750
	博士課程	学外出身者	中野	200,000	380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	682,600	1,162,600
		学内出身者			380,000 (760,000)	100,000 (200,000)	2,600	482,600	962,600

*学内出身者は入学金を免除します。●教科書等については、別途費用がかかります。

■社会人入学者で、通常4年のところ5年かけて修了したいと希望する者(授業料4年分を概ね5等分)

(単位:円)

区分			通学 キャンパス	入学金	授業料	施設設備整備費	学生傷害保険料	合計(入学手続時)	
				入学時のみ	半期分 (年額)	半期分 (年額)	入学時のみ	半期分 納付の場合	年額 納付の場合
薬学研究科	博士課程	学外出身者	中野	200,000	304,000 (608,000)	100,000 (200,000)	4,050	608,050	1,012,050
		学内出身者				304,000 (608,000)	100,000 (200,000)	4,050	408,050

*学内出身者は入学金を免除します。●教科書等については、別途費用がかかります。

●2年次～5年次納付金(年額):808,000円(授業料:608,000円、施設設備整備費:200,000円)

上記の長期履修学生制度を希望する場合、出願時のみ受付となり、途中で変更はできません。

※2026年度新設予定。

■社会人入学者で、通常2年のところ3年かけて修了したいと希望する者(授業料2年分を概ね3等分)

(単位:円)

区分			通学 キャンパス	入学金	授業料	施設設備整備費	学生傷害保険料	合計(入学手続時)	
				入学時のみ	半期分 (年額)	半期分 (年額)	入学時のみ	半期分 納付の場合	年額 納付の場合
情報科学研究科	修士課程	学外出身者	中野	200,000	260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	562,600	922,600
		学内出身者			260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	362,600	722,600
経営学研究科*	修士課程	学外出身者	中野	200,000	260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	562,600	922,600
		学内出身者			260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	362,600	722,600
健康科学研究科	修士課程	学外出身者	池袋	200,000	260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	562,600	922,600
		学内出身者			260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	362,600	722,600
臨床心理学研究科	専門職 学位課程	学外出身者	池袋	200,000	260,000 (520,000)	210,000 (420,000)	2,600	672,600	1,142,600
		学内出身者			260,000 (520,000)	210,000 (420,000)	2,600	472,600	942,600
看護学研究科	修士課程	学外出身者	中野	200,000	260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	562,600	922,600
		学内出身者			260,000 (520,000)	100,000 (200,000)	2,600	362,600	722,600

*学内出身者は入学金を免除します。●教科書等については、別途費用がかかります。

●2年次、3年次納付金(年額):情報科学研究科・経営学研究科*・健康科学研究科・看護学研究科:700,000円(授業料:500,000円、施設設備整備費:200,000円)

臨床心理学研究科(専門職学位課程):920,000円(授業料:500,000円、施設設備整備費:420,000円)

■社会人入学者で、通常3年のところ4年かけて修了したいと希望する者(授業料3年分を概ね4等分)

(単位:円)

区分			通学 キャンパス	入学金	授業料	施設設備整備費	学生傷害保険料	合計(入学手続時)	
				入学時のみ	半期分 (年額)	半期分 (年額)	入学時のみ	半期分 納付の場合	年額 納付の場合
情報科学研究科	博士課程	学外出身者	中野	200,000	285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	588,300	973,300
		学内出身者			285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	388,300	773,300
健康科学研究科	博士課程	学外出身者	池袋	200,000	285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	588,300	973,300
		学内出身者			285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	388,300	773,300
看護学研究科	博士課程	学外出身者	中野	200,000	285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	588,300	973,300
		学内出身者			285,000 (570,000)	100,000 (200,000)	3,300	388,300	773,300

*学内出身者は入学金を免除します。●教科書等については、別途費用がかかります。

●2年次～4年次納付金(年額):情報科学研究科・健康科学研究科・看護学研究科:770,000円(授業料:570,000円、施設設備整備費:200,000円)

上記の長期履修学生制度を希望する場合、出願時のみ受付となり、途中で変更はできません。

■通信制大学院

(単位:円)

区分			キャンパス	入学金	授業料	施設設備整備費	合計(入学手続時)	
				入学時のみ	半期分(年額)	半期分(年額)	半期分納付の場合	年額納付の場合
情報科学研究科 (通信制)	修士課程	中野	200,000	275,000 (550,000)	75,000 (150,000)	550,000	900,000	

*スクーリング受講料及び学生傷害保険費は、授業料に含まれます。●教科書等については、別途費用がかかります。

※2026年度新設予定。

2026年度 帝京平成大学大学院 入学者選抜日程

研究科	専攻・分野	学位	募集人員	試験区分	出願期間 (出願期間内必着)	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験会場						
薬学研究科	薬学専攻	博士	5名 (社会人枠含)	I期	2025年 9月16日(火) } 10月3日(金)	2025年 10月19日(日)	2025年 11月1日(土)	2025年 11月8日(土)	池袋キャンパス						
情報科学研究科	情報科学専攻 社会情報学分野 健康情報学分野	修士	25名 (社会人枠含)												
	情報科学専攻	博士	5名 (社会人枠含)												
経営学研究科※	経営学専攻※	修士	20名 (社会人枠含)												
健康科学研究科	鍼灸学専攻	修士	3名 (社会人枠含)												
	柔道整復学専攻		3名 (社会人枠含)												
	健康栄養学専攻		3名 (社会人枠含)												
	言語聴覚学専攻		3名 (社会人枠含)												
	作業療法学専攻		3名 (社会人枠含)												
	理学療法学専攻		3名 (社会人枠含)												
	病院前救急医療学専攻	3名 (社会人枠含)													
	臨床心理学専攻	博士	2名 (社会人枠含)												
	健康科学専攻 鍼灸学分野 柔道整復学分野 健康栄養学分野 言語聴覚学分野 作業療法学分野 理学療法学分野 病院前救急医療学分野	博士	全分野で5名 (社会人枠含)												
看護学研究科	看護学専攻	修士	3名	II期	2026年 1月29日(木) } 2月13日(金)	2026年 3月7日(土)	2026年 3月10日(火)	2026年 3月17日(火)	池袋キャンパス						
	看護学専攻	博士	3名												
研究科	専攻・分野	学位	募集人員							試験区分	出願期間 (出願期間内必着)	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験会場
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	専門職 学位	15名 (社会人枠含)							I期	2025年 7月25日(金) } 8月6日(水)	2025年 8月22日(金)	2025年 8月27日(水)	2025年 9月3日(水)	池袋キャンパス
										II期	2025年 9月16日(火) } 10月3日(金)	2025年 10月18日(土)	2025年 11月1日(土)	2025年 11月8日(土)	
										III期	2026年 1月5日(月) } 1月16日(金)	2026年 1月27日(火)	2026年 2月1日(日)	2026年 2月7日(土)	
										IV期	2026年 2月4日(水) } 2月18日(水)	2026年 3月7日(土)	2026年 3月10日(火)	2026年 3月17日(火)	
研究科	専攻・分野	学位	募集人員							試験区分	出願期間 (出願期間内必着)	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験会場
情報科学研究科 (通信制)	情報科学専攻 社会情報学分野 健康情報学分野	修士	50名							前期 (4月1日付入学)	2026年 1月29日(木) } 2月13日(金)	2026年 3月7日(土)	2026年 3月10日(火)	2026年 3月17日(火)	池袋キャンパス
										後期 (10月1日付入学)	日程は決まり次第ホームページで公表				

※2026年度新設予定。



TEIKYO

建学の精神

基本理念

使命・目的

沿革

建学の精神

実学の精神を基とし
幅広い知識と
専門分野における
実践能力を身につけ
創造力豊かな逞しい
人間愛にあふれた
人材を養成する

大学の使命・目的

帝京平成大学は建学の精神に則り、広く知識を授け人格の陶冶を図るとともに、深く専門の学術を教授・研究し、国際的視野に立って日本の発展に貢献できる有為な人材を養成することを目的とする。

沿革

1986年 12月	●千葉県市原市に学校法人帝京技術科学学園設立。
1987年 4月	●帝京技術科学大学開学。
1992年 4月	●帝京技術科学大学大学院情報学研究科情報学専攻修士課程開設。
1994年 4月	●帝京技術科学大学大学院情報学研究科情報学専攻博士後期課程(現・博士課程)開設。
1995年 4月	●学校法人帝京技術科学学園を学校法人帝京平成大学に名称変更。 ●帝京技術科学大学を帝京平成大学に名称変更。
2000年 4月	●帝京平成大学大学院情報学研究科情報学専攻修士課程(通信制)開設。
2005年 4月	●帝京平成大学大学院健康情報科学研究科健康情報科学専攻博士前期・後期課程(現・修士・博士課程)開設。
2007年 4月	●帝京平成大学大学院健康情報科学研究科臨床心理学専攻博士前期・後期課程開設。
2008年 4月	●東京都豊島区に帝京平成大学池袋キャンパス開設。 ●帝京平成大学大学院健康情報科学研究科を健康科学研究科に名称変更。
2011年 4月	●帝京平成大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻(専門職学位課程)開設。
2012年 4月	●帝京平成大学大学院薬学研究科薬学専攻(博士課程)、健康科学研究科健康栄養学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻、はり灸学専攻、柔道整復学専攻(修士課程)開設。
2013年 4月	●東京都中野区に帝京平成大学中野キャンパス開設。 ●帝京平成大学大学院情報学研究科情報学専攻(修士・博士課程)を環境情報学研究科環境情報学専攻(修士・博士課程)に名称変更。
2014年 4月	●帝京平成大学大学院健康科学研究科言語聴覚学専攻(修士課程)、病院前救急医療学専攻(修士課程)開設。
2017年 4月	●帝京平成大学大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)開設。 ●帝京平成大学大学院健康科学研究科はり灸学専攻(修士課程)を鍼灸学専攻(修士課程)に名称変更。
2023年 4月	●帝京平成大学大学院看護学研究科看護学専攻(博士課程)開設。
2025年 4月	●帝京平成大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻修士・博士課程を情報科学研究科情報科学専攻修士・博士課程に名称変更。 ●帝京平成大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻修士課程(通信制)を情報科学研究科情報科学専攻修士課程(通信制)に名称変更。

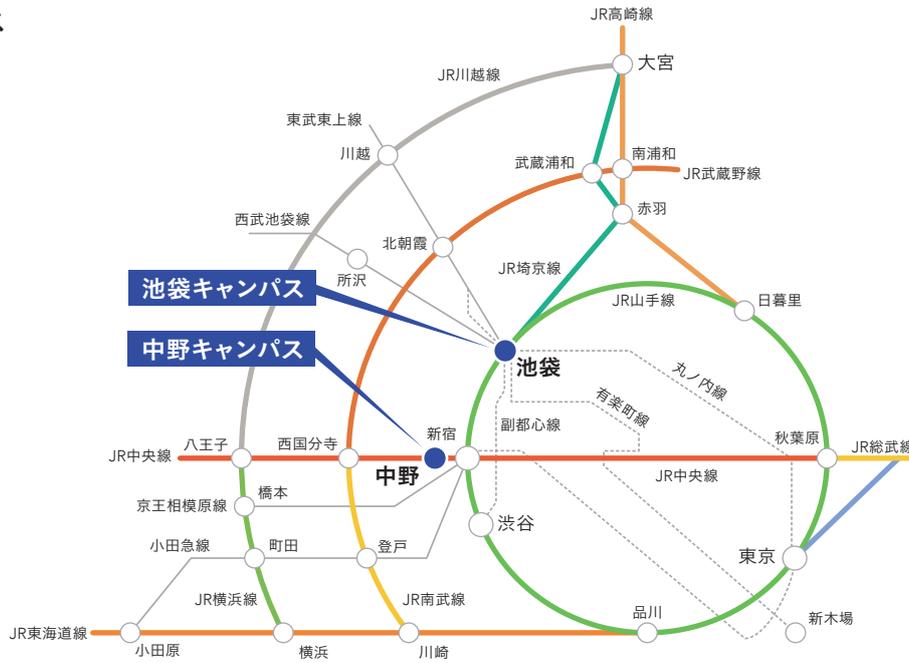
帝京平成大学の基本理念

- 1 人文・社会科学と自然科学に均整のとれた教養教育を通して人間愛を培い、広聴心を涵養し、専門的能力を人類の幸福・福祉のために的確に適用できる健全な人格を養成する。
- 2 自立と不撓不屈の精神を養い、実学的に幅広く高度な専門知識と学際的な問題解決能力を備え、創造性に富む人材を育成する。
- 3 専門の学術を深く研究して成果を世界的に発信するとともに、大学の人材、施設を活用して地域社会との交流と貢献に努め、人類の発展に寄与する。

大学院の使命・目的

帝京平成大学大学院は建学の精神に則り、情報科学、健康科学、臨床心理学、薬学及び看護学に関する学理及び応用を教授・研究し、その深奥をきわめ、広く国際的視野に立って社会の発展に貢献できる有為な人材を養成し、以って文化・医療の進展に寄与することを目的とする。

交通アクセス



池袋キャンパス



【MiNoRiセントラル】

〒170-8445 東京都豊島区東池袋2-51-4
TEL 03-5843-3111

- 『池袋駅』東口から徒歩12分
- 『東池袋駅』2番出口から徒歩10分
- 『向原』から徒歩10分

【MiNoRiラボ】

〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-26-10

- 『池袋駅』東口から徒歩10分
- 『東池袋駅』2番出口から徒歩5分
- 『東池袋四丁目』から徒歩8分

中野キャンパス



〒164-8530 東京都中野区中野4-21-2

TEL 03-5860-4711(代表)

- 『中野駅』北口から徒歩9分

 帝京平成大学 大学院

<https://www.thu.ac.jp/univ/grads>

入試相談 ☎ 0120-918-392 入試部 ☎ 03-5843-3200



 帝京平成大学 通信教育部

<https://tsushin.thu.ac.jp/graduate/index.html>

通信教育部 ☎ 03-5860-4728

